

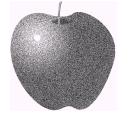
活力豊かな
住環境都市
なみおか

平成 15 年 3 月

浪岡町都市計画マスタープラン



浪岡町都市計画マスタープラン



《目次》

	ページ
序章 概要-----	1
序 - 1 都市計画マスタープランの概要	1
序 - 2 対象区域、目標年次	2
序 - 3 マスタープランの策定手順	2
第1章 町の現況-----	3
1 - 1 位置的条件	3
1 - 2 人口・世帯	4
1 - 3 産業動向	7
1 - 4 土地利用	10
1 - 5 都市施設	14
1 - 6 その他	16
第2章 住民意向調査-----	19
2 - 1 住民アンケート調査の概要	19
2 - 2 設問と集計結果	20
第3章 まちづくりの主要課題-----	49
3 - 1 時代の潮流を踏まえたまちづくりの課題	49
3 - 2 まちづくりの課題の設定	51
第4章 将来目標の設定-----	55
4 - 1 上位計画の整理	55
4 - 2 都市づくりの理念、目標	58
4 - 3 将来フレーム	64
4 - 4 将来都市構造	65
第5章 全体構想-----	71
5 - 1 土地利用	71
5 - 2 交通体系	75
5 - 3 都市施設	78
5 - 4 その他の施設	78
5 - 5 都市景観	79
5 - 6 都市防災	79
第6章 地域別構想-----	81
6 - 1 地域区分	81
6 - 2 地域別構想	83
1 浪岡地域の構想	83
2 女鹿沢地域の構想	89
3 野沢地域の構想	95
4 大杉地域の構想	101
5 五郷地域の構想	107
第7章 実現化の方策-----	111
7 - 1 町全体で受け止めていく方策	111
7 - 2 個別の地域での事業展開の方策	113
参考資料-----	117



序章 概要

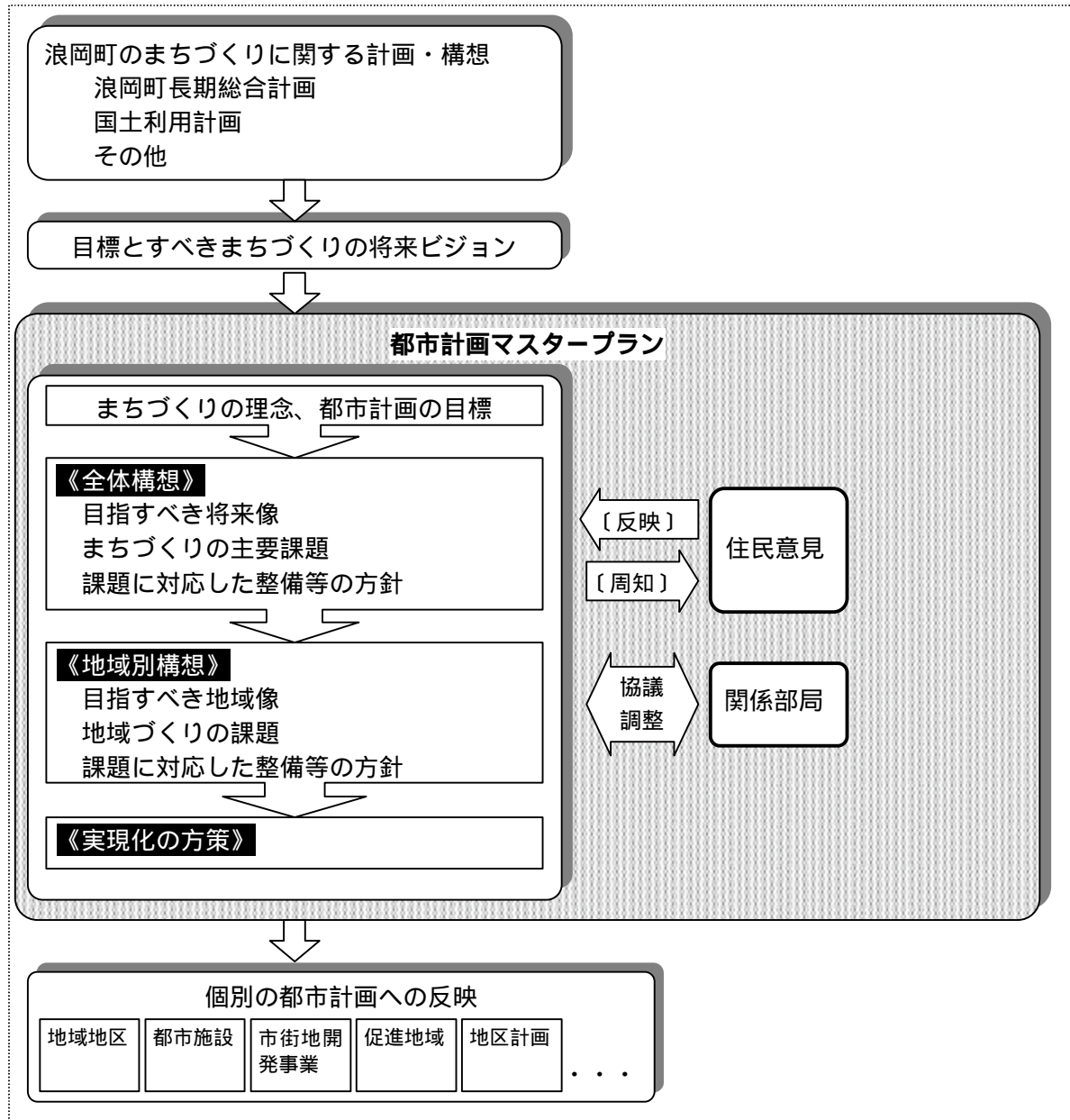


序 - 1 都市計画マスタープランの概要

都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針等を定めるものであり、長期的・総合的な視点から市町村自らが住民の意向を十分に取込んだ将来のあるべき姿を描き、その実現に向けて土地利用、道路・公園等の都市施設、市街地開発事業等の整備方針を明らかにするものである。

また、都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に基づき、浪岡町長期総合計画、浪岡町国土利用計画に即し、将来の都市づくりの方向性を示す計画としての位置づけがなされている。

図 都市計画マスタープランの体系



序 - 2 対象区域、目標年次

(1) 都市計画マスタープランの対象区域

都市計画マスタープランの対象区域は、浪岡町の都市計画区域全域を対象とする。また必要に応じて、行政区域を対象として加える。

(2) 目標年次

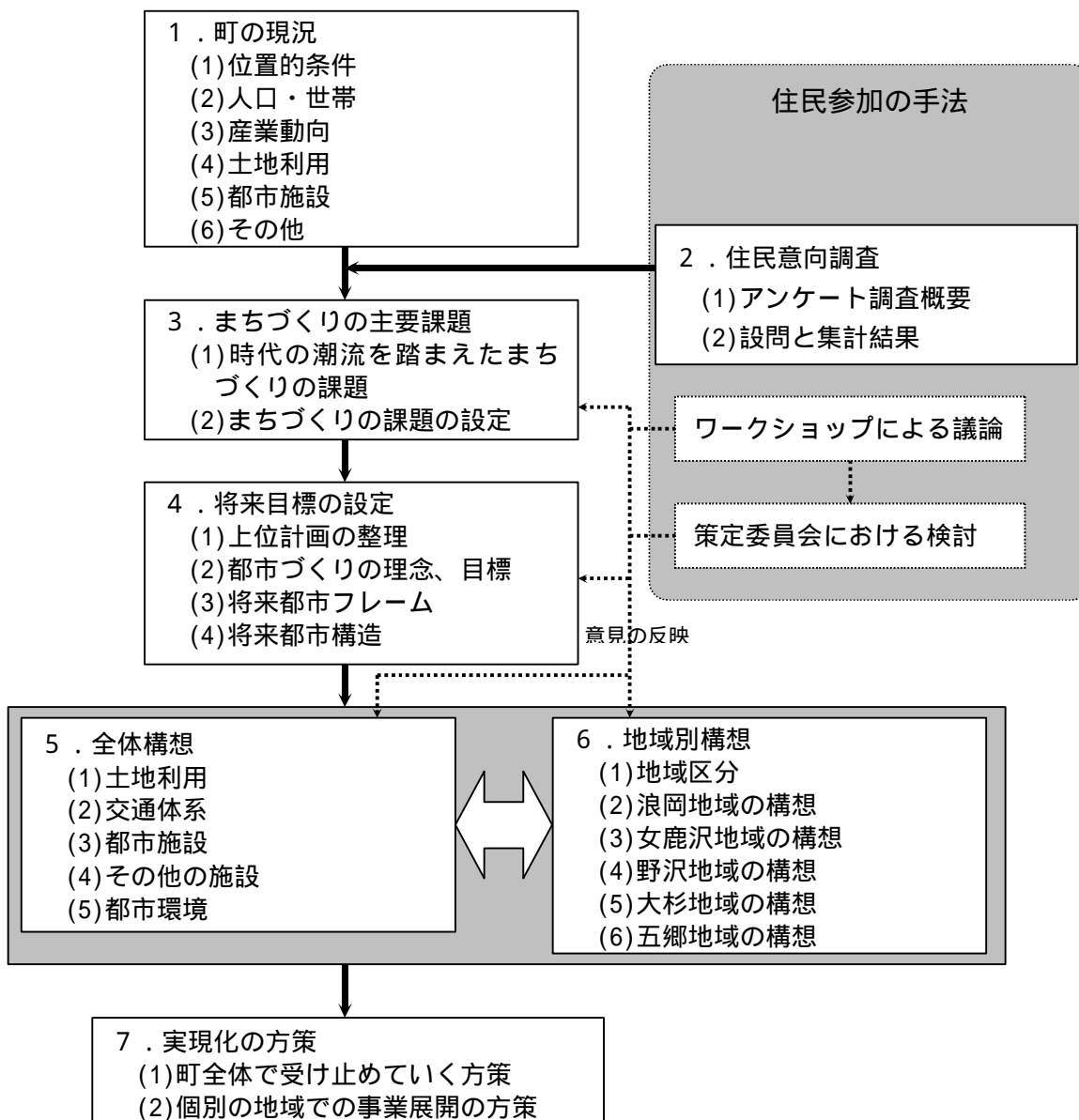
本都市計画マスタープランの目標年次は、概ね 20 年後の将来像の実現を目指すことを基本とする。ただし、本都市計画マスタープランでは、目標年次にとらわれることなく長期的な展望に立ち、住民の意見を踏まえて『将来の浪岡町のあるべき姿』を盛り込んだプランを策定した。

なお、今後の社会情勢の変化や住民意識の変化などに柔軟に対応していくため、必要に応じて計画の見直し(ローリング)を行っていくものとする。

序 - 3 都市計画マスタープランの策定手順

都市計画マスタープランの策定手順は、次のとおりである。

図 都市計画マスタープラン策定フロー





第1章 町の現況



1 - 1 位置的条件

(1) 広域的な位置条件

青森県のほぼ中央、津軽平野の東端に位置する。

広域的な生活圏は、弘前市、黒石市をはじめとする2市7町5村で構成される『津軽広域市町村圏』に位置する。

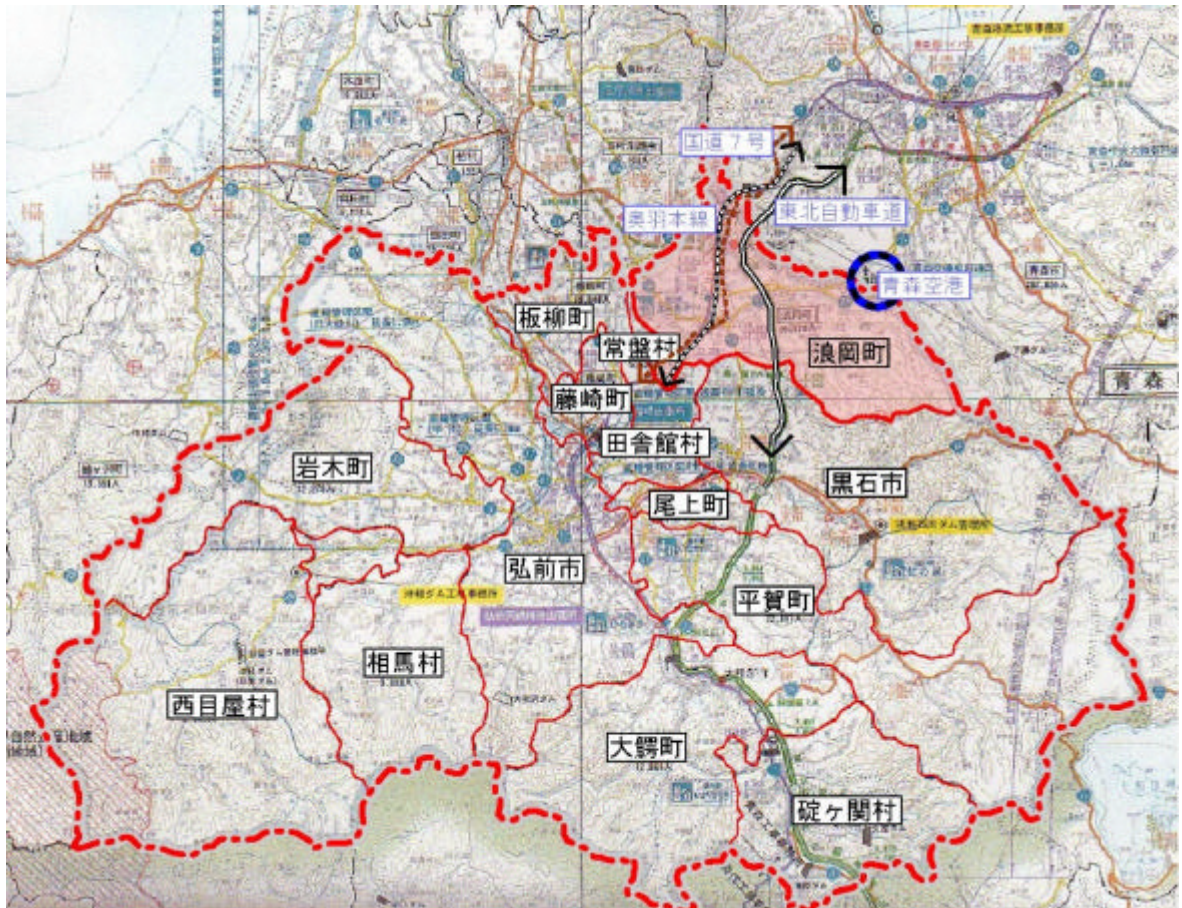
青森市の中心地からはおよそ25 km程度、弘前市の中心地からはおよそ15 km程度の距離に位置する。

(2) 広域的な交通条件

町の中央部を南北方向にJR奥羽本線、国道7号、東北縦貫自動車道が通っている。また、平成14年11月には東北自動車道浪岡I.Cから西津軽地域を結ぶ津軽自動車道が五所川原市まで開通している。

町の北東部には青森空港が位置している。

図 浪岡町の位置



1 - 2 人口・世帯

(1) 人口の変化

本町の人口はこの10年間、あまり変化していない状況にある。

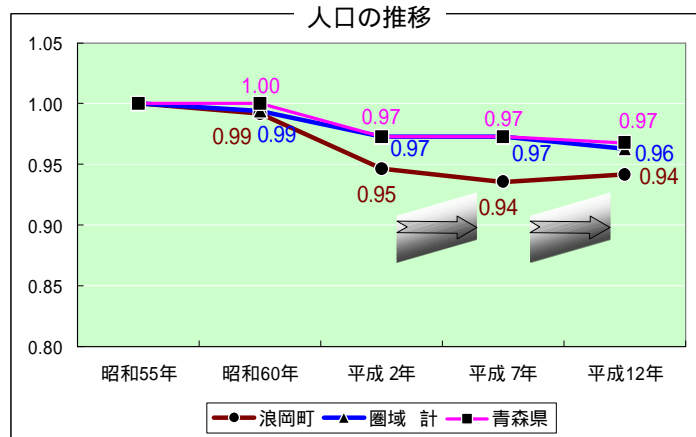
平成12年国勢調査によると、本町の人口は20,873人で、昭和55年当時と比較すると1,301人、5.9%減少している。

表 - 総人口の推移

	浪岡町		圏域計		青森県	
	人口(人)	増減比	人口(人)	増減比	人口(人)	増減比
昭和55年	22,174	-	360,378	-	1,523,907	-
昭和60年	22,002	-0.8%	358,057	-0.6%	1,524,448	0.0%
平成2年	20,974	-4.7%	350,603	-2.1%	1,482,873	-2.7%
平成7年	20,750	-1.1%	350,366	-0.1%	1,481,633	-0.1%
平成12年	20,873	0.6%	346,947	-1.0%	1,475,728	-0.4%

平成2年からの10年間は平成7年までは微減、平成12年には微増の傾向を示しており、ほとんど変わらない状況にある。

青森県及び圏域の人口は、ゆるやかに減少している。



(国勢調査)

(2) 年齢別人口の変化

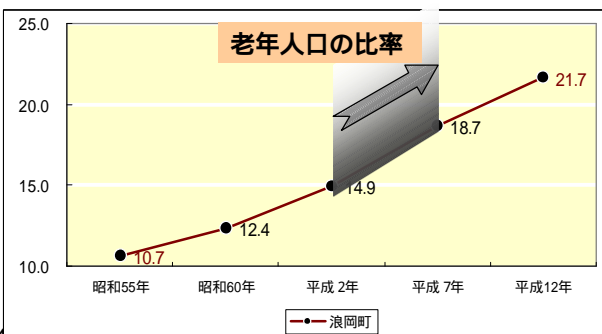
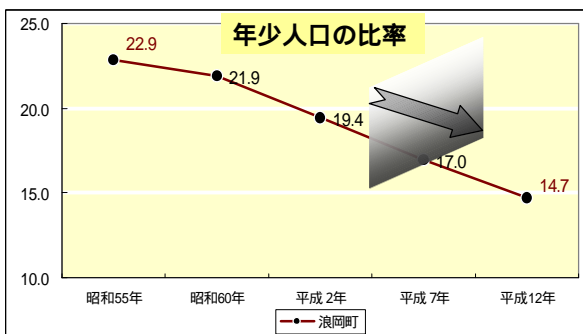
15歳未満の年少人口は減少し、その一方で65才以上の老年人口は増加する『少子高齢社会』を迎えている。

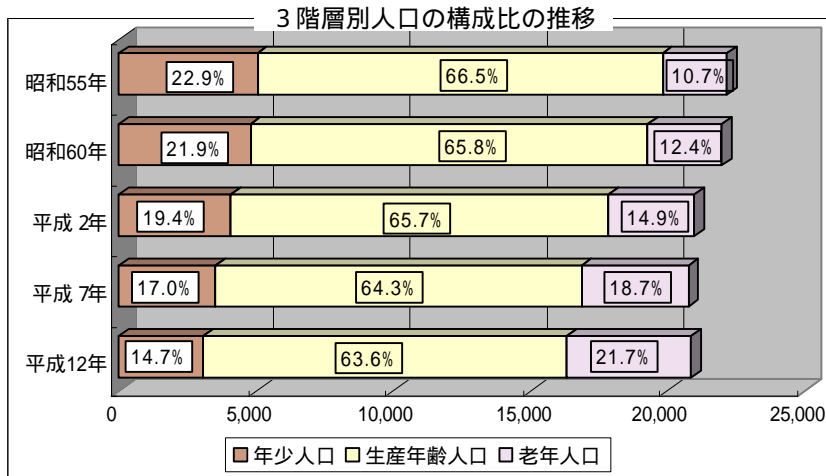
平成12年国勢調査によると年少人口比率は14.7%であり、昭和55年以降減少傾向にある。老年人口の比率は21.7%で、平成2年以降、増加率が高まっている。

県水準と比較すると年少人口は1ポイント上回り、また老年人口は1.8ポイント下回っている。

表 - 年齢階層別人口の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
	人口(人)	構成比	人口(人)	構成比	人口(人)	構成比
昭和55年	5,067	22.9%	14,740	66.5%	2,367	10.7%
昭和60年	4,815	21.9%	14,468	65.8%	2,719	12.4%
平成2年	4,068	19.4%	13,774	65.7%	3,132	14.9%
平成7年	3,522	17.0%	13,349	64.3%	3,879	18.7%
平成12年	3,072	14.7%	13,259	63.6%	4,514	21.7%
青森県(平12年)	163,095	13.7%	746,252	62.8%	279,764	23.5%





(国勢調査)

(3) 世帯数の変化

世帯数は増加傾向にある。

1世帯当たり人員は減少し、『核家族化』が進展している。

平成12年国勢調査によると世帯数は6,056世帯で、平成2年以降増加傾向を示している。

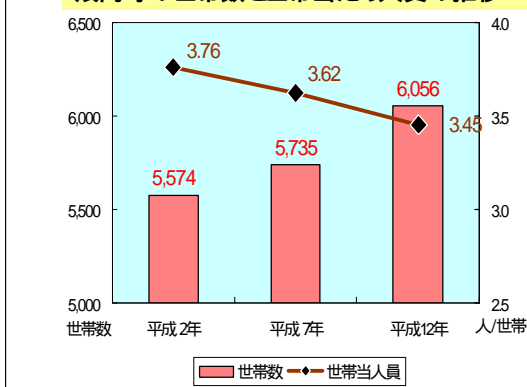
1世帯当たり人員は3.45人/世帯であり、減少傾向を示している。

本町の1世帯当たり人員は、県水準(2.91人/世帯)及び圏域水準(3.08人/世帯)を上回っている。

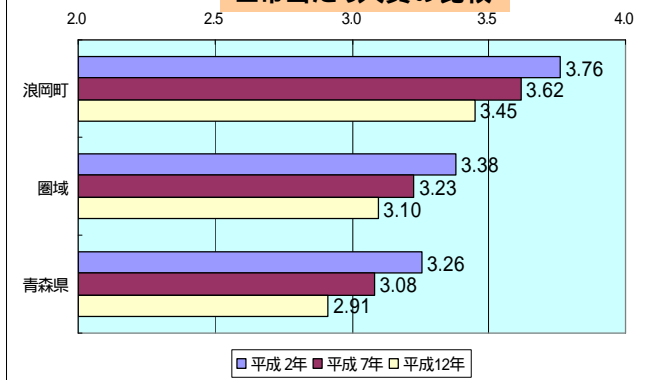
表 - 世帯数

	人口(人)			世帯数(戸)			世帯当たり人員(人/世帯)		
	平成2年	平成7年	平成12年	平成2年	平成7年	平成12年	平成2年	平成7年	平成12年
浪岡町	20,974	20,750	20,873	5,574	5,735	6,056	3.76	3.62	3.45
圏域	350,603	350,366	347,066	103,769	108,547	112,134	3.38	3.23	3.10
青森県	1,482,873	1,481,633	1,475,728	455,304	480,829	506,540	3.26	3.08	2.91

浪岡町の世帯数と世帯当たり人員の推移



世帯当たり人員の比較



(国勢調査)

(4) 産業別の就業人口

第1次産業(農林業就業者)の就業者は、減少している。

第2次産業(製造業、建設業など)の就業者は、平成7年までは増加している。

第3次産業(小売・飲食店、サービス業、公務員など)の就業者は、増加している。

第1次産業就業者の割合は、平成12年現在2,759人(比率25.1%)であり、昭和60年と比べ約1,517人、13.6%減少している。

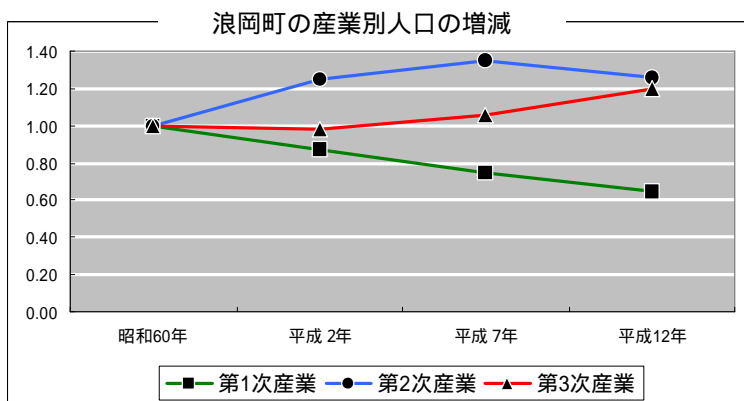
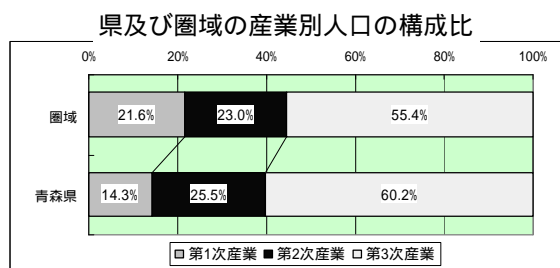
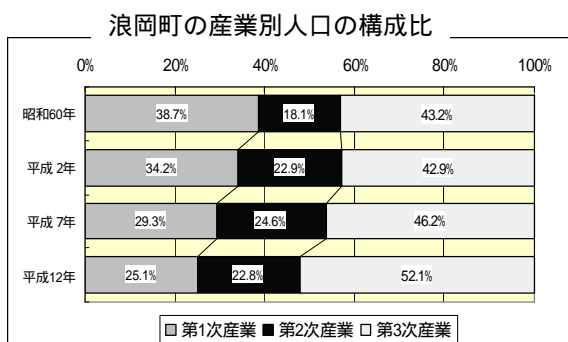
本町の農業従事者の比率は、県平均(比率14.3%)及び圏域平均(21.6%)に比べ、高くなっている。

第2次産業就業者は、平成7年までは増加傾向にあったが、平成12年に減少している。

第2次及び第3次産業就業者の割合は県及び圏域平均を下回っている。

表 - 産業別人口

	昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年	
	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)
第1次産業	4,276	38.7%	3,729	34.2%	3,207	29.3%	2,759	25.1%
第2次産業	1,999	18.1%	2,492	22.9%	2,692	24.6%	2,512	22.8%
第3次産業	4,774	43.2%	4,671	42.9%	5,059	46.2%	5,741	52.1%
計	11,049	100.0%	10,892	100.0%	10,958	100.0%	11,012	100.0%



(国勢調査)

1 - 3 産業動向

(1) 農業の動向

農業粗生産額は、平成6年がピークとなっている。

圏域の農業粗生産額は、県全体の農業粗生産額の1/3以上を占めている。

本町の農業粗生産額は平成6年で大きく増加し、また平成9年には大きく減少している。

本町の農業粗生産額の推移は、圏域の推移と同様の傾向を示している。圏域の農業粗生産額の約9%強を本町が占めている。

県の農業粗生産額は、平成3年をピークに減少傾向にある。

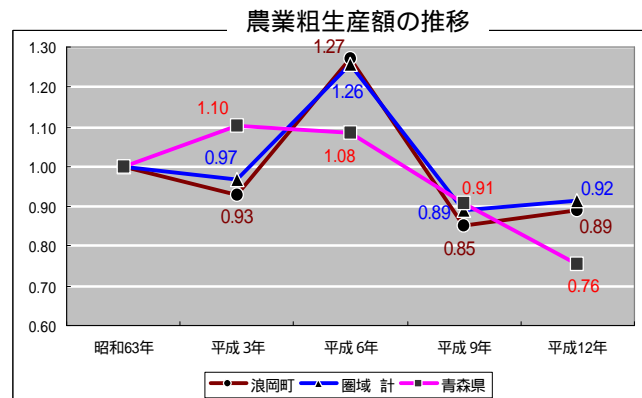


表 - 農業粗生産額

	金額(百万円)			伸び率		
	浪岡町	圏域計	青森県	浪岡町	圏域計	青森県
昭和63年	7,358	76,764	272,319	1.00	1.00	1.00
平成3年	6,840	74,293	300,448	0.93	0.97	1.10
平成6年	9,366	96,504	295,319	1.27	1.26	1.08
平成9年	6,256	68,362	247,350	0.85	0.89	0.91
平成12年	6,550	70,270	205,750	0.89	0.92	0.76

(県農林統計)

(2) 工業の動向

工業は平成6年～平成9年を境に大きく増加している。

従業者数はあまり変化していない。

本町の工業は、製造品出荷額、事業所数、従業者数ともに平成6年まで減少している。平成6年以降、製造品出荷額は大きく増加している。

圏域の工業の動向も本町とほぼ同様の傾向を示している。特に、平成9年から平成12年にかけて製造品出荷額、従業者数は増加しており、今日の産業構造の転換、経済情勢の変化などをよそに成長している。

本町の主産業は、食料品、衣料、窯業・土石となっている。

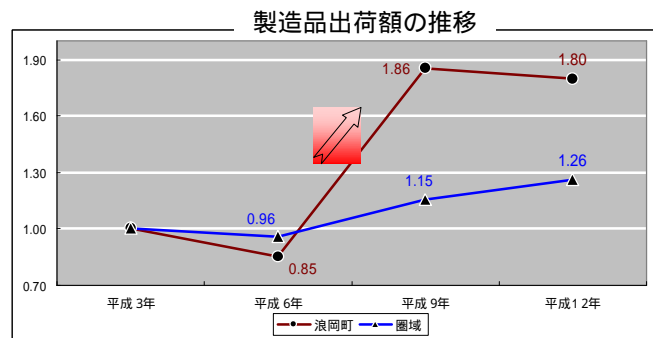


表 - 事業所数・従業者数・製造品出荷額

		平成3年	平成6年		平成9年		平成12年	
				増減		増減		増減
浪岡町	事業所数(所)	27	24	-11.1%	22	-8.3%	24	9.1%
	従業者数(人)	1,258	853	-32.2%	897	5.2%	906	1.0%
	出荷額(百万円)	12,701	10,806	-14.9%	23,585	118.3%	22,830	-3.2%
圏域	事業所数(所)	664	623	-6.2%	584	-6.3%	561	-3.9%
	従業者数(人)	21,374	18,811	-12.0%	18,541	-1.4%	19,420	4.7%
	出荷額(百万円)	228,482	218,631	-4.3%	263,896	20.7%	288,103	9.2%

(工業統計調査)

(3) 商業の動向

本町の商品販売額は、あまり変化がみられない。

店舗は大型化する傾向にある。

本町の商品販売額は、平成3年をピークに減少し、その後はあまり変化がみられない。

本町の店舗数、従業者数は、ともに減少傾向にある。

圏域の商品販売額は増加傾向を示している。

1店舗当たりの従業者数は増加傾向を示している。

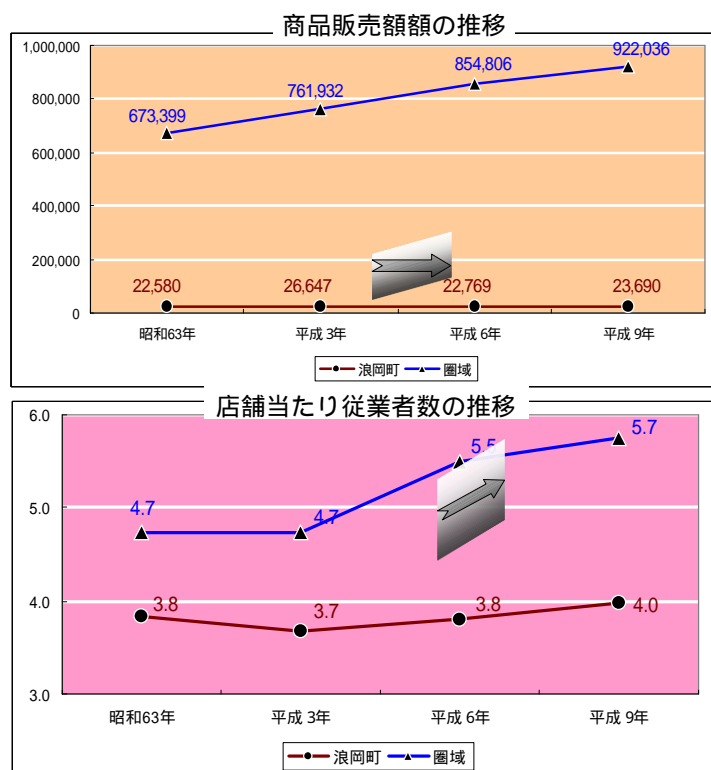


表 - 店舗数・従業者数・商品販売額

		昭和63年	平成3年		平成6年		平成9年	
				増減		増減		増減
浪岡町	店舗数(店)	355	330	-7.0%	297	-10.0%	284	-4.4%
	従業者数(人)	1,362	1,214	-10.9%	1,131	-6.8%	1,132	0.1%
	販売額(百万円)	22,580	26,647	18.0%	22,769	-14.6%	23,690	4.0%
圏域	店舗数(店)	6,116	5,932	-3.0%	5,444	-8.2%	5,250	-3.6%
	従業者数(人)	29,011	28,107	-3.1%	29,948	6.5%	30,182	0.8%
	販売額(百万円)	673,399	761,932	13.1%	854,806	12.2%	922,036	7.9%

(商業統計調査)

(4) 観光の動向

浪岡町への観光入込客数は増加しているが、ほとんどが日帰り客である。

平成12年の本町への観光入込客数は年間32万人であり、平成3年からの10年間で5倍以上増加している。

県外からの観光入込客数も大幅に増加しているが、宿泊客は横這いから減少傾向にある。

国道7号バイパス沿道に道の駅「アップルヒル」が整備されており、観光入り込み客数の増加に大きく貢献しているものと考えられる。

本町の主な観光資源としては、「県民の森梵珠山」「浪岡城跡」「健康の森（花岡公園、西山公園、湿生花園）」などがあげられる。

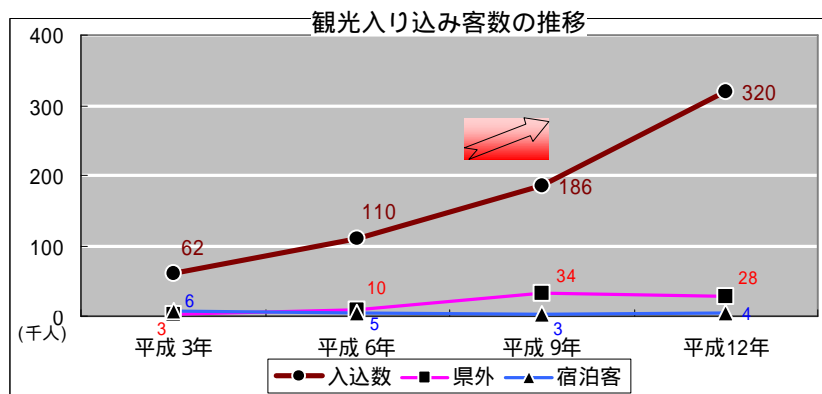


表 - 観光入込客

	数量(千人)			伸び率		
	入込数	県外	宿泊客	入込数	県外	宿泊客
平成3年	62	3 4.8%	6 9.7%	1.00	1.00	1.00
平成6年	110	10 9.1%	5 4.5%	1.77	3.33	0.83
平成9年	186	34 18.3%	3 1.6%	3.00	11.33	0.50
平成12年	320	28 8.8%	4 1.3%	5.16	9.33	0.67

1 - 4 土地利用

(1) 都市計画区域と用途地域

町全体の 58.7%の区域が都市計画区域である。

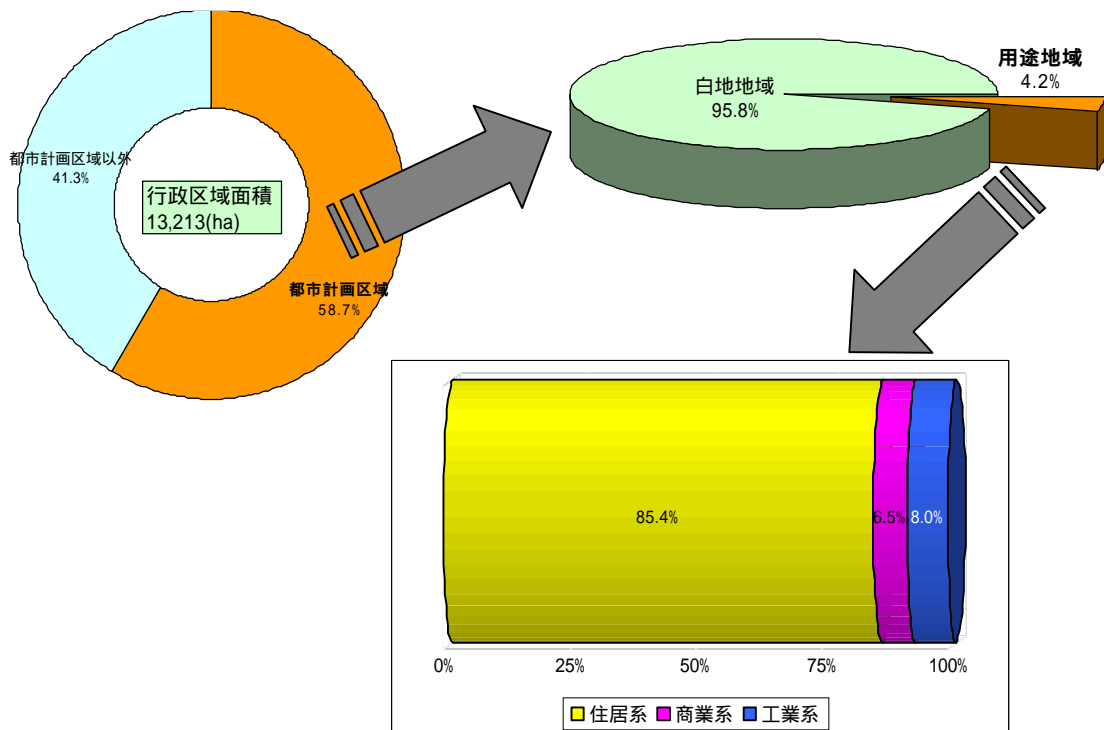
本町の都市計画区域のうち、4.2%にあたる 323ha に用途地域が指定されている。

用途地域の 85.4%が住居系の用途地域で、商業系、工業系の用途地域はそれぞれ 10%未満である。

表 - 都市計画区域・用途地域の状況

区域・地域名	容積率 (%)	建ぺい率 (%)	面積 (ha)	行政区域に占める割合 (%)	都市計画区域に占める割合 (%)	用途地域に占める割合 (%)
行政区域名			13,213.0	100.0%		
都市計画区域			7,750.0	58.7%	100.0%	
用途地域 計			323.0	2.4%	4.2%	100.0%
住居系 計			276.0			85.4%
第一種低層住居専用地域	80	50	22.0			6.8%
第二種低層住居専用地域	150	60	18.0			5.6%
第一種中高層住居専用地域	200	60	32.0			9.9%
第二種中高層住居専用地域	200	60	7.0			2.2%
第一種住居地域	200	60	164.0			50.8%
第二種住居地域	200	60	23.0			7.1%
準住居地域	200	60	10.0			3.1%
商業系 計			21.0			6.5%
近隣商業地域	200	80	3.0			0.9%
商業地域	400	80	18.0			5.6%
工業系 計			26.0			8.0%
準工業地域	200	60	26.0			8.0%

(平成 13 年度 都市計画基礎調査)



(2) 用途地域内の地目別の土地利用

用途地域内は主に宅地利用されている。

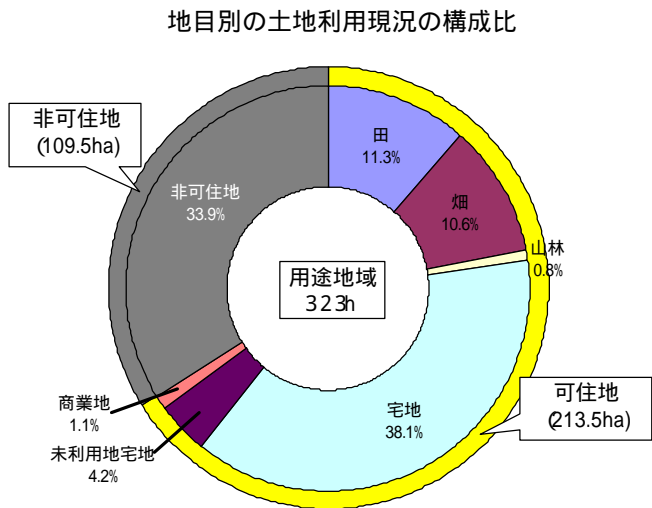
本町の用途地域内の地目は、38.1%が宅地となっている。

用途地域内の可住地(住宅の建築が可能な地目)は66.1%となっている。

可住地内において、今後、新たな都市的土地利用が可能な田、畑、山林は、用途地域全体の22.7%となっている。

表 - 用途地域内の地目別土地利用現況

地目		面積(ha)	割合(%)
可住地	農地	36.6	11.3%
	畑	34.1	10.6%
	山林	2.6	0.8%
	宅地	122.9	38.1%
	未利用地宅地	13.6	4.2%
	商業地	3.6	1.1%
小計		213.5	66.1%
非可住地	工業地	6.9	2.1%
	商業地	8.9	2.8%
	道路	31.9	9.9%
	道路以外の交通用地	3.9	1.2%
	公園・緑地	23.4	7.3%
	公共・公益施設用地	25.7	8.0%
	その他	8.7	2.7%
	小計	109.5	33.9%
合計		323.0	100.0%



(平成13年度 都市計画基礎調査を基に補正)

(3) 開発動向・住宅水準

1) 都市計画区域内の新築動向

各年、ほぼ一定の件数で建物の新築が行われている。

平成8年～12年の新築件数の年平均

平均は115.8件となっている。

用途地域内外での新築件数を比較

すると、平成8年度にはほぼ同

数であったが、用途地域内の

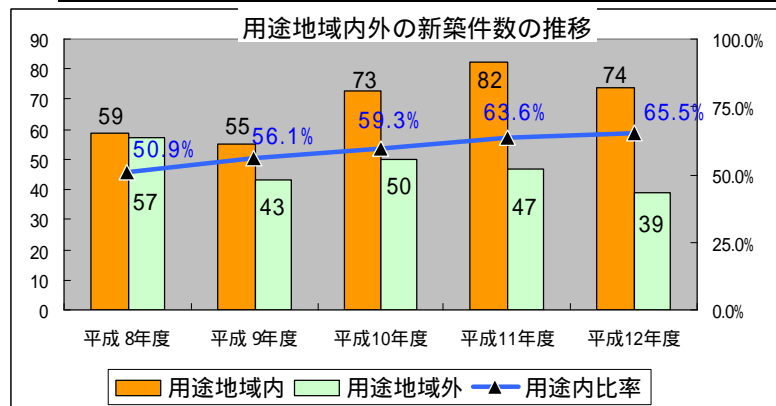
新築率は年々上昇し、平成

12年度には65.5%となっ

ている。

表 - 都市計画区域内の新築動向

	用途地域内	用途地域外	計	用途内比率
平成8年度	59	57	116	50.9%
平成9年度	55	43	98	56.1%
平成10年度	73	50	123	59.3%
平成11年度	82	47	129	63.6%
平成12年度	74	39	113	65.5%



(平成13年度 都市計画基礎調査)

2) 大規模宅地開発

町では昭和 40～50 年代を中心に 7 か所の住宅団地を開発している。

近年の大規模開発は郊外部に進展している。

表 - 宅地開発等の状況
町営住宅団地

地区名称等	施行者	面積(ha)	完了年月	備考
赤川第 1 団地	浪岡町	--	S45 .	現在なし
赤川第 2 団地	浪岡町	0.35	S48 .	
林本団地	浪岡町	0.67	S51 .	
花岡団地	浪岡町	0.81	S55 .	
白鳥団地	浪岡町	0.14	S58 .	
宮本団地	浪岡町	0.59	S59 .	
福田団地	浪岡町	1.36	H8 .	
面的整備(土地区画整理事業)				
福田地区	浪岡町	20.7	H7 .	
近年の 5 ha 以上の大規模開発				
農工団地	公社	7.7	H元 . 7	浪岡町土地開発公社
大釈迦第 2 工業団地	公社	7.3	H12 .	浪岡町土地開発公社
ショッピングセンター	ジャスコ	6.7	H10 .	

3) 住宅持ち家率、1 世帯当たり延べ床面積

本町及び圏域全体の持ち家率は、高い水準にある。

住宅のゆとりが拡大している。

本町の持ち家率は 85.9% で、青森県平均値より 15.9 ポイント高い値を示している。

圏域内市町村の持ち家率は弘前市を除き、いずれも 80% を超える高い水準となっている。また圏域内の市を除く町村の中で、浪岡町の持ち家率は最も低い値を示している。

本町の世帯当たり住宅床面積は 143.6 m²/世帯で、県水準より 25.6 m² 高く、また青森市、弘前市などの都市部より 40 m² 前後の高い値を示している。

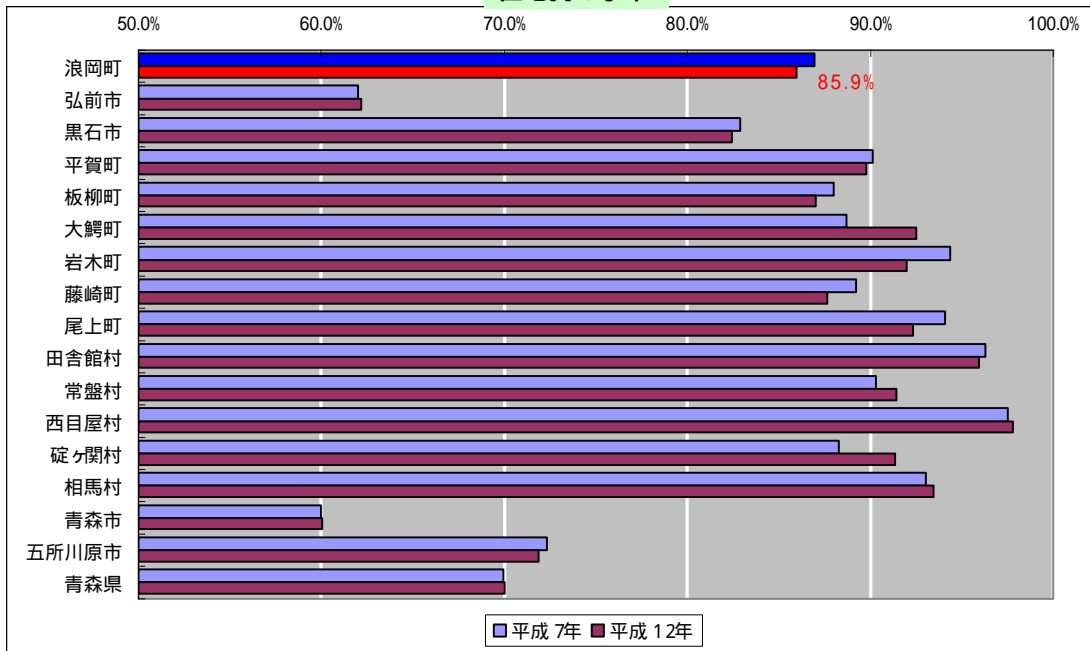
平成 12 年の住宅床面積は、平成 7 年に比べ 1 世帯当たり約 5.6 m² 拡大している。

表 - 住宅の状況

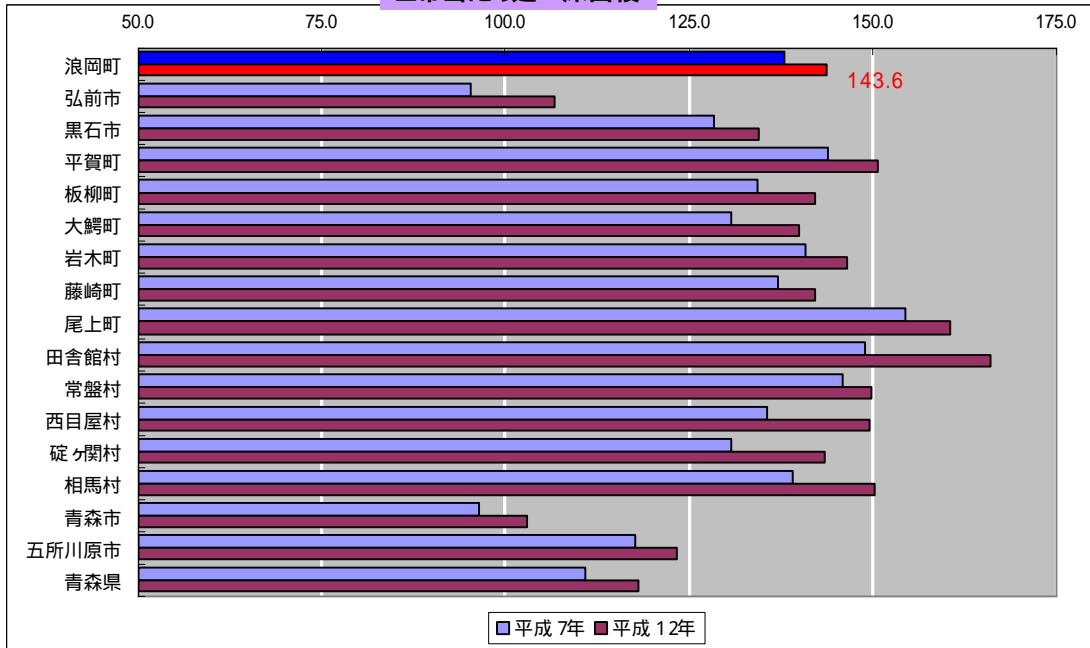
		平成 7 年			平成 12 年		
		住宅床面積		持ち家率 (%)	住宅床面積		持ち家率 (%)
		世帯当たり (m ² /世帯)	1人当たり (m ² /人)		世帯当たり (m ² /世帯)	1人当たり (m ² /人)	
圏域	浪岡町	138.0	38.7	86.9%	143.6	42.4	85.9%
	弘前市	95.3	33.5	62.0%	106.8	39.2	62.2%
	黒石市	128.3	36.8	82.9%	134.4	40.4	82.4%
	平賀町	144.0	36.6	90.2%	150.7	40.0	89.7%
	板柳町	134.3	37.3	88.0%	142.2	41.0	87.0%
	大鱈町	130.7	37.9	88.7%	139.9	43.0	92.5%
	岩木町	140.8	35.8	94.3%	146.5	39.4	91.9%
	藤崎町	137.1	37.2	89.3%	142.1	40.3	87.6%
	尾上町	154.4	39.9	94.1%	160.6	43.9	92.3%
	田舎館村	148.9	37.6	96.3%	166.0	41.4	95.9%
	常盤村	145.9	37.1	90.3%	149.9	40.1	91.4%
	西目屋村	135.5	38.8	97.5%	149.6	44.4	97.8%
	碓ヶ関村	130.7	39.9	88.3%	143.4	46.1	91.4%
相馬村	139.1	34.0	93.0%	150.2	38.7	93.5%	
	青森市	96.4	34.8	60.0%	102.9	39.2	60.1%
	五所川原市	117.6	38.6	72.3%	123.3	42.5	71.9%
	青森県	110.8	36.3	69.9%	118.0	40.7	70.0%

(国勢調査)

住宅持ち家率



世帯当たり延べ床面積



1 - 5 都市施設

(1) 道路の整備状況

道路の改良、舗装をさらに進める必要がある。

本町の道路の内訳は、高速道路1路線(東北縦貫自動車道)、国道2路線(国道7号及びバイパス、国道101号及び津軽自動車道)、県道6路線(主要地方道3路線及び一般県道3路線)、及び町道となっている。

町道の改良率は17.5%、舗装率は24.5%となっている。

表 - 浪岡町の道路整備状況

	整備計画 (m)	改良		舗装	
		実績 (m)	整備率 (%)	実績 (m)	舗装率 (%)
高速道路	10,760	10,760	100.0%	10,760	100.0%
国道	26,796	18,258	68.1%	18,258	68.1%
主要地方道	26,083	25,636	98.3%	26,083	100.0%
一般県道	10,530	10,339	98.2%	10,530	100.0%
町道	661,230	115,856	17.5%	162,026	24.5%
計	735,399	126,195	17.2%	172,556	23.5%

(平成13年度

都市計画基礎調査)

(2) 都市計画施設

1) 道路

町の骨格を形成する都市計画道路の整備をさらに進める必要がある。

都市計画道路の整備率は39.5%となっている。

国道7号バイパス、空港アクセス道路〔(主)青森浪岡線〕は2車線で暫定供用されている。

表 - 都市計画道路と整備状況

名称	種別	計画決定延長 (m)	計画決定幅員 (m)	整備延長 (m)	整備率 (%)	備考
3.3.1 榊大釈迦線	一般国道	14,230	17~28	3,720	26.1%	7号バイパス・暫定2車線
3.3.2 館野松山線	主要地方道	4,150	25	4,150	100.0%	空港アクセス・暫定2車線
3.4.1 佐野沖蒔線	町道	2,500	16	0	0.0%	
3.4.2 若松沖蒔線	主要地方道	1,000	16	0	0.0%	
3.4.3 花岡女鹿沢線	主要地方道	1,320	16	1,320	100.0%	
3.4.4 花岡松枝線	町道	890	16	0	0.0%	
3.4.5 東種本福田線	町道	1,690	16	1,367	80.9%	
3.5.1 停車場稲村線	県道・町道	1,130	11~15	420	37.2%	
3.5.2 平川北中野線	県道・町道	1,750	12	0	0.0%	
3.5.4 赤川淋城線	町道	1,110	12	0	0.0%	
3.5.5 杉沢松枝線	一般国道	3,080	15	1,230	39.9%	国道7号
3.6.1 東種本八幡宮線	主要地方道	1,350	11~12	1,350	100.0%	
7.6.1 平川女鹿沢線	町道	790	9	270	34.2%	
計	13路線	34,990		13,827	39.5%	
浪岡駅前広場	駅前広場	0.13(ha)		0.063(ha)	48.5%	

(平成13年度 都市計画基礎調査)

2) 公園・緑地

町民1人当たりの公園・緑地面積は高い値を示している。

都市公園は90.83haが計画されており、整備率70%にあたる63.58haが整備されている。

町民1人当たりの公園・緑地面積は30.5㎡/人であり、一般的な整備目標水準である20㎡/人を超える高い値を示している。

表 - 都市公園と整備状況

名称	種別	計画面積 (ha)	整備面積 (ha)	整備率 (%)	備考
女鹿沢児童公園	街 区	0.15	0.15	100.0%	
平川児童公園	街 区	0.22	0.22	100.0%	
中新座南公園	街 区	0.32	0.32	100.0%	
中新座北公園	街 区	0.30	0.30	100.0%	
大杉公園	近 隣	1.10	1.10	100.0%	
浪岡町総合公園	地 区	9.10	9.10	100.0%	
西山公園	地 区	10.30	10.30	100.0%	
浪岡墓地公園	墓 園	15.90	9.30	58.5%	9.3haのうち墓所面積3.3ha
浪岡緑道	緑 道	25.60	9.30	36.3%	
花岡公園	地 区	4.40	4.40	100.0%	
浪岡町湿生花園	風 致	8.50	8.50	100.0%	
野沢公園	近 隣	2.20	2.20	100.0%	
美人川公園	街 区	0.66	0.66	100.0%	
浪岡城跡公園	地 区	12.08	7.73	64.0%	
計	14箇所	90.83	63.58	70.0%	

(平成13年度都市計画基礎調査)

3) 下水道

公共下水道(排水区域面積433ha)が計画決定されている。

下水道普及率を高める必要がある。

本町の公共下水道の普及率は約35.7%で、青森県水準(39.8%)をやや下回るとともに、全国平均と比較すると平均62.0%を大きく下回っている。

表 - 公共下水道(汚水)施設と整備状況

名称	計画決定			普及率	事業決定			
	排水区域面積 (ha)	延 長 (m)	処 理 場		処理区域 (ha)	延 長 (m)	処 理 場	執行年月日
浪岡町公共下水道	433.0	18,664.0	水道浄化センター	35.7%	190.0	8,190.0	水道浄化センター	平成2年10月15日

(平成13年度 都市計画基礎調査)

4) その他の施設

その他の施設として、「斎園」が計画決定されている。

表 - その他の都市計画施設と整備状況

名称	種別	計画面積 (ha)	整備面積 (㎡)	整備率 (%)	備考
浪岡斎園	火葬場	0.93	0.93	100.0%	

(平成13年度 都市計画基礎調査)

1 - 6 その他

(1) 災害歴

浪岡町においては、過去に「台風・暴風雨」「大雨・洪水」「融雪増水」「雪害」「地震」などの自然災害歴がある。

表 - 近年の主な自然災害歴（昭和50年以降）

種別	名称等	発生年月	被害等
台風・暴風雨	低気圧通過による大雨	昭和50年 8月	床上、床下浸水
	低気圧接近、通過による大雨	昭和52年 8月	浪岡川、本郷川、正平津川等氾濫
	低気圧接近、通過による大雨	昭和62年 7月	河岸決壊、道路法面・路肩決壊
	台風19号による暴風雨	平成 3年 9月	風害による家屋全損等
	低気圧通過による大雨	平成 4年 8月	土砂崩れ
	低気圧接近等による大雨	平成 5年 7月	河川・道路・橋梁・土砂災害等
	台風11号による豪雨	平成 6年 8月	河川決壊等
融雪増水	低気圧通過による大雨	平成 9年 8月	河川・道路等の被害
	融雪洪水	昭和63年 4月	河岸、道路の決壊等
	融雪増水	平成 6年 4月	河川、道路の決壊
地震	融雪・大雨	平成 8年 3、4月	河岸決壊 損壊 路肩損壊
	日本海中部地震	昭和58年 5月	住家屋全壊・半壊等
	三陸はるか沖地震	平成 6年 12月	道路損壊、ライフラインの被害

(浪岡町史)

(2) 広域的な市町村間の繋がり

1) 通勤・通学流動

本町からの通勤、通学は、青森市、弘前市への流出が中心となっている。

職場、就学の場合は、他市町村へ依存する傾向にある。

本町から他市町村への流出率は、通勤 34.6%、通学 65.2%であり、流出率は高まる傾向にある。

浪岡町で働いている労働者・学んでいる学生と浪岡町に住んでいる労働者・学生の比率は通勤 83.8%、通学 65.2%で、100%を下回る流出超過を示している。

流出先は青森市(通勤第1位、通学第2位)、弘前市(通勤第2位、通学第1位)が主であり、両市への依存(流出率)は高まっている。

一方、浪岡町への通勤による流入者数も増加傾向を示している。流入元は弘前市(第1位)、黒石市(第2位)が主であり、両市からの流入率も高まっている。

表 - 通勤動向

年次	常住する 就業者 (人)	自町で従 業 (人)	他市町村 で従業 (人)	流出率 (%)	当町で従 業 (人)	他市町村 に常住 (人)	流入率 (%)	従業/就 業の比率 (%)
	a	b	c	c/a	d	e	e/d	d/a
昭和60年	11,051	8,272	2,779	25.1%	9,248	976	10.6%	83.7%
平成 2年	10,901	7,892	3,009	27.6%	9,269	1,377	14.9%	85.0%
平成 7年	10,962	7,321	3,641	33.2%	8,811	1,490	16.9%	80.4%
平成12年	11,043	7,226	3,817	34.6%	9,249	2,014	21.8%	83.8%

年次	流出先 第1位			流出先 第2位			流入元 第1位			流入元 第2位		
	市町村	人数 (人)	流出率 (%)	市町村	人数 (人)	流出率 (%)	市町村	人数 (人)	流入率 (%)	市町村	人数 (人)	流入率 (%)
昭和60年	青森市	1,340	12.1%	弘前市	640	5.8%	弘前市	185	2.0%	黒石市	119	1.3%
平成 2年	青森市	1,268	11.6%	弘前市	713	6.5%	弘前市	242	2.6%	黒石市	168	1.8%
平成 7年	青森市	1,409	12.9%	弘前市	820	7.5%	弘前市	267	3.0%	黒石市	225	2.6%
平成12年	青森市	1,464	13.3%	弘前市	926	8.4%	弘前市	379	4.1%	黒石市	302	3.3%

表 - 通学動向

年次	常住する通学者 (人)	自町で通学 (人)	他市町村で通学 (人)	流出率 (%)	当町に通学 (人)	他市町村に常住 (人)	流入率 (%)	通学 / 常住の比率 (%)
	a	b	c	c/ a	d	e	e/ d	d/ a
昭和60年	1,241	703	538	43.4%	1,010	307	30.4%	81.4%
平成 2年	1,314	553	761	57.9%	892	339	38.0%	67.9%
平成 7年	1,233	488	745	60.4%	751	263	35.0%	60.9%
平成12年	1,127	392	735	65.2%	735	229	31.2%	65.2%

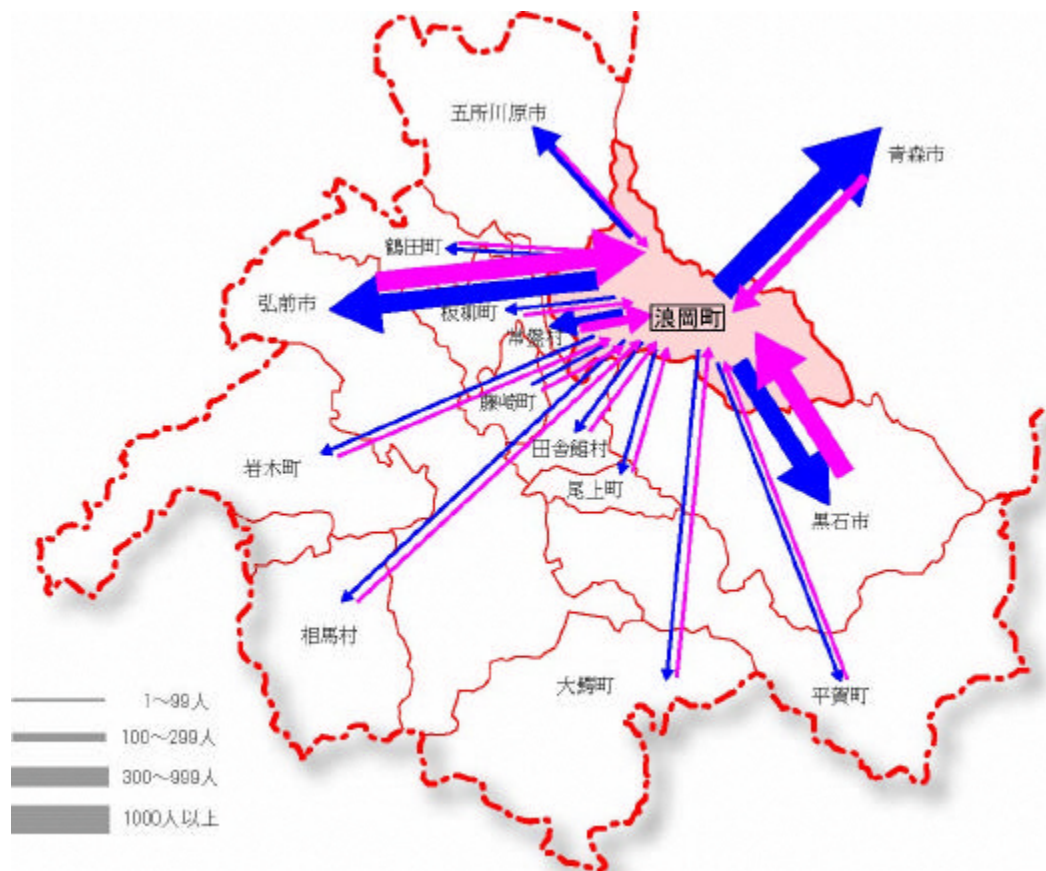
年次	流出先 第1位			流出先 第2位			流入元 第1位			流入元 第2位		
	市町村	人数 (人)	流出率 (%)	市町村	人数 (人)	流出率 (%)	市町村	人数 (人)	流入率 (%)	市町村	人数 (人)	流入率 (%)
昭和60年	弘前市	277	22.3%	青森市	165	13.3%	青森市	185	18.3%	黒石市	119	11.8%
平成 2年	弘前市	375	28.5%	青森市	198	15.1%	青森市	242	27.1%	黒石市	168	18.8%
平成 7年	弘前市	351	28.5%	青森市	247	20.0%	黒石市	267	35.6%	青森市	225	30.0%
平成12年	弘前市	357	31.7%	青森市	223	19.8%	青森市	379	51.6%	黒石市	302	41.1%

表 - 通勤動向

年次	常住する就業者 (人)	自町で従業 (人)	他市町村で従業 (人)	流出率 (%)	当町で従業 (人)	他市町村に常住 (人)	流入率 (%)	従業 / 就業の比率 (%)
	a	b	c	c/ a	d	e	e/ d	d/ a
昭和60年	11,051	8,272	2,779	25.1%	9,248	976	10.6%	83.7%
平成 2年	10,901	7,892	3,009	27.6%	9,269	1,377	14.9%	85.0%
平成 7年	10,962	7,321	3,641	33.2%	8,811	1,490	16.9%	80.4%
平成12年	11,043	7,226	3,817	34.6%	9,249	2,014	21.8%	83.8%

(国勢調査)

図 - 平成 7 年の通勤流動



2) 買物動向

本町は、「青森」「弘前」「黒石」の3つの商圏に属している。

本町民の日用品以外の買い物は、弘前市で最も多く行われている。

弘前市が圏域の商業の中心となっている。

弘前商圏において浪岡町は、第2次商圏に属しており、30～49.9%が弘前市へ流出している。
弘前商圏の第1次商圏(50%以上)は、すべて圏域市町村で占められている。

青森商圏において浪岡町は、第3次商圏に属しており、10～29.9%が青森市へ流出している。

黒石商圏において浪岡町は、第4次商圏に属しており、5～9.9%が黒石市へ流出している。

	第1次商圏 〔50%以上〕	第2次商圏 〔30～49.9%〕	第3次商圏 〔10～29.9%〕	第4次商圏 〔5～9.9%〕
青森商圏	青森市、三厩村 蓬田村、平内町 今別町、蟹田町 平館村	野辺地町	浪岡町、常盤村	東北町、横浜町 天間林村、七戸町 碓ヶ関村、脇野沢村 深浦町
弘前商圏	西目屋村、岩木町 相馬村、弘前市 大鱈町、平賀町 碓ヶ関村、尾上町 田舎館村、藤崎町 黒石市、常盤村	板柳町、浪岡町	鱒ヶ沢町、鶴田町 小坂町、大館市	柏村、鹿角市 市浦村、深浦町 岩崎村、五所川原市 木造町、田代町
黒石商圏		黒石市	尾上町、田舎館村	平賀町、浪岡町
五所川原商圏	五所川原市、小泊村	市浦村、稲垣村 金木町、中里町 森田村、鶴田町 柏村	車力村、木造町 深浦町、鱒ヶ沢町	岩崎村

) は圏内の市町村

(消費購買動向調査)



第 2 章 住民意向調査



2 - 1 住民アンケート調査の概要

(1) アンケート対象者

20 歳以上 60 歳代の一般町民 1,000 世帯
小中学生を持つ家庭 100 世帯以上

(2) 調査票配付先抽出方法

一般町民；地区の世帯数、年齢階層に応じた無作為抽出
小中学生を持つ家庭；町内 8 校の各クラスから 2 世帯を抽出

(3) 配付、回収方法

配付：(社)浪岡町シルバー人材センターによるポスティング、対面による渡し
回収：留め置き方式〔(社)浪岡町シルバー人材センターによる訪問〕

(4) 配付数と回収結果

	配付数	有効回答数	有効回答率 (%)	未回収又は 無効回答数
一般住民	1,000	889	88.9	111
小中学生を持つ世帯	146	130	89.0	20
合計	1,146	1,019	88.9	127

2 - 2 設問と集計結果

回答者のご自身のことについてお聞きします。

問1 あなたの性別、年齢、職業をお答え下さい。

(1)性別：1.男性 2.女性

(2)年齢：1.20歳代 2.30歳代 3.40歳代 4.50歳代 5.60歳代以上

(3)職業：1.農林漁業 2.自営業(農林漁業以外) 3.会社員 4.公務員・団体職員 5.主婦
6.学生 7.無職 8.その他()

【集計結果】(無回答は計上しない)

回答者性別の比率は、全体では男女ともほぼ50%ずつの回答を得ている。一般町民では女性が多く、子育て世代では世帯主である男性からの回答が多い。

回答者年齢別の比率では、一般町民、子育てとも40歳代が最も多く、全体では1/4以上を占めている。以下、30歳代、60歳代、50歳代の順となっており、これらの比率は20%前後となっている。

回答者の職業は、会社員が最も多く全体の30%以上を占めている。次いで、主婦、農林漁業従事者の順となっている。

(1)性別

	一般町民		子育て世代		合計	
	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
1.男性	382	45.4%	90	70.9%	472	48.7%
2.女性	460	54.6%	37	29.1%	497	51.3%

(2)年齢

	一般町民		子育て世代		合計	
	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
1.20歳代	135	15.6%	2	1.6%	137	13.8%
2.30歳代	174	20.1%	44	34.4%	218	21.9%
3.40歳代	189	21.8%	68	53.1%	257	25.8%
4.50歳代	178	20.5%	13	10.2%	191	19.2%
5.60歳代	191	22.0%	1	0.8%	192	19.3%

(3)職業

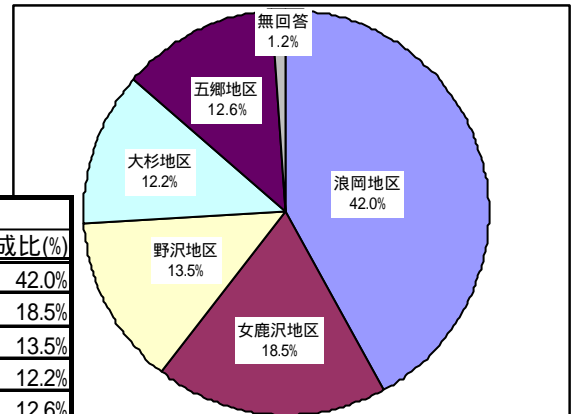
	一般町民		子育て世代		合計	
	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
1.農林漁業	104	12.4%	7	5.6%	111	11.5%
2.自営業	53	6.3%	12	9.5%	65	6.7%
3.会社員	255	30.3%	52	41.3%	307	31.7%
4.公務員・団体職員	76	9.0%	26	20.6%	102	10.5%
5.主婦	157	18.7%	17	13.5%	174	18.0%
6.学生	20	2.4%	0	0.0%	20	2.1%
7.無職	100	11.9%	1	0.8%	101	10.4%
8.その他	76	9.0%	11	8.7%	87	9.0%

問2 あなたのお住まいの地区をお答え下さい。

1. 浪岡地区 2. 女鹿沢地区 3. 野沢地区 4. 大杉地区 5. 五郷地区

【集計結果】

人口が最も集積している浪岡地区の居住者からの回答が最も多く、全体で40%以上を占めている。次いで女鹿沢地区、野沢地区の順となっている。



	一般町民		子育て世代		合計	
	票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)
1. 浪岡地区	376	42.3%	52	40.0%	428	42.0%
2. 女鹿沢地区	168	18.9%	21	16.2%	189	18.5%
3. 野沢地区	122	13.7%	16	12.3%	138	13.5%
4. 大杉地区	101	11.4%	23	17.7%	124	12.2%
5. 五郷地区	112	12.6%	16	12.3%	128	12.6%
無回答	10	1.1%	2	1.5%	12	1.2%

問3 現在あなたのお住まいになっているところでの居住年数をお答え下さい。

1. 3年未満 2. 3～5年程度 3. 5～10年程度 4. 10～20年程度 5. 20～30年程度
6. 30年以上

【集計結果】

浪岡町に30年以上居住している人が最も多く35%を占めている。また20～30年程度居住している人とあわせ、20年以上居住している人で過半数を占めている。

地区別にみると野沢地区、五郷地区では30年以上居住している人が過半数を占めているが、一方で大杉地区を含めた3地区で5年未満の近年に居住された人の比率は、10%程度となっている。浪岡地区では20～30年程度の居住者が最も多く、また5年未満の居住者も20%強を占めており、他都市から浪岡町に移り住んできた人口・世帯が増加している状況(社会的要因による増加)がうかがえる。

		1. 3年未満		2. 3～5年程度		3. 5～10年程度		4. 10～20年程度		5. 20～30年程度		6. 30年以上	
		票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)	票数	構成比 (%)
一般町民	浪岡地区	49	13.0%	30	8.0%	43	11.4%	54	14.4%	109	29.0%	89	23.7%
	女鹿沢地区	12	7.1%	12	7.1%	21	12.5%	28	16.7%	43	25.6%	51	30.4%
	野沢地区	4	3.3%	0	0.0%	6	4.9%	17	13.9%	26	21.3%	66	54.1%
	大杉地区	3	3.0%	6	5.9%	8	7.9%	21	20.8%	26	25.7%	35	34.7%
	五郷地区	5	4.5%	7	6.3%	5	4.5%	16	14.3%	23	20.5%	55	49.1%
	計	73	8.4%	55	6.3%	83	9.5%	136	15.6%	227	26.1%	296	34.0%
子育て世代	浪岡地区	3	5.8%	6	11.5%	12	23.1%	11	21.2%	8	15.4%	11	21.2%
	女鹿沢地区	1	4.8%	1	4.8%	5	23.8%	4	19.0%	2	9.5%	7	33.3%
	野沢地区	0	0.0%	0	0.0%	3	18.8%	1	6.3%	2	12.5%	10	62.5%
	大杉地区	0	0.0%	0	0.0%	3	13.0%	2	8.7%	5	21.7%	12	52.2%
	五郷地区	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	2	12.5%	4	25.0%	9	56.3%
計	4	3.2%	7	5.6%	24	19.2%	20	16.0%	21	16.8%	49	39.2%	
合計	浪岡地区	52	12.2%	36	8.5%	55	12.9%	65	15.3%	117	27.5%	100	23.5%
	女鹿沢地区	13	7.0%	13	7.0%	26	13.9%	32	17.1%	45	24.1%	58	31.0%
	野沢地区	4	3.0%	0	0.0%	9	6.7%	18	13.3%	28	20.7%	76	56.3%
	大杉地区	3	2.5%	6	5.0%	11	9.1%	23	19.0%	31	25.6%	47	38.8%
	五郷地区	5	3.9%	7	5.5%	6	4.7%	18	14.2%	27	21.3%	64	50.4%
計	77	7.7%	62	6.2%	107	10.8%	156	15.7%	248	24.9%	345	34.7%	

町の状況についてお聞きします。

問4 浪岡町の“まちづくり”の状況について、以下の項目ごとに評価して下さい。また 4.及び 5.をお答えの場合、その理由を簡潔に記述して下さい。

- お住まいの地区の住宅地の環境
- 商店の充実、買物の利便性
- 産業・工業地の整備状況
- 幹線道路(国・県道)の整備
- 幹線道路以外の身近な道路の整備
- 歩道の整備状況
- 身近な公園・広場
- お住まいの地区の自然環境の状況の整備状況
- 水路・下水道の整備状況
- 医療や福祉施設の整備状況
- 学校や文化施設の整備
- 鉄道利用の利便性
- バス利用の利便性

【集計結果】

1) 浪岡町全体のまちづくりの状況、満足度

全体的にみると、「不満」とする意見が「満足」とする意見を上回っている。また、「非常に満足」は各項目とも10%未満であり、まちづくりに対して大きな満足は得られていない状況にある。

項目別にみると、「満足」とされる項目として「地区の住宅地の環境」「商店、買い物」「地区の自然環境」が挙げられる。

「不満」とされる項目では「歩道の整備」「水路・下水道の整備」「バス利用」「医療・福祉」「身近な公園」が挙げられ、都市施設、交通施設などへの不満が大きい。

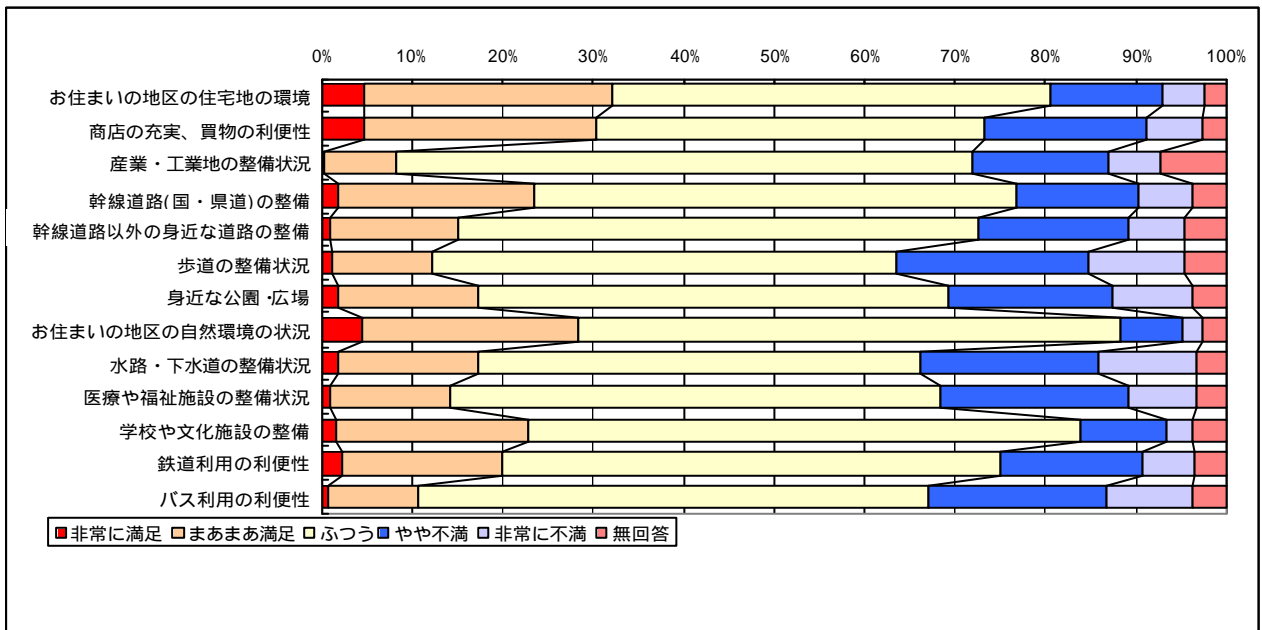
票数

	一般住民					子育て世代					合計					
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	無回答
お住まいの地区の住宅地の環境	45	235	442	106	39	4	44	50	21	8	49	279	492	127	47	25
商店の充実、買物の利便性	39	231	381	159	55	9	32	54	24	7	48	263	435	183	62	28
産業・工業地の整備状況	3	66	579	127	49	1	13	72	25	10	4	79	651	152	59	74
幹線道路(国・県道)の整備	19	197	472	113	54	1	21	72	24	6	20	218	544	137	60	40
幹線道路以外の身近な道路の整備	10	128	512	141	56	0	15	75	28	7	10	143	587	169	63	47
歩道の整備状況	7	107	468	179	87	4	8	54	37	21	11	115	522	216	108	47
身近な公園・広場	17	138	471	156	72	1	20	59	28	17	18	158	530	184	89	40
お住まいの地区の自然環境の状況	37	207	543	60	18	8	37	67	11	5	45	244	610	71	23	26
水路・下水道の整備状況	16	138	447	164	93	2	21	51	36	17	18	159	498	200	110	34
医療や福祉施設の整備状況	9	113	492	181	63	1	23	60	30	12	10	136	552	211	75	35
学校や文化施設の整備	14	178	552	86	24	3	39	68	11	6	17	217	620	97	30	38
鉄道利用の利便性	20	150	501	136	49	3	30	60	25	9	23	180	561	161	58	36
バス利用の利便性	5	87	511	163	87	1	16	64	36	10	6	103	575	199	97	39

構成比（単位：％）

	一般住民					子育て世代					合計					
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	無回答
お住まいの地区の住宅地の環境	5.2%	27.1%	51.0%	12.2%	4.5%	3.1%	34.6%	39.4%	16.5%	6.3%	4.8%	27.4%	48.3%	12.5%	4.6%	2.5%
商店の充実、買物の利便性	4.5%	26.7%	44.0%	18.4%	6.4%	7.1%	25.4%	42.9%	19.0%	5.6%	4.7%	25.8%	42.7%	18.0%	6.1%	2.7%
産業・工業地の整備状況	0.4%	8.0%	70.3%	15.4%	5.9%	0.8%	10.7%	59.5%	20.7%	8.3%	0.4%	7.8%	63.9%	14.9%	5.8%	7.3%
幹線道路(国・県道)の整備	2.2%	23.0%	55.2%	13.2%	6.3%	0.8%	16.9%	58.1%	19.4%	4.8%	2.0%	21.4%	53.4%	13.4%	5.9%	3.9%
幹線道路以外の身近な道路の整備	1.2%	15.1%	60.4%	16.6%	6.6%	0.0%	12.0%	60.0%	22.4%	5.6%	1.0%	14.0%	57.6%	16.6%	6.2%	4.6%
歩道の整備状況	0.8%	12.6%	55.2%	21.1%	10.3%	3.2%	6.5%	43.5%	29.8%	16.9%	1.1%	11.3%	51.2%	21.2%	10.6%	4.6%
身近な公園・広場	2.0%	16.2%	55.2%	18.3%	8.4%	0.8%	16.0%	47.2%	22.4%	13.6%	1.8%	15.5%	52.0%	18.1%	8.7%	3.9%
お住まいの地区の自然環境の状況	4.3%	23.9%	62.8%	6.9%	2.1%	6.3%	28.9%	52.3%	8.6%	3.9%	4.4%	23.9%	59.9%	7.0%	2.3%	2.6%
水路・下水道の整備状況	1.9%	16.1%	52.1%	19.1%	10.8%	1.6%	16.5%	40.2%	28.3%	13.4%	1.8%	15.6%	48.9%	19.6%	10.8%	3.3%
医療や福祉施設の整備状況	1.0%	13.2%	57.3%	21.1%	7.3%	0.8%	18.3%	47.6%	23.8%	9.5%	1.0%	13.3%	54.2%	20.7%	7.4%	3.4%
学校や文化施設の整備	1.6%	20.8%	64.6%	10.1%	2.8%	2.4%	30.7%	53.5%	8.7%	4.7%	1.7%	21.3%	60.8%	9.5%	2.9%	3.7%
鉄道利用の利便性	2.3%	17.5%	58.5%	15.9%	5.7%	2.4%	23.6%	47.2%	19.7%	7.1%	2.3%	17.7%	55.1%	15.8%	5.7%	3.5%
バス利用の利便性	0.6%	10.2%	59.9%	19.1%	10.2%	0.8%	12.6%	50.4%	28.3%	7.9%	0.6%	10.1%	56.4%	19.5%	9.5%	3.8%

）一般住民、子育て世代は無回答を含まない回答者による比率
 合計は無回答を含む有効回答者全員に対する比率



2) 項目別、地区別のまちづくりの状況、満足度（無回答は含まない）

お住まいの地区の住宅地の環境

【集計結果】

全体的にみると、満足の割合が不満の割合を上回っている。

不満とする理由については、除雪不十分、騒音・排気ガス等の公害、道路が狭い等の意見が多くなっている。

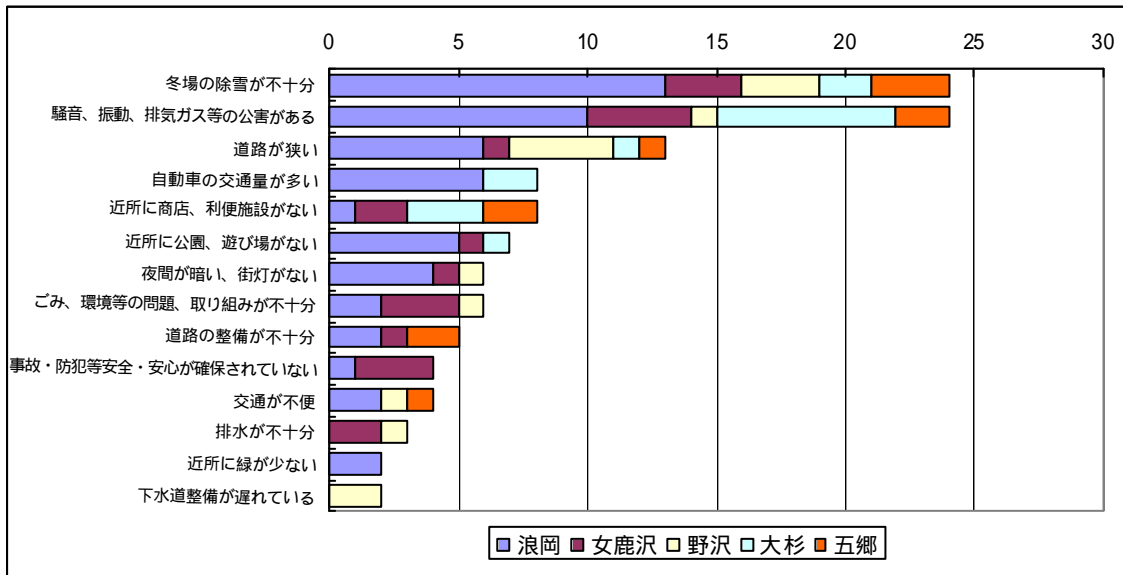
地区別にみると、女鹿沢地区、大杉地区でやや不満の割合が高くなっている。

構成比(単位%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	7.8%	28.5%	46.8%	10.5%	6.5%	3.8%	38.5%	38.5%	13.5%	5.8%	7.3%	29.7%	45.8%	10.8%	6.4%
女鹿沢地区	3.0%	30.3%	46.7%	17.0%	3.0%	4.8%	47.6%	33.3%	9.5%	4.8%	3.2%	32.3%	45.2%	16.1%	3.2%
野沢地区	4.1%	17.2%	63.1%	10.7%	4.9%	0.0%	18.8%	43.8%	31.3%	6.3%	3.6%	17.4%	60.9%	13.0%	5.1%
大杉地区	2.0%	25.3%	54.5%	16.2%	2.0%	4.5%	31.8%	36.4%	18.2%	9.1%	2.5%	26.4%	51.2%	16.5%	3.3%
五郷地区	3.7%	30.3%	55.0%	9.2%	1.8%	0.0%	25.0%	50.0%	18.8%	6.3%	3.2%	29.6%	54.4%	10.4%	2.4%
合計	5.2%	27.1%	51.0%	12.2%	4.5%	3.1%	34.6%	39.4%	16.5%	6.3%	4.9%	28.1%	49.5%	12.8%	4.7%

不満とする理由

住宅地の環境	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
冬場の除雪が不十分	13	3	3	2	3	24
騒音、振動、排気ガス等の公害がある	10	4	1	7	2	24
道路が狭い	6	1	4	1	1	13
自動車の交通量が多い	6	0	0	2	0	8
近所に商店、便利施設がない	1	2	0	3	2	8
近所に公園、遊び場がない	5	1	0	1	0	7
夜間が暗い、街灯がない	4	1	1	0	0	6
ごみ、環境等の問題、取り組みが不十分	2	3	1	0	0	6
道路の整備が不十分	2	1	0	0	2	5
事故・防犯等安全・安心が確保されていない	1	3	0	0	0	4
交通が不便	2	0	1	0	1	4
排水が不十分	0	2	1	0	0	3
近所に緑が少ない	2	0	0	0	0	2
下水道整備が遅れている	0	0	2	0	0	2



商店の充実、買物の利便性

【集計結果】

全体的にみると、満足の割合が不満の割合を上回っている。

不満とする理由については、近くに商店がないという意見がどの地区も多くなっている。

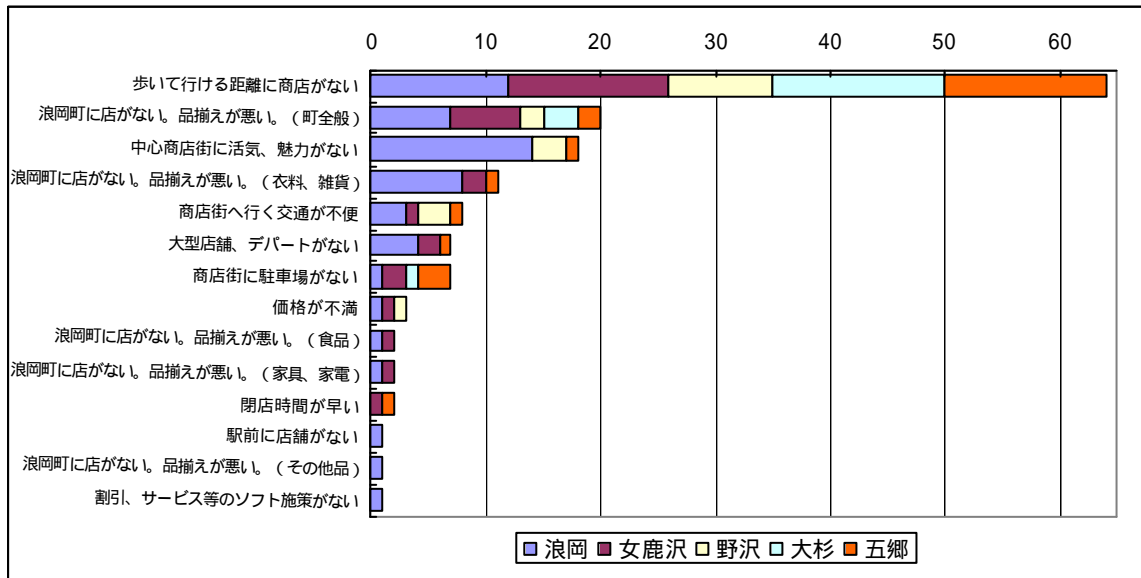
地区別にみると、野沢地区、五郷地区で満足よりも不満の割合が高くなっている。

構成比(単位:%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	5.7%	35.0%	41.2%	15.4%	2.7%	14.0%	26.0%	44.0%	12.0%	4.0%	6.7%	33.9%	41.5%	15.0%	2.9%
女鹿沢地区	3.0%	25.3%	40.4%	19.9%	11.4%	4.8%	33.3%	42.9%	19.0%	0.0%	3.2%	26.2%	40.6%	19.8%	10.2%
野沢地区	5.0%	5.8%	55.4%	25.6%	8.3%	0.0%	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%	4.4%	6.6%	56.2%	25.5%	7.3%
大杉地区	3.0%	29.3%	45.5%	13.1%	9.1%	0.0%	30.4%	30.4%	26.1%	13.0%	2.5%	29.5%	42.6%	15.6%	9.8%
五郷地区	3.6%	21.8%	45.5%	22.7%	6.4%	6.3%	18.8%	37.5%	25.0%	12.5%	4.0%	21.4%	44.4%	23.0%	7.1%
合計	4.5%	26.7%	44.0%	18.4%	6.4%	7.1%	25.4%	42.9%	19.0%	5.6%	4.8%	26.5%	43.9%	18.5%	6.3%

不満とする理由

商店、買い物	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
歩いて行ける距離に商店がない	12	14	9	15	14	64
浪岡町に店がない。品揃えが悪い。(町全般)	7	6	2	3	2	20
中心商店街に活気、魅力がない	14	0	3	0	1	18
浪岡町に店がない。品揃えが悪い。(衣料、雑貨)	8	2	0	0	1	11
商店街へ行く交通が不便	3	1	3	0	1	8
大型店舗、デパートがない	4	2	0	0	1	7
商店街に駐車場がない	1	2	0	1	3	7
価格が不満	1	1	1	0	0	3
浪岡町に店がない。品揃えが悪い。(食品)	1	1	0	0	0	2
浪岡町に店がない。品揃えが悪い。(家具、家電)	1	1	0	0	0	2
閉店時間が早い	0	1	0	0	1	2
駅前に店舗がない	1	0	0	0	0	1
浪岡町に店がない。品揃えが悪い。(その他品)	1	0	0	0	0	1
割引、サービス等のソフト施策がない	1	0	0	0	0	1



産業・工業地の整備状況

【集計結果】

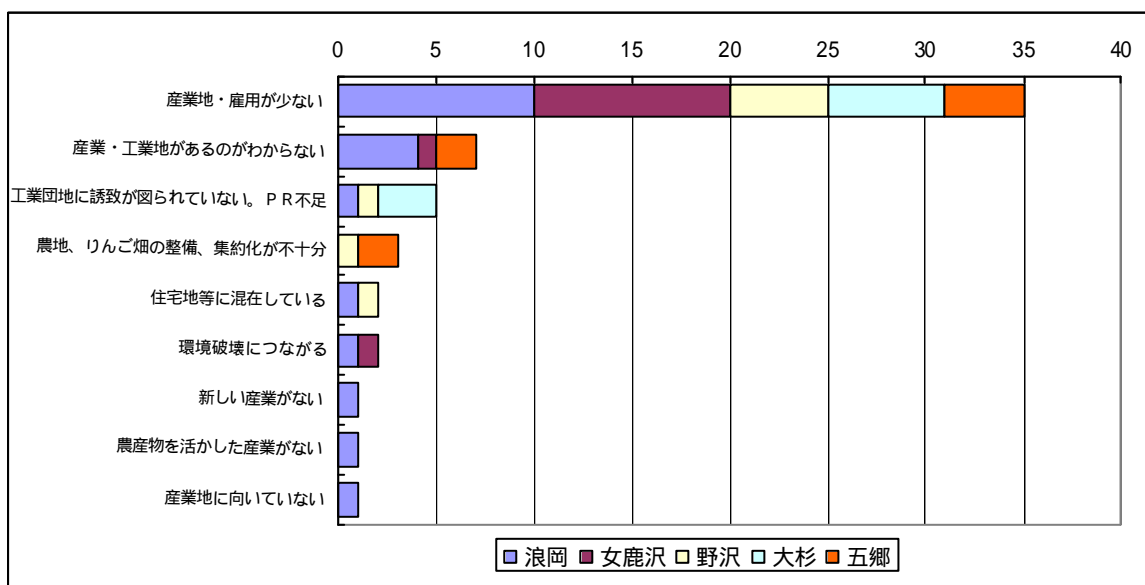
全体的にみると、非常に満足という意見がごくわずかで、不満が満足の割合を上回っている。不満とする理由については、産業地・雇用が少ないという意見がどの地区も多くなっている。地区別にみると、女鹿沢地区で非常に不満、野沢地区でやや不満の割合が高くなっている。

構成比 (単位 %)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	0.3%	8.9%	72.6%	15.4%	2.9%	2.0%	16.0%	58.0%	14.0%	10.0%	0.5%	9.8%	70.8%	15.3%	3.8%
女鹿沢地区	0.0%	6.4%	68.6%	13.5%	11.5%	0.0%	15.0%	35.0%	45.0%	5.0%	0.0%	7.4%	64.8%	17.0%	10.8%
野沢地区	0.9%	6.0%	63.2%	23.9%	6.0%	0.0%	0.0%	56.3%	31.3%	12.5%	0.8%	5.3%	62.4%	24.8%	6.8%
大杉地区	0.0%	6.5%	76.3%	10.8%	6.5%	0.0%	10.0%	75.0%	15.0%	0.0%	0.0%	7.1%	76.1%	11.5%	5.3%
五郷地区	0.9%	11.1%	67.6%	13.0%	7.4%	0.0%	0.0%	80.0%	6.7%	13.3%	0.8%	9.8%	69.1%	12.2%	8.1%
合計	0.4%	8.0%	70.3%	15.4%	5.9%	0.8%	10.7%	59.5%	20.7%	8.3%	0.4%	8.4%	68.9%	16.1%	6.2%

不満とする理由

産業・工業	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
産業地・雇用が少ない	10	10	5	6	4	35
産業・工業地があるのがわからない	4	1	0	0	2	7
工業団地に誘致が図られていない。PR不足	1	0	1	3	0	5
農地、りんご畑の整備、集約化が不十分	0	0	1	0	2	3
住宅地等に混在している	1	0	1	0	0	2
環境破壊につながる	1	1	0	0	0	2
新しい産業がない	1	0	0	0	0	1
農産物を活かした産業がない	1	0	0	0	0	1
産業地に向いていない	1	0	0	0	0	1



幹線道路(国・県道)の整備

【集計結果】

全体的にみると、満足の割合が不満の割合を若干上回っている。

不満とする理由については、道路幅員、歩道の不足、バイパスの整備や交通渋滞など、地区によって意見が分かれている。

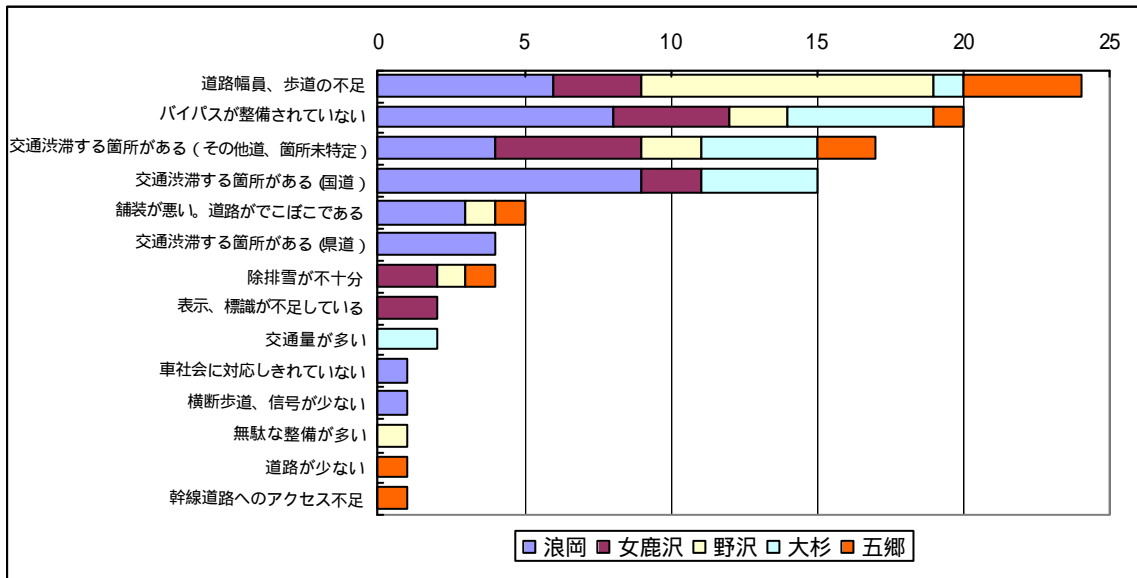
地区別にみると、野沢地区で不満の割合が高くなっている。

構成比(単位:%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	3.3%	27.8%	56.2%	8.0%	4.7%	2.0%	21.6%	58.8%	13.7%	3.9%	3.1%	27.1%	56.5%	8.7%	4.6%
女鹿沢地区	1.8%	21.1%	57.2%	13.3%	6.6%	0.0%	10.0%	75.0%	5.0%	10.0%	1.6%	19.9%	59.1%	12.4%	7.0%
野沢地区	1.7%	16.8%	47.1%	22.7%	11.8%	0.0%	6.7%	46.7%	40.0%	6.7%	1.5%	15.7%	47.0%	24.6%	11.2%
大杉地区	2.0%	19.2%	51.5%	19.2%	8.1%	0.0%	22.7%	63.6%	13.6%	0.0%	1.7%	19.8%	53.7%	18.2%	6.6%
五郷地区	0.0%	20.4%	61.1%	14.8%	3.7%	0.0%	12.5%	37.5%	43.8%	6.3%	0.0%	19.4%	58.1%	18.5%	4.0%
合計	2.2%	23.0%	55.2%	13.2%	6.3%	0.8%	16.9%	58.1%	19.4%	4.8%	2.0%	22.3%	55.6%	14.0%	6.1%

不満とする理由

幹線道路(国・県道)	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
道路幅員、歩道の不足	6	3	10	1	4	24
バイパスが整備されていない	8	4	2	5	1	20
交通渋滞する箇所がある(その他道、箇所未特定)	4	5	2	4	2	17
交通渋滞する箇所がある(国道)	9	2	0	4	0	15
舗装が悪い。道路がでこぼこである	3	0	1	0	1	5
交通渋滞する箇所がある(県道)	4	0	0	0	0	4
除排雪が不十分	0	2	1	0	1	4
表示、標識が不足している	0	2	0	0	0	2
交通量が多い	0	0	0	2	0	2
車社会に対応しきれていない	1	0	0	0	0	1
横断歩道、信号が少ない	1	0	0	0	0	1
無駄な整備が多い	0	0	1	0	0	1
道路が少ない	0	0	0	0	1	1
幹線道路へのアクセス不足	0	0	0	0	1	1



幹線道路以外の身近な道路の整備

【集計結果】

全体的にみると、不満の割合が満足の前を上回っている。

不満とする理由については、どの地区も道路幅員が狭い、舗装が悪いという意見が多くなっている。

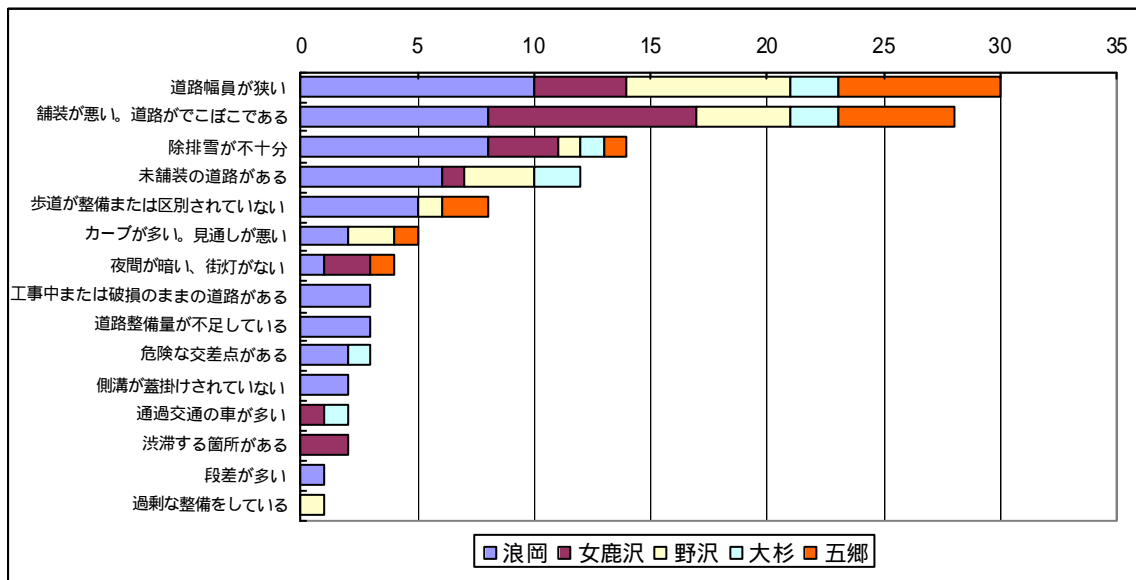
地区別にみると、野沢地区、五郷地区で不満の割合が高くなっている。

構成比 (単位 %)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	1.7%	19.2%	61.7%	12.2%	5.3%	0.0%	11.8%	58.8%	23.5%	5.9%	1.5%	18.2%	61.3%	13.6%	5.4%
女鹿沢地区	0.0%	11.7%	62.3%	16.7%	9.3%	0.0%	5.0%	80.0%	10.0%	5.0%	0.0%	11.0%	64.3%	15.9%	8.8%
野沢地区	1.7%	13.4%	51.3%	22.7%	10.9%	0.0%	12.5%	68.8%	18.8%	0.0%	1.5%	13.3%	53.3%	22.2%	9.6%
大杉地区	2.0%	10.2%	67.3%	16.3%	4.1%	0.0%	18.2%	63.6%	13.6%	4.5%	1.7%	11.7%	66.7%	15.8%	4.2%
五郷地区	0.0%	13.0%	57.4%	25.0%	4.6%	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	12.9%	53.2%	28.2%	5.6%
合計	1.2%	15.1%	60.4%	16.6%	6.6%	0.0%	12.0%	60.0%	22.4%	5.6%	1.0%	14.7%	60.4%	17.4%	6.5%

不満とする理由

幹線以外の身近な道路	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
道路幅員が狭い	10	4	7	2	7	30
舗装が悪い。道路がでこぼこである	8	9	4	2	5	28
除排雪が不十分	8	3	1	1	1	14
未舗装の道路がある	6	1	3	2	0	12
歩道が整備または区別されていない	5	0	1	0	2	8
カーブが多い。見通しが悪い	2	0	2	0	1	5
夜間が暗い、街灯がない	1	2	0	0	1	4
工事中または破損のままの道路がある	3	0	0	0	0	3
道路整備量が不足している	3	0	0	0	0	3
危険な交差点がある	2	0	0	1	0	3
側溝が蓋掛けされていない	2	0	0	0	0	3
通過交通の車が多い	0	1	0	1	0	2
渋滞する箇所がある	0	2	0	0	0	2
段差が多い	1	0	0	0	0	1
過剰な整備をしている	0	0	1	0	0	1



歩道の整備状況

全体的にみると、不満の割合が満足の前を上回っている。

不満とする理由については、浪岡地区で除排雪が不十分、野沢地区で歩道がないなど、地区によって意見が分かれている。

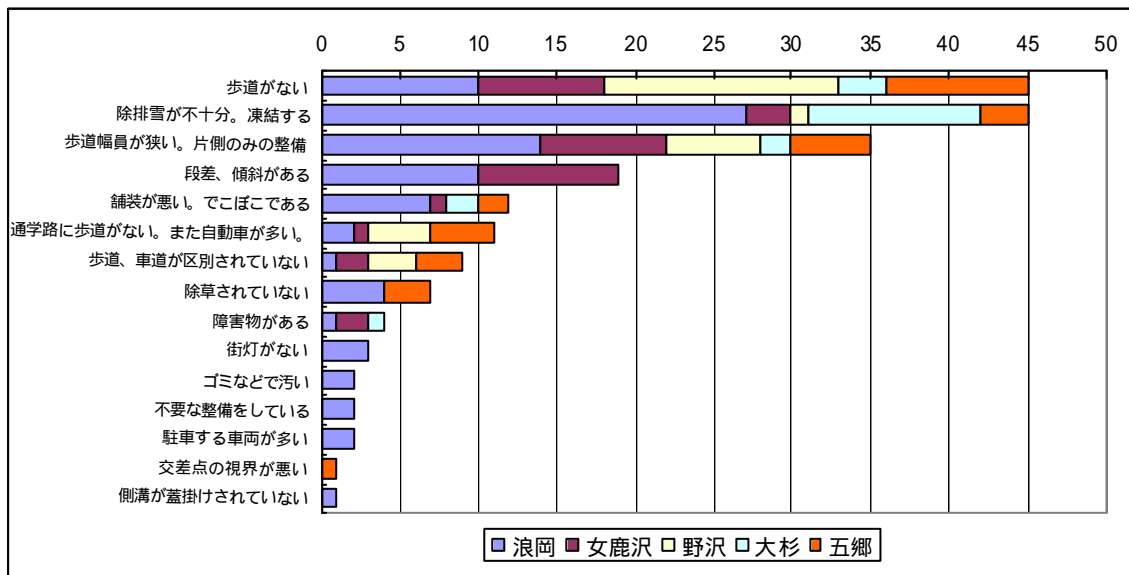
地区別にみると、野沢地区、五郷地区で不満の割合が高くなっている。

構成比（単位：％）

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	1.4%	14.9%	56.6%	18.5%	8.6%	0.0%	8.0%	44.0%	32.0%	16.0%	1.2%	14.1%	55.1%	20.1%	9.5%
女鹿沢地区	0.0%	11.6%	54.9%	23.2%	10.4%	4.8%	4.8%	61.9%	23.8%	4.8%	0.5%	10.8%	55.7%	23.2%	9.7%
野沢地区	1.7%	5.0%	44.2%	28.3%	20.8%	0.0%	0.0%	35.7%	42.9%	21.4%	1.5%	4.5%	43.3%	29.9%	20.9%
大杉地区	0.0%	13.4%	67.0%	15.5%	4.1%	13.0%	8.7%	52.2%	17.4%	8.7%	2.5%	12.5%	64.2%	15.8%	5.0%
五郷地区	0.0%	15.0%	53.3%	21.5%	10.3%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	13.0%	49.6%	22.0%	15.4%
合計	0.8%	12.6%	55.2%	21.1%	10.3%	3.2%	6.5%	43.5%	29.8%	16.9%	1.1%	11.8%	53.7%	22.2%	11.1%

不満とする理由

歩道	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
歩道がない	10	8	15	3	9	45
除排雪が不十分。凍結する	27	3	1	11	3	45
歩道幅員が狭い。片側のみの整備	14	8	6	2	5	35
段差、傾斜がある	10	9	0	0	0	19
舗装が悪い。でこぼこである	7	1	0	2	2	12
通学路に歩道がない。また自動車が多い。	2	1	4	0	4	11
歩道、車道が区別されていない	1	2	3	0	3	9
除草されていない	4	0	0	0	3	7
障害物がある	1	2	0	1	0	4
街灯がない	3	0	0	0	0	3
ゴミなどで汚い	2	0	0	0	0	2
不要な整備をしている	2	0	0	0	0	2
駐車する車両が多い	2	0	0	0	0	2
交差点の視界が悪い	0	0	0	0	1	1
側溝が蓋掛けされていない	1	0	0	0	0	1



身近な公園・広場

全体的にみると、不満の割合が満足の割合を上回っている。

不満とする理由については、身近に公園・広場がないという意見がどの地区も多くなっている。

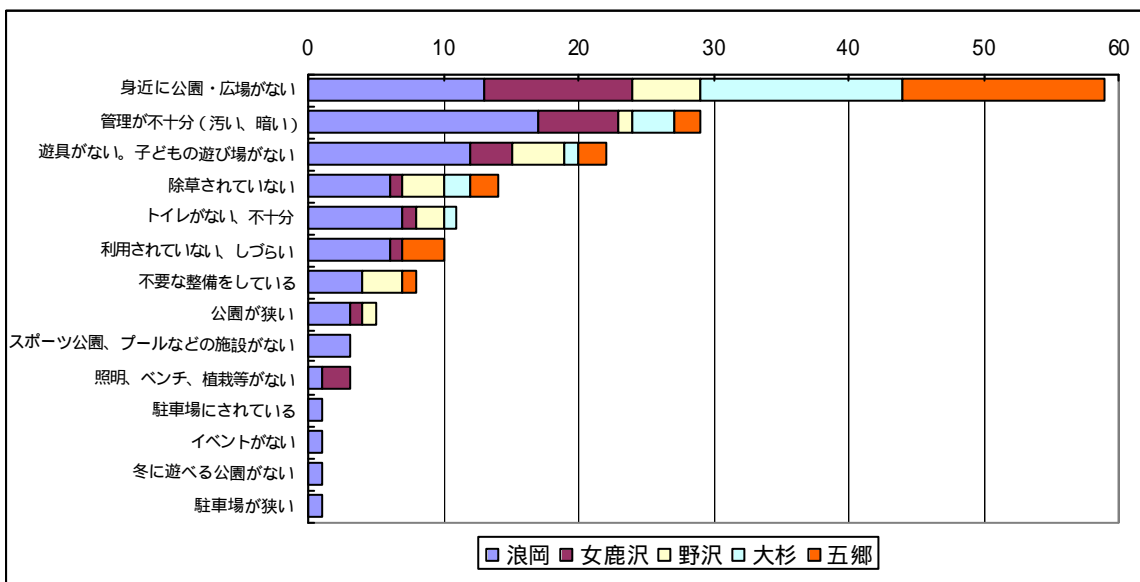
地区別にみると、五郷地区で非常に不満の割合が高くなっている。

構成比(単位%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	3.8%	19.5%	53.2%	15.6%	7.9%	0.0%	15.7%	51.0%	21.6%	11.8%	3.4%	19.0%	52.9%	16.3%	8.4%
女鹿沢地区	0.6%	16.3%	55.4%	21.1%	6.6%	4.8%	23.8%	52.4%	14.3%	4.8%	1.1%	17.1%	55.1%	20.3%	6.4%
野沢地区	1.7%	8.5%	56.4%	23.1%	10.3%	0.0%	18.8%	62.5%	18.8%	0.0%	1.5%	9.8%	57.1%	22.6%	9.0%
大杉地区	0.0%	14.1%	62.6%	14.1%	9.1%	0.0%	19.0%	38.1%	33.3%	9.5%	0.0%	15.0%	58.3%	17.5%	9.2%
五郷地区	0.0%	15.0%	53.3%	21.5%	10.3%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	13.0%	49.6%	22.0%	15.4%
合計	2.0%	16.2%	55.2%	18.3%	8.4%	0.8%	16.0%	47.2%	22.4%	13.6%	1.8%	16.1%	54.1%	18.8%	9.1%

不満とする理由

公園・広場	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
身近に公園・広場がない	13	11	5	15	15	59
管理が不十分(汚い、暗い)	17	6	1	3	2	29
遊具がない。子どもの遊び場がない	12	3	4	1	2	22
除草されていない	6	1	3	2	2	14
トイレがない、不十分	7	1	2	1	0	11
利用されていない、しづらい	6	1	0	0	3	10
不要な整備をしている	4	0	3	0	1	8
公園が狭い	3	1	1	0	0	5
スポーツ公園、プールなどの施設がない	3	0	0	0	0	3
照明、ベンチ、植栽等がない	1	2	0	0	0	3
駐車場にされている	1	0	0	0	0	1
イベントがない	1	0	0	0	0	1
冬に遊べる公園がない	1	0	0	0	0	1
駐車場が狭い	1	0	0	0	0	1



お住まいの地区の自然環境の状況の整備状況

全体的にみると、満足の割合が不満の割合を上回っている。

不満とする理由については、浪岡地区で身近に自然環境、緑地がないという意見を除いて、他の地区ではあまり意見が出ていない。

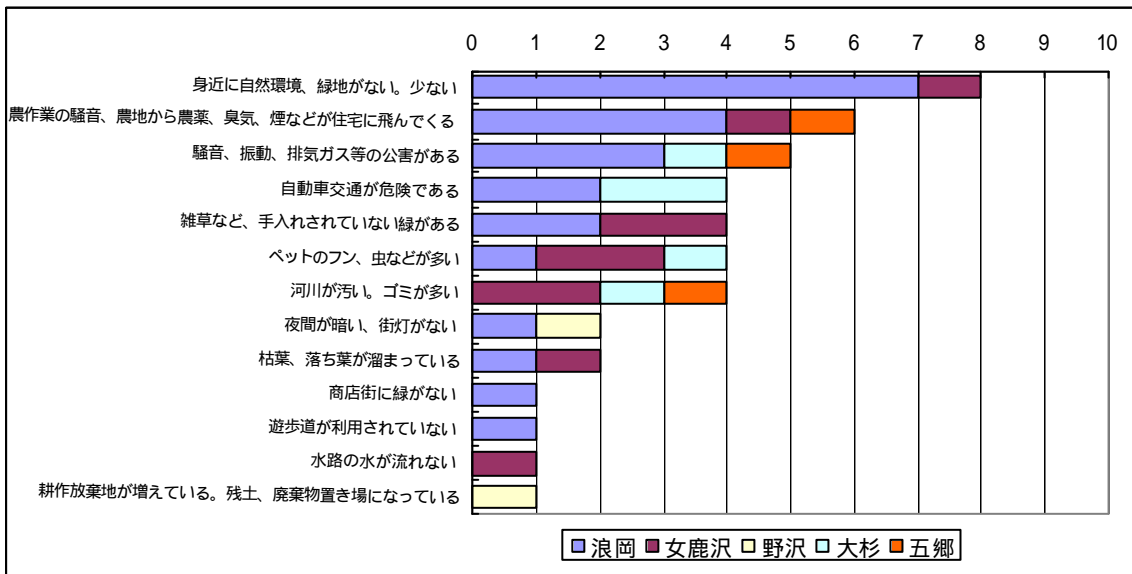
地区別にみると、大杉地区で満足の高割合が高くなっている。

構成比 (単位 :%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	4.3%	23.0%	63.4%	7.9%	1.4%	3.8%	21.2%	57.7%	9.6%	7.7%	4.3%	22.8%	62.7%	8.1%	2.1%
女鹿沢地区	2.4%	25.7%	61.1%	9.0%	1.8%	9.5%	19.0%	47.6%	23.8%	0.0%	3.2%	25.0%	59.6%	10.6%	1.6%
野沢地区	6.7%	20.8%	65.8%	5.0%	1.7%	12.5%	31.3%	56.3%	0.0%	0.0%	7.4%	22.1%	64.7%	4.4%	1.5%
大杉地区	2.0%	22.0%	65.0%	6.0%	5.0%	8.7%	52.2%	34.8%	0.0%	4.3%	3.3%	27.6%	59.3%	4.9%	4.9%
五郷地区	6.4%	29.4%	57.8%	3.7%	2.8%	0.0%	31.3%	62.5%	6.3%	0.0%	5.6%	29.6%	58.4%	4.0%	2.4%
合計	4.3%	23.9%	62.8%	6.9%	2.1%	6.3%	28.9%	52.3%	8.6%	3.9%	4.5%	24.6%	61.4%	7.2%	2.3%

不満とする理由

自然環境の状況	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
身近に自然環境、緑地がない。少ない	7	1	0	0	0	8
農作業の騒音、農地から農薬、臭気、煙などが住宅に飛んでくる	4	1	0	0	1	6
騒音、振動、排気ガス等の公害がある	3	0	0	1	1	5
自動車交通が危険である	2	0	0	2	0	4
雑草など、手入れされていない緑がある	2	2	0	0	0	4
ベットのフン、虫などが多い	1	2	0	1	0	4
河川が汚い。ゴミが多い	0	2	0	1	1	4
夜間が暗い、街灯がない	1	0	1	0	0	2
枯葉、落ち葉が溜まっている	1	1	0	0	0	2
商店街に緑がない	1	0	0	0	0	1
遊歩道が利用されていない	1	0	0	0	0	1
水路の水が流れない	0	1	0	0	0	1
耕作放棄地が増えている。残土、廃棄物置き場になっている	0	0	1	0	0	1



水路・下水道の整備状況

全体的にみると、不満の割合が満足の前を上回っている。

不満とする理由については、下水道が整備されていないという意見がどの地区も非常に多くなっている。

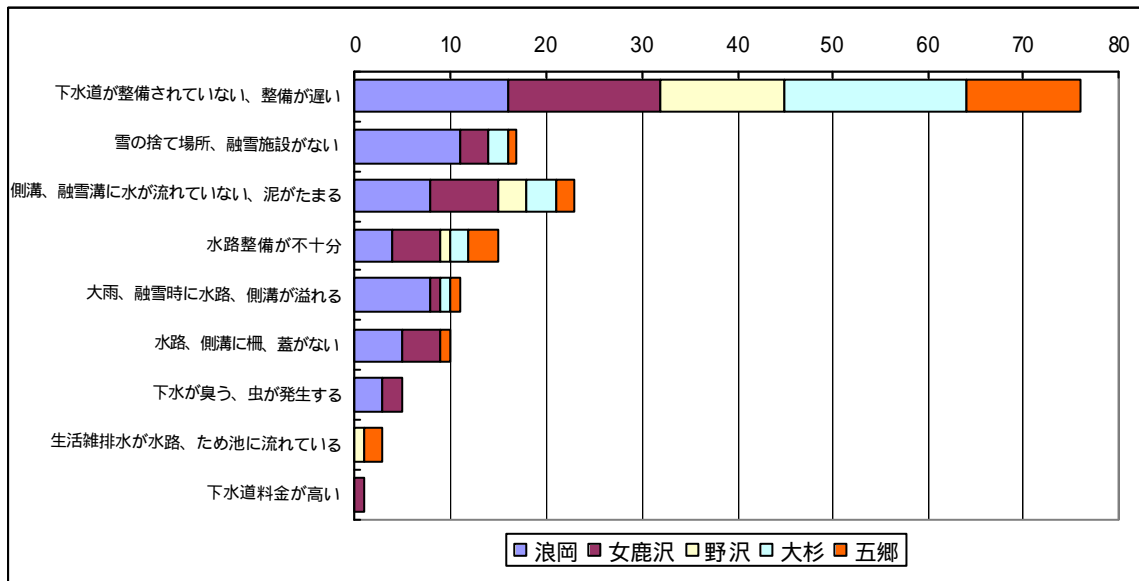
地区別にみると、野沢地区で不満の割合が高くなっている。

構成比(単位%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	3.3%	23.1%	51.6%	15.2%	6.8%	3.8%	17.3%	46.2%	21.2%	11.5%	3.3%	22.4%	51.0%	16.0%	7.4%
女鹿沢地区	0.0%	16.6%	48.5%	21.5%	13.5%	0.0%	19.0%	52.4%	28.6%	0.0%	0.0%	16.8%	48.9%	22.3%	12.0%
野沢地区	1.7%	8.3%	47.5%	27.5%	15.0%	0.0%	6.7%	40.0%	46.7%	6.7%	1.5%	8.1%	46.7%	29.6%	14.1%
大杉地区	0.0%	7.2%	59.8%	19.6%	13.4%	0.0%	26.1%	21.7%	30.4%	21.7%	0.0%	10.8%	52.5%	21.7%	15.0%
五郷地区	1.8%	8.2%	57.3%	19.1%	13.6%	0.0%	6.3%	31.3%	31.3%	31.3%	1.6%	7.9%	54.0%	20.6%	15.9%
合計	1.9%	16.1%	52.1%	19.1%	10.8%	1.6%	16.5%	40.2%	28.3%	13.4%	1.8%	16.1%	50.6%	20.3%	11.2%

不満とする理由

水路・下水道	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
下水道が整備されていない、整備が遅い	16	16	13	19	12	76
雪の捨て場所、融雪施設がない	11	3	0	2	1	17
側溝、融雪溝に水が流れていない、泥がたまる	8	7	3	3	2	15
水路整備が不十分	4	5	1	2	3	15
大雨、融雪時に水路、側溝が溢れる	8	1	0	1	1	11
水路、側溝に柵、蓋がない	5	4	0	0	1	10
下水が臭う、虫が発生する	3	2	0	0	0	5
生活雑排水が水路、ため池に流れている	0	0	1	0	2	3
下水道料金が低い	0	1	0	0	0	1



医療や福祉施設の整備状況

全体的にみると、不満の割合が満足の上回っている。

不満とする理由については、専門医院が不足しているという意見がどの地区も非常に多く、また町立病院に対する不満の意見も多くなっている。

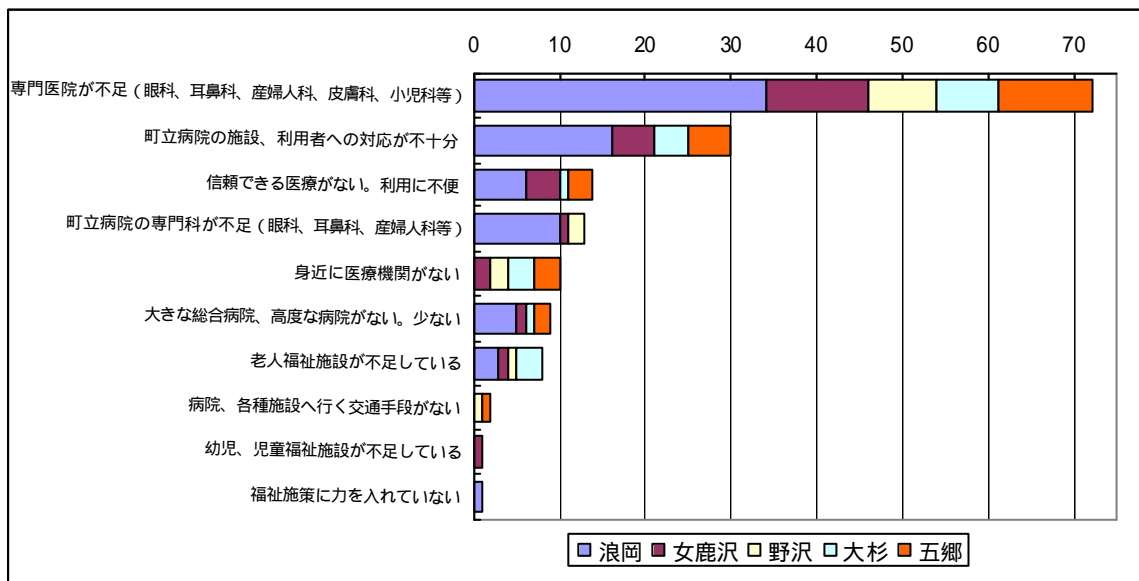
地区別にみると、五郷地区で不満の割合が高くなっている。

構成比(単位:%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	1.1%	14.1%	57.1%	20.7%	7.1%	0.0%	17.6%	43.1%	27.5%	11.8%	1.0%	14.6%	55.4%	21.5%	7.6%
女鹿沢地区	0.6%	14.1%	56.4%	20.9%	8.0%	4.8%	33.3%	52.4%	9.5%	0.0%	1.1%	16.3%	56.0%	19.6%	7.1%
野沢地区	1.7%	10.2%	59.3%	22.0%	6.8%	0.0%	25.0%	43.8%	18.8%	12.5%	1.5%	11.9%	57.5%	21.6%	7.5%
大杉地区	1.0%	10.1%	61.6%	18.2%	9.1%	0.0%	13.0%	47.8%	30.4%	8.7%	0.8%	10.7%	59.0%	20.5%	9.0%
五郷地区	0.9%	14.5%	53.6%	24.5%	6.4%	0.0%	60.0%	26.7%	13.3%	0.8%	12.8%	54.4%	24.8%	7.2%	
合計	1.0%	13.2%	57.3%	21.1%	7.3%	0.8%	18.3%	47.6%	23.8%	9.5%	1.0%	13.8%	56.1%	21.4%	7.6%

不満とする理由

医療、福祉	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
専門医院が不足(眼科、耳鼻科、産婦人科、皮膚科、小児科等)	34	12	8	7	11	72
町立病院の施設、利用者への対応が不十分	16	5	0	4	5	30
信頼できる医療がない。利用に不便	6	4	0	1	3	14
町立病院の専門科が不足(眼科、耳鼻科、産婦人科等)	10	1	2	0	0	13
身近に医療機関がない	0	2	2	3	3	10
大きな総合病院、高度な病院がない。少ない	5	1	0	1	2	9
老人福祉施設が不足している	3	1	1	3	0	8
病院、各種施設へ行く交通手段がない	0	0	1	0	1	2
幼児、児童福祉施設が不足している	0	1	0	0	0	1
福祉施策に力を入れていない	1	0	0	0	0	1



学校や文化施設の整備

全体的にみると、満足率が不満率を上回っている。

不満とする理由については、浪岡地区で図書館、運動施設が少ないという意見が多くなっている。

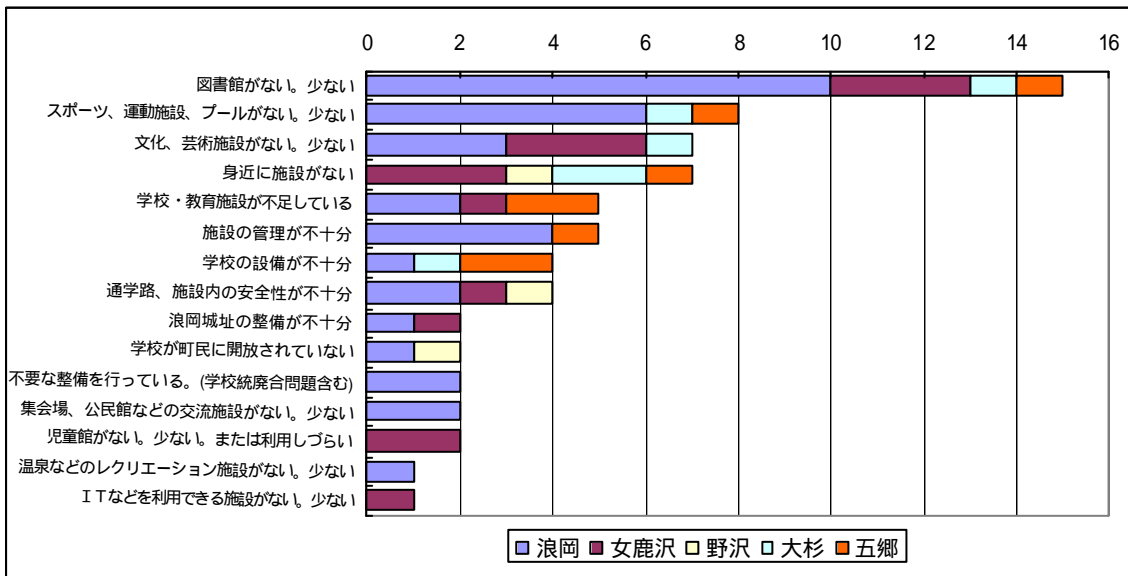
地区別にみると、野沢地区で満足率が高くなっている。

構成比（単位：％）

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	1.6%	21.2%	64.3%	9.9%	3.0%	0.0%	31.4%	58.8%	7.8%	2.0%	1.4%	22.4%	63.6%	9.6%	2.9%
女鹿沢地区	0.0%	23.2%	61.0%	12.8%	3.0%	0.0%	38.1%	47.6%	14.3%	0.0%	0.0%	24.9%	59.5%	13.0%	2.7%
野沢地区	3.4%	26.1%	60.5%	8.4%	1.7%	18.8%	31.3%	31.3%	6.3%	12.5%	5.2%	26.7%	57.0%	8.1%	3.0%
大杉地区	1.0%	15.3%	72.4%	7.1%	4.1%	0.0%	30.4%	56.5%	8.7%	4.3%	0.8%	18.2%	69.4%	7.4%	4.1%
五郷地区	2.8%	15.6%	68.8%	11.0%	1.8%	0.0%	18.8%	62.5%	6.3%	12.5%	2.4%	16.0%	68.0%	10.4%	3.2%
合計	1.6%	20.8%	64.6%	10.1%	2.8%	2.4%	30.7%	53.5%	8.7%	4.7%	1.7%	22.1%	63.2%	9.9%	3.1%

不満とする理由

学校、文化施設	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
図書館がない。少ない	10	3	0	1	1	15
スポーツ、運動施設、プールがない。少ない	6	0	0	1	1	8
文化、芸術施設がない。少ない	3	3	0	1	0	7
身近に施設がない	0	3	1	2	1	7
学校・教育施設が不足している	2	1	0	0	2	5
施設の管理が不十分	4	0	0	0	1	5
学校の設備が不十分	1	0	0	1	2	4
通学路、施設内の安全性が不十分	2	1	1	0	0	4
浪岡城址の整備が不十分	1	1	0	0	0	2
学校が町民に開放されていない	1	0	1	0	0	2
不要な整備を行っている。(学校統廃合問題含む)	2	0	0	0	0	2
集会場、公民館などの交流施設がない。少ない	2	0	0	0	0	2
児童館がない。少ない。または利用しづらい	0	2	0	0	0	2
温泉などのレクリエーション施設がない。少ない	1	0	0	0	0	1
ITなどを利用できる施設がない。少ない	0	1	0	0	0	1



鉄道利用の利便性

全体的にみると、まあまあ満足、やや不満がほぼ同じ割合なのに対して、非常に不満の割合が非常に満足の割合を上回っている。

不満とする理由については、浪岡地区で電車本数、車両が少ないという意見が非常に多くなっている。

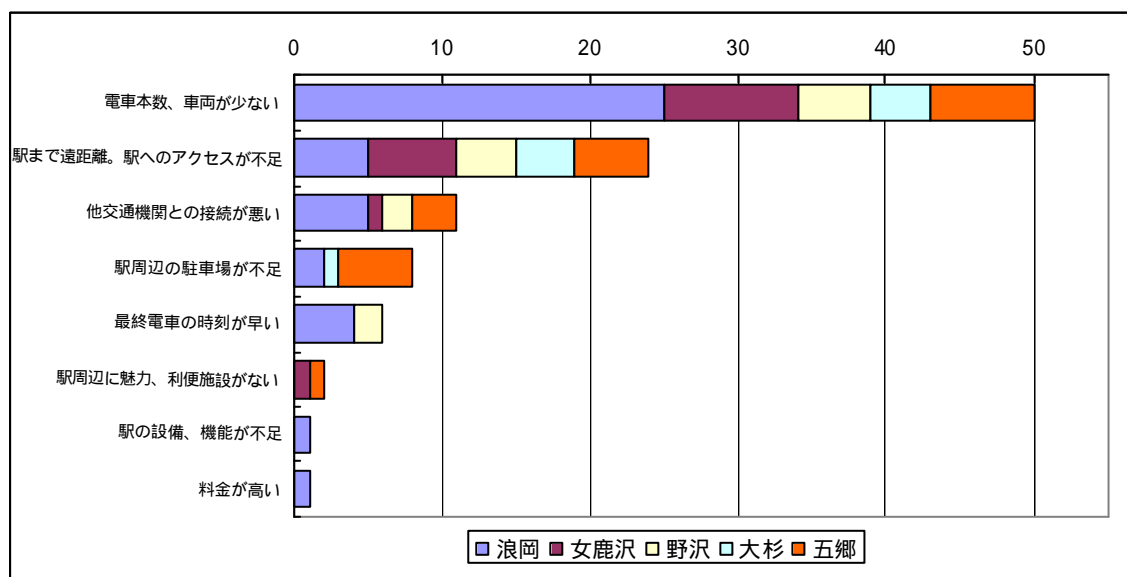
地区別にみると、野沢地区、五郷地区で不満の割合が高くなっている。

構成比 (単位: %)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	3.8%	19.2%	59.1%	14.0%	3.8%	3.9%	15.7%	51.0%	19.6%	9.8%	3.9%	18.8%	58.1%	14.7%	4.6%
女鹿沢地区	1.2%	24.2%	50.3%	17.6%	6.7%	4.8%	42.9%	38.1%	14.3%	0.0%	1.6%	26.3%	48.9%	17.2%	5.9%
野沢地区	0.8%	11.0%	57.6%	22.0%	8.5%	0.0%	12.5%	56.3%	25.0%	6.3%	0.7%	11.2%	57.5%	22.4%	8.2%
大杉地区	3.0%	18.0%	64.0%	9.0%	6.0%	0.0%	47.8%	39.1%	8.7%	4.3%	2.4%	23.6%	59.3%	8.9%	5.7%
五郷地区	0.0%	8.3%	65.1%	19.3%	7.3%	0.0%	0.0%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	7.2%	63.2%	21.6%	8.0%
合計	2.3%	17.5%	58.5%	15.9%	5.7%	2.4%	23.6%	47.2%	19.7%	7.1%	2.3%	18.3%	57.1%	16.4%	5.9%

不満とする理由

鉄道利用	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
電車本数、車両が少ない	25	9	5	4	7	50
駅まで遠距離。駅へのアクセスが不足	5	6	4	4	5	24
他交通機関との接続が悪い	5	1	2	0	3	11
駅周辺の駐車場が不足	2	0	0	1	5	8
最終電車の時刻が早い	4	0	2	0	0	6
駅周辺に魅力、利便施設がない	0	1	0	0	1	2
駅の設備、機能が不足	1	0	0	0	0	1
料金が安い	1	0	0	0	0	1



バス利用の利便性

全体的にみると、不満の割合が満足の前を上回っている。

不満とする理由については、バス本数が少ないという意見がどの地区も非常に多くなっている。

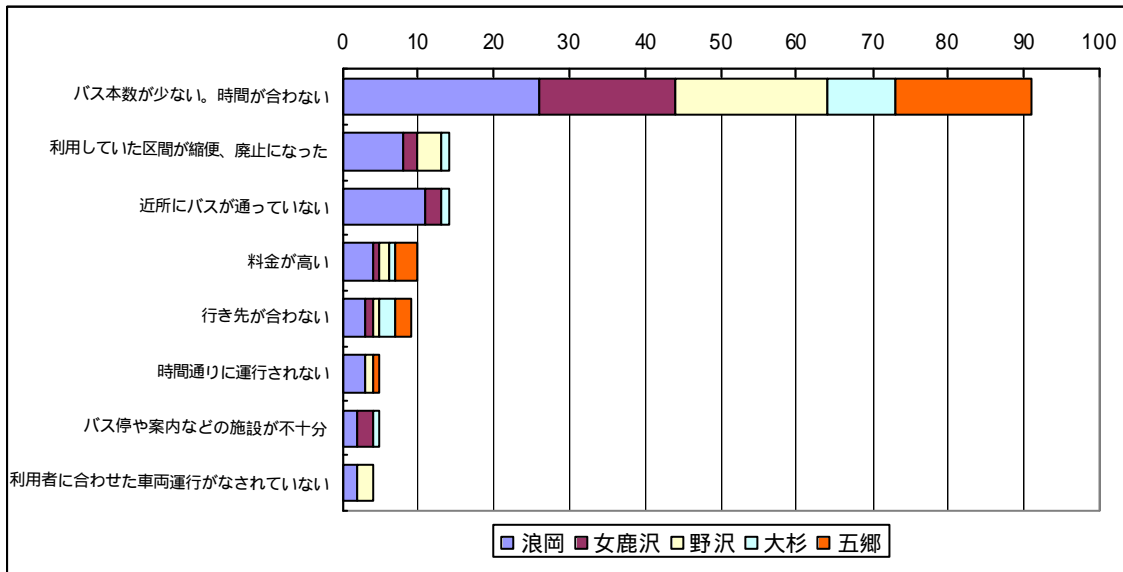
地区別にみると、野沢地区、五郷地区で不満の割合が高くなっている。

構成比 (単位：%)

	一般住民					子育て世代					合計				
	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満	非常に満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	非常に不満
浪岡地区	0.8%	11.4%	62.9%	16.3%	8.6%	1.9%	7.7%	48.1%	34.6%	7.7%	1.0%	10.9%	61.0%	18.6%	8.5%
女鹿沢地区	1.2%	24.2%	50.3%	17.6%	6.7%	4.8%	42.9%	38.1%	14.3%	0.0%	1.6%	26.3%	48.9%	17.2%	5.9%
野沢地区	0.0%	6.7%	51.3%	23.5%	18.5%	0.0%	12.5%	50.0%	18.8%	18.8%	0.0%	7.4%	51.1%	23.0%	18.5%
大杉地区	1.0%	9.0%	63.0%	21.0%	6.0%	0.0%	26.1%	52.2%	17.4%	4.3%	0.8%	12.2%	61.0%	20.3%	5.7%
五郷地区	0.0%	6.3%	62.2%	19.8%	11.7%	0.0%	0.0%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	5.5%	60.6%	22.0%	11.8%
合計	0.6%	10.2%	59.9%	19.1%	10.2%	0.8%	12.6%	50.4%	28.3%	7.9%	0.6%	10.5%	58.7%	20.3%	9.9%

不満とする理由

バス利用	浪岡	女鹿沢	野沢	大杉	五郷	合計
バス本数が少ない。時間が合わない	26	18	20	9	18	91
利用していた区間が縮便、廃止になった	8	2	3	1	0	14
近所にバスが通っていない	11	2	0	1	0	14
料金が高い	4	1	1	1	3	10
行き先が合わない	3	1	1	2	2	9
時間通りに運行されない	3	0	1	0	1	5
バス停や案内などの施設が不十分	2	2	0	1	0	5
利用者に合わせた車両運行がなされていない	2	0	2	0	0	4



問5 浪岡町の中で、将来にわたって残していきたい場所や整備・改善が必要だと思う場所をお答え下さい。

なおご回答は、同封いたしました添付図面に具体的な位置を示し、場所(地名など)、その理由、内容などをご記入下さい。(記入例を参照)

【集計結果】

商業地、中心市街地に関しては、商店街の活性化、駅前整備という意見が非常に多くなっている。特に商店街の活性化は、商店街の賑わいや活気の再生を望む意見が多い。

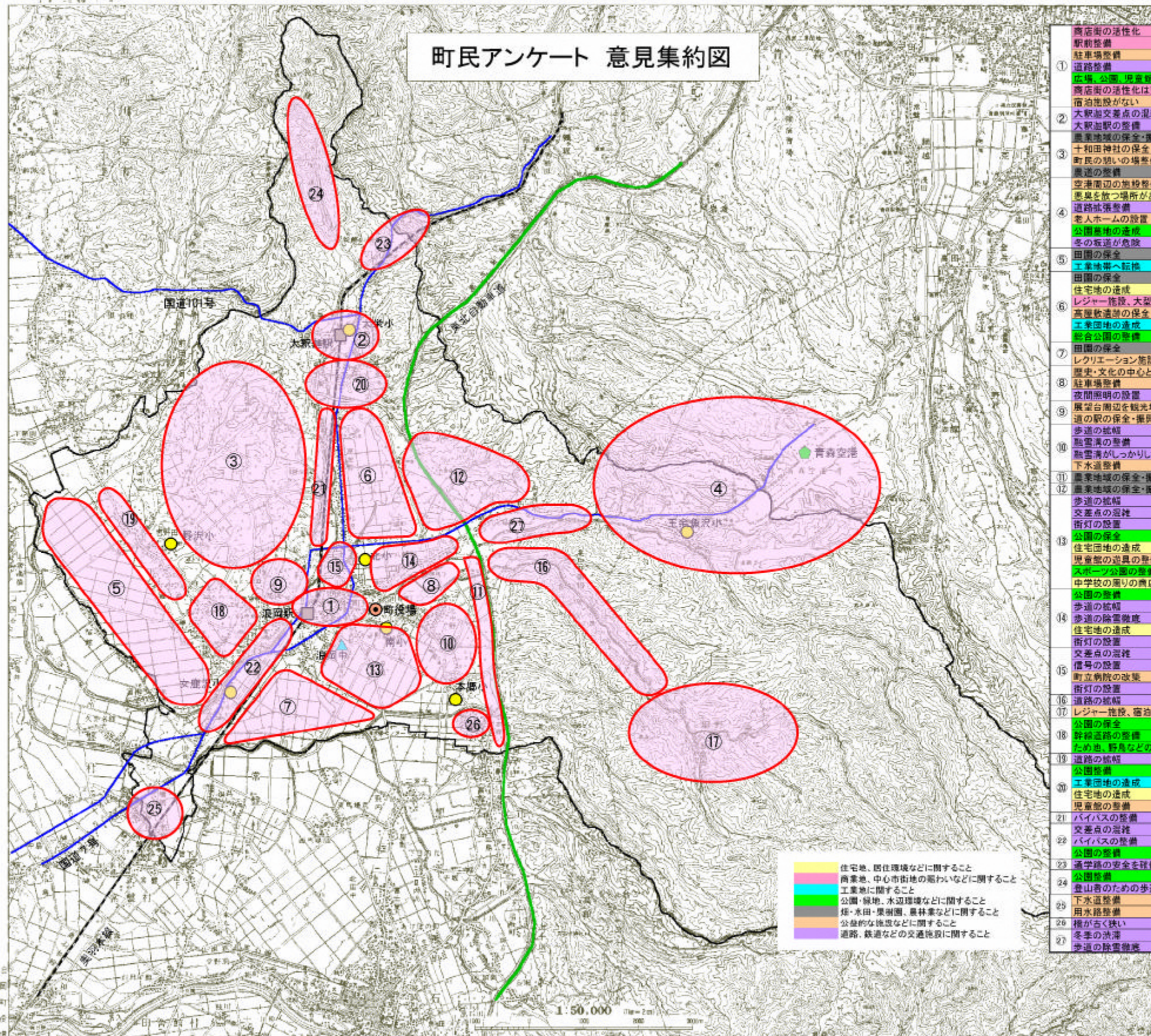
道路など交通施設に関しては、大釈迦交差点の混雑、道路・歩道の拡幅、バイパスの整備という意見が多くなっている。特に道路・歩道の拡幅という意見は、多くの地域で挙げられている。

公益施設等に関しては、歴史・文化の中心として遺跡を整備、展望台周辺を観光地として整備という意見が多くなっており、歴史・文化の保全、観光地の発展という意識がみられる。

農林業に関しては、農業地域の保全・振興という意見が多く、住宅地の造成や工業地に転換などの意見を大きく上回っている。

(次頁図参照)

町民アンケート 意見集約図



■ 住宅地、居住環境などに関すること
■ 商業地、中心市街地の賑わいなどに関すること
■ 工業地に関すること
■ 公園・緑地、水辺環境などに関すること
■ 畑・水田・果樹園、農林業などに関すること
■ 公営的な施設などに関すること
■ 道路、鉄道などの交通施設に関すること

商店街の活性化	67
駅前整備	24
駐車場整備	6
① 道路整備	4
広場、公園、児童館がない	2
商店街の活性化は望めない	1
宿泊施設がない	1
② 大駅近交差点の混雑	41
大駅近駅の整備	1
農業地域の保全・振興	28
十和田神社の保全	4
町民の憩いの場整備	3
農道の整備	1
空港周辺の施設整備	4
悪臭を放つ場所がある	4
④ 道路拡張整備	3
老人ホームの設置	2
公園緑地の造成	1
冬の転倒が危険	1
⑤ 田圃の保全	6
工業地帯へ転換	1
田圃の保全	5
住宅地の造成	4
⑥ レジャー施設、大規模店舗の誘致	3
高層ビル等の保全	2
工業団地の造成	1
総合公園の整備	1
⑦ 田圃の保全	5
レクリエーション施設の整備	1
歴史・文化の中心として観光を推進	13
⑧ 駐車場整備	1
夜間照明の設置	1
展望台周辺を観光地として整備	19
⑨ 道の駅の保全・振興	4
歩道の拡幅	4
⑩ 除雪機の整備	1
融雪溝がしっかりしている	1
下水道整備	1
⑪ 農業地域の保全・振興	5
⑫ 農業地域の保全・振興	4
歩道の拡幅	12
交差点の混雑	11
街灯の設置	4
⑬ 公園の保全	4
住宅団地の造成	2
児童館の設置の整備	1
スポーツ公園の整備	1
中学校の周りの商店が環境に悪い	1
公園の整備	6
⑭ 歩道の拡幅	2
歩道の除雪徹底	2
住宅地の造成	1
街灯の設置	1
交差点の混雑	6
信号の設置	3
⑮ 町立病院の改築	1
街灯の設置	1
⑯ 道路の拡幅	2
レジャー施設、宿泊施設の整備	8
公園の保全	2
⑰ 好景道路の整備	2
ため池、野鳥などの自然保護	1
⑲ 道路の拡幅	11
公園整備	4
⑳ 工業団地の造成	3
住宅地の造成	2
児童館の整備	1
㉑ バイパスの整備	12
交差点の混雑	9
㉒ バイパスの整備	6
公園の整備	1
㉓ 通学路の安全を確保	1
㉔ 公園整備	1
登山客のための歩道整備	1
㉕ 下水道整備	2
用水路整備	1
㉖ 幅が広く狭い	1
㉗ 冬季の決滞	1
歩道の除雪徹底	1

1:50,000

問6 他市町村との行き来や交流について、以下の行動目的ごとに多く行き来している行き先(市町村名)をお答え下さい。回答は、ご本人の他、ご家族の行動もご記入下さい。複数回答可能です。

- 通勤または業務
- 通学
- 買物
- 病院
- レジャー、レクリエーション
- 趣味、スポーツ
- 団体等の交流

【集計結果】

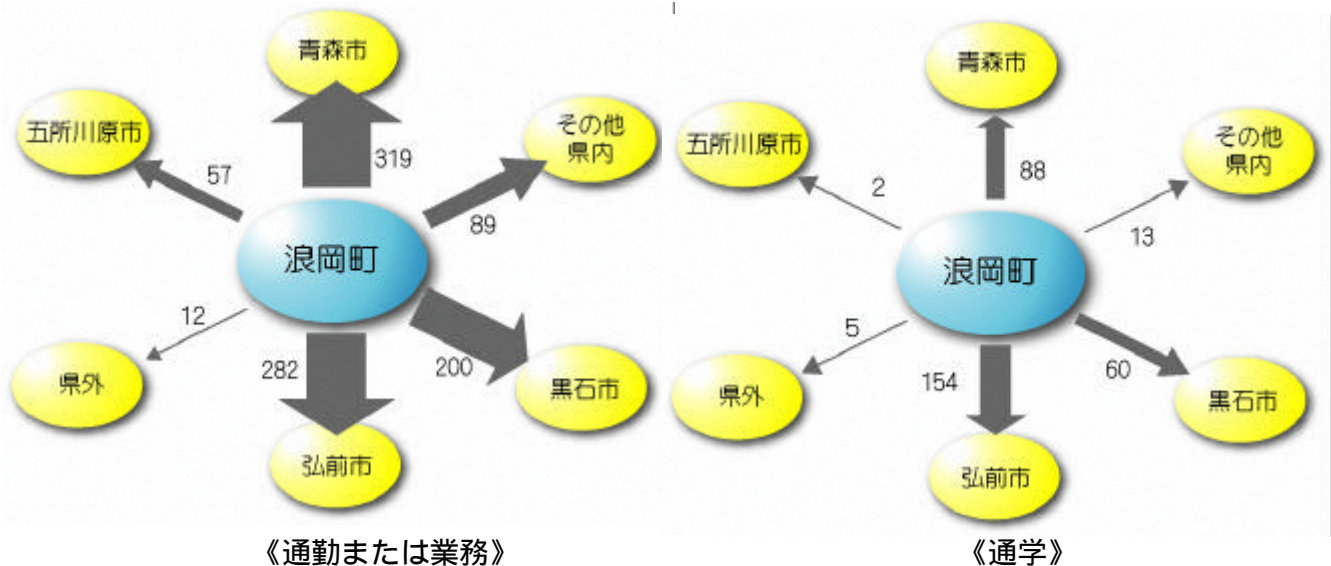
各行動とも青森市、弘前市への移動が多く、両市との繋がりが強い状況がうかがえる。行動別にみると、「通勤・業務」「団体との交流」では青森市、「通学」「買い物」「レジャー、レクリエーション」「趣味、スポーツ」では弘前市となっており、働きの日・日常生活の場での違いが表れている。また「病院」に関しては黒石市に依存している。

通勤または業務

	1.青森市		2.弘前市		3.黒石市		4.五所川原市		5.その他の県内		6.県外		7.行動なし	
	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
合計	319	28.6%	282	25.2%	200	17.9%	57	5.1%	89	8.0%	12	1.1%	158	14.1%
浪岡地区	136	28.5%	121	25.4%	81	17.0%	31	6.5%	39	8.2%	3	0.6%	66	13.8%
女鹿沢地区	49	23.3%	62	29.5%	32	15.2%	8	3.8%	30	14.3%	5	2.4%	24	11.4%
野沢地区	40	25.3%	40	25.3%	32	20.3%	6	3.8%	7	4.4%	2	1.3%	31	19.6%
大杉地区	60	43.5%	24	17.4%	19	13.8%	5	3.6%	7	5.1%	1	0.7%	22	15.9%
五郷地区	34	25.4%	35	26.1%	36	26.9%	7	5.2%	6	4.5%	1	0.7%	15	11.2%

通学

	1.青森市		2.弘前市		3.黒石市		4.五所川原市		5.その他の県内		6.県外		7.行動なし	
	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
合計	88	12.9%	154	22.6%	60	8.8%	2	0.3%	13	1.9%	5	0.7%	360	52.8%
浪岡地区	31	11.0%	63	22.3%	19	6.7%	2	0.7%	3	1.1%	2	0.7%	162	57.4%
女鹿沢地区	12	10.0%	31	25.8%	6	5.0%	0	0.0%	5	4.2%	2	1.7%	64	53.3%
野沢地区	13	12.7%	24	23.5%	14	13.7%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	50	49.0%
大杉地区	19	20.4%	19	20.4%	8	8.6%	0	0.0%	4	4.3%	0	0.0%	43	46.2%
五郷地区	13	15.3%	17	20.0%	13	15.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	41	48.2%

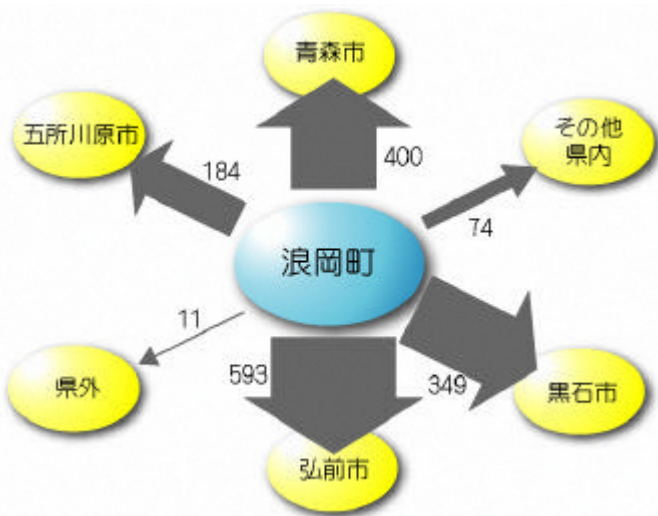


買物

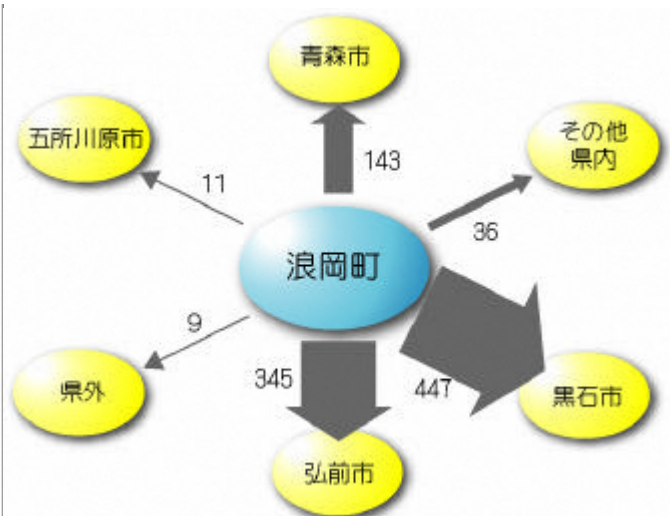
		1.青森市		2.弘前市		3.黒石市		4.五所川原市		5.その他の県内		6.県外		7.行動なし	
		票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
合計	浪岡地区	187	25.4%	263	35.7%	148	20.1%	68	9.2%	36	4.9%	5	0.7%	30	4.1%
	女鹿沢地区	74	23.9%	126	40.6%	49	15.8%	33	10.6%	18	5.8%	1	0.3%	9	2.9%
	野沢地区	27	11.9%	79	34.8%	49	21.6%	32	14.1%	11	4.8%	2	0.9%	27	11.9%
	大杉地区	71	31.3%	60	26.4%	41	18.1%	33	14.5%	5	2.2%	1	0.4%	16	7.0%
	五郷地区	41	19.8%	65	31.4%	62	30.0%	18	8.7%	4	1.9%	2	1.0%	15	7.2%
	計	400	23.4%	593	34.7%	349	20.4%	184	10.8%	74	4.3%	11	0.6%	97	5.7%

病院

		1.青森市		2.弘前市		3.黒石市		4.五所川原市		5.その他の県内		6.県外		7.行動なし	
		票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
合計	浪岡地区	59	11.7%	159	31.5%	197	39.0%	6	1.2%	12	2.4%	4	0.8%	68	13.5%
	女鹿沢地区	24	11.7%	79	38.3%	65	31.6%	0	0.0%	11	5.3%	2	1.0%	25	12.1%
	野沢地区	16	9.8%	48	29.3%	61	37.2%	1	0.6%	5	3.0%	1	0.6%	32	19.5%
	大杉地区	36	22.8%	26	16.5%	60	38.0%	2	1.3%	6	3.8%	1	0.6%	27	17.1%
	五郷地区	8	6.1%	33	25.0%	64	48.5%	2	1.5%	2	1.5%	1	0.8%	22	16.7%
	計	143	12.3%	345	29.6%	447	38.4%	11	0.9%	36	3.1%	9	0.8%	174	14.9%



《買物》



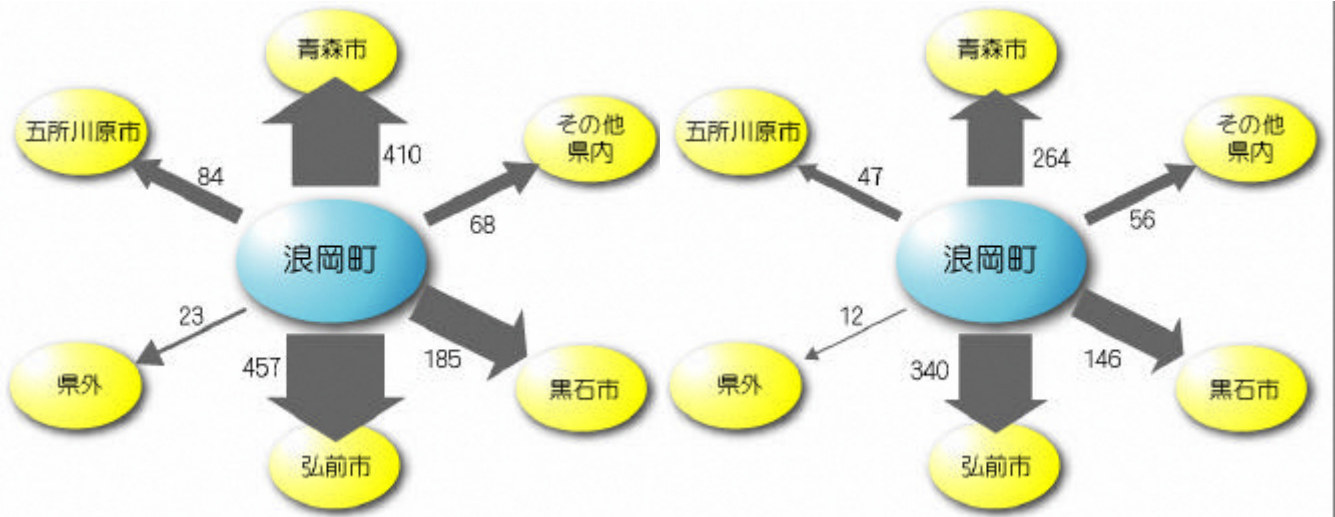
《病院》

レジャー、レクリエーション

		1.青森市		2.弘前市		3.黒石市		4.五所川原市		5.その他の県内		6.県外		7.行動なし	
		票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
合計	浪岡地区	191	31.2%	211	34.4%	81	13.2%	34	5.5%	35	5.7%	7	1.1%	54	8.8%
	女鹿沢地区	77	30.3%	94	37.0%	29	11.4%	15	5.9%	17	6.7%	2	0.8%	20	7.9%
	野沢地区	43	25.1%	61	35.7%	24	14.0%	10	5.8%	5	2.9%	5	2.9%	23	13.5%
	大杉地区	57	34.8%	48	29.3%	23	14.0%	13	7.9%	4	2.4%	3	1.8%	16	9.8%
	五郷地区	42	26.1%	43	26.7%	28	17.4%	12	7.5%	7	4.3%	6	3.7%	23	14.3%
	計	410	30.1%	457	33.5%	185	13.6%	84	6.2%	68	5.0%	23	1.7%	136	10.0%

趣味、スポーツ

		1.青森市		2.弘前市		3.黒石市		4.五所川原市		5.その他の県内		6.県外		7.行動なし	
		票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)
合計	浪岡地区	109	22.6%	157	32.5%	59	12.2%	25	5.2%	24	5.0%	2	0.4%	107	22.2%
	女鹿沢地区	46	22.5%	75	36.8%	27	13.2%	6	2.9%	13	6.4%	3	1.5%	34	16.7%
	野沢地区	29	19.6%	47	31.8%	20	13.5%	6	4.1%	4	2.7%	5	3.4%	37	25.0%
	大杉地区	48	33.8%	29	20.4%	19	13.4%	7	4.9%	12	8.5%	1	0.7%	26	18.3%
	五郷地区	32	26.4%	32	26.4%	21	17.4%	3	2.5%	3	2.5%	1	0.8%	29	24.0%
	計	264	24.0%	340	31.0%	146	13.3%	47	4.3%	56	5.1%	12	1.1%	233	21.2%

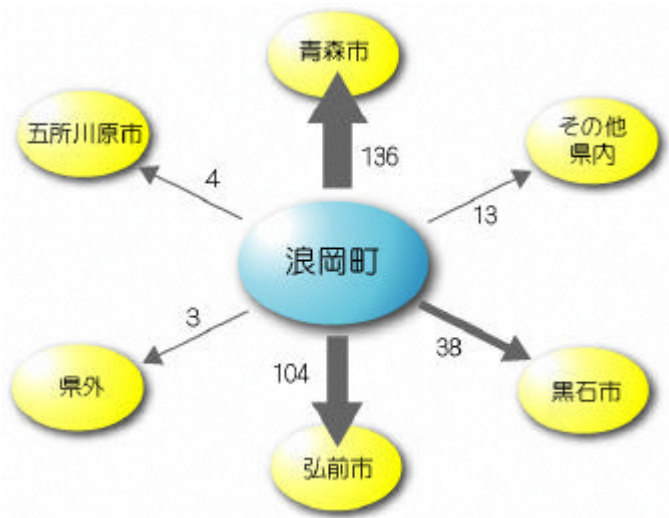


《レジャー、レクリエーション》

《趣味、スポーツ》

団体等の交流

	1. 青森市		2. 弘前市		3. 黒石市		4. 五所川原市		5. その他の県内		6. 県外		7. 行動なし		
	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	票数	構成比(%)	
合計	浪岡地区	53	22.4%	34	14.3%	15	6.3%	2	0.8%	5	2.1%	1	0.4%	127	53.6%
	女鹿沢地区	22	17.7%	29	23.4%	8	6.5%	1	0.8%	4	3.2%	0	0.0%	60	48.4%
	野沢地区	13	12.9%	22	21.8%	5	5.0%	1	1.0%	2	2.0%	1	1.0%	57	56.4%
	大杉地区	31	35.2%	7	8.0%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	47	53.4%
	五郷地区	17	18.7%	12	13.2%	8	8.8%	0	0.0%	2	2.2%	0	0.0%	52	57.1%
計	136	21.2%	104	16.2%	38	5.9%	4	0.6%	13	2.0%	3	0.5%	343	53.5%	



《団体等の交流》

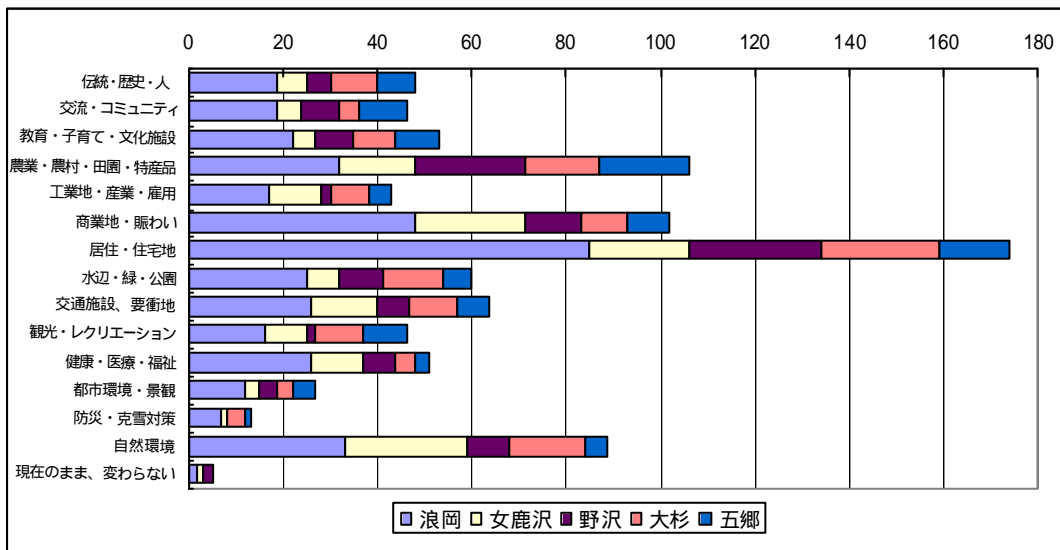
町の将来像についてお聞きします。

問7 浪岡町は、将来どのような“まち”になったらよいと思いますか？将来像のイメージについて、あなたのお考えをご記入下さい。

【集計結果（主要な意見）】

全体的にみると、「居住・住宅地」がもっとも多く、ついで「農業・農村・田園・特産物」「商業地・賑わい」の順となっている。

まちづくりの方向性	浪岡		女鹿沢		野沢		大杉		五郷		合計	
	票数	割合	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%	票数	%
伝統・歴史・人	19	4.9%	6	3.8%	5	4.0%	10	7.0%	8	7.2%	48	5.2%
交流・コミュニティ	19	4.9%	5	3.1%	8	6.3%	4	2.8%	10	9.0%	46	5.0%
教育・子育て・文化施設	22	5.7%	5	3.1%	8	6.3%	9	6.3%	9	8.1%	53	5.7%
農業・農村・田園・特産物	32	8.2%	16	10.1%	23	18.3%	16	11.3%	19	17.1%	106	11.4%
工業地・産業・雇用	17	4.4%	11	6.9%	2	1.6%	8	5.6%	5	4.5%	43	4.6%
商業地・賑わい	48	12.3%	23	14.5%	12	9.5%	10	7.0%	9	8.1%	102	11.0%
居住・住宅地	85	21.9%	21	13.2%	28	22.2%	25	17.6%	15	13.5%	174	18.8%
水辺・緑・公園	25	6.4%	7	4.4%	9	7.1%	13	9.2%	6	5.4%	60	6.5%
交通施設、要衝地	26	6.7%	14	8.8%	7	5.6%	10	7.0%	7	6.3%	64	6.9%
観光・レクリエーション	16	4.1%	9	5.7%	2	1.6%	10	7.0%	9	8.1%	46	5.0%
健康・医療・福祉	26	6.7%	11	6.9%	7	5.6%	4	2.8%	3	2.7%	51	5.5%
都市環境・景観	12	3.1%	3	1.9%	4	3.2%	3	2.1%	5	4.5%	27	2.9%
防災・克雪対策	7	1.8%	1	0.6%	0	0.0%	4	2.8%	1	0.9%	13	1.4%
自然環境	33	8.5%	26	16.4%	9	7.1%	16	11.3%	5	4.5%	89	9.6%
現在のまま、変わらない	2	0.5%	1	0.6%	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.5%
計	389	100.0%	159	100.0%	126	100.0%	142	100.0%	111	100.0%	927	100.0%



各項目の詳細な意見は次のとおりである。

(1) 伝統・歴史・人

- 文化遺産を残し、永く保存する
- 「中世の里」を継続・発展させる
- 音楽、歴史の充実した催し物で、人を呼べるまちづくり
- 豊かな自然と歴史のあるまちづくり
- 芸術性の高いきれいな町
- 町の歴史、伝統文化をアピールし、観光地とするまちづくり
- 住民参加型の集落が受け継ぐ、文化や活力の維持、発展をめざすまちづくり
- 浪岡城跡があり、活力ある人集めた観光等に力を入れたまち
- 歴史文化を後世に残した活気あるまちづくり
- 中世の館の周辺を自然と文化を取り入れたまちづくり

(2) 交流・コミュニティ

国際的交流のあるまちづくり
地域交流、他地域の人びとが交流するまちづくり
他市町村、周辺4市と交流するまち
農村文化と都市的文化の相互交流するまちづくり
隣、近所、人と人とのふれあい語り合えるコミュニケーションの多い町
交通の便を利用した、文化交流、国際的交流の場
宿泊施設の充実した、他県からの交流

(3) 教育・子育て・文化施設

駅前への図書館の整備
福祉と教育に重点を置いたまちづくり
教育・研究のまちづくり
中学校を中心とした町づくり
勉強、スポーツで子供がいきいきできる環境づくり
文化・教育・産業など調和のとれたまちづくり
豊かな人材育成のための専門学校、それを生かせる産業の発展
スポーツに力を入れたまちづくり、スポーツ施設の充実
教育施設と教ソフトの充実
優れた人材を育成するまち

(4) 農業・農村・田園・特産品

農村文化と都市的文化のバランスのとれた田園都市
豊かな農産物のある町
特産物の研究など、道の駅の充実
農業を中心としたまちづくり
農村景観、農村の豊かさを生かし居住環境づくり
りんご生産量日本一の町づくり(P.R、加工品開発など)
農地と居住地ははっきり区別をつけた発展
活力ある農林業を支援するまちづくり
田園、農村集落環境を主体としたまちづくり
農・商の調和がとれた町
観光、農業、生産技術、自然のバランスのとれた町
生産者と消費者の交流

(5) 工業地・産業・雇用

若者の働き場のある町
活気あふれる工業、産業の町
遠くに働きに行かなくても暮らせる豊かなまち
交通(空港へ)の利便性が良い町なので、それを活かせる産業、工業等の発展・企業誘致
交通アクセスの利便性を生かした住、農、産の均衡のとれた町づくり
豊かな自然環境を産業・工業に生かしたまちづくり
地元浪岡で働き、老後もレクリエーション、趣味を楽しめるまちづくり
企業誘致、工業団地の発展
豊かな人材育成と、それを生かせる産業の発展

(6) 商業地・賑わい

中小商工業者が安心して生活し、住み続けることができるまち
自然、公園と一体化した商業空間づくり
活気を感じられる商店街、にぎわう商店街のまちづくり
国道7号沿いの商店街の再整備
中心商店街を中心にした商業地の活性化
高齢者だけでも安心して暮らせる商店の充実
外から浪人が来るような賑わいのある町
安心して買い物などのできる町づくり
駅前周辺を整備して活気あるまちづくり
浪岡町の特産物を生かした店が並ぶまちづくり
昔ながらのよさも活かしながら、今の時代にあった商戦の商店街
ショッピングセンターの整備
町の中心部以外にも自転車、徒歩で行ける距離にスーパーの整備
県の中心部という位置を活かした商業施設づくり

(7) 居住・住宅地

定住する豊かさ利便性を活かした住まいづくり
青森の主要市町村の中間地で住宅地も増え、人口も増える中心の町
弘前、青森、五所川原、黒石のベッドタウンづくり
交通の要衝、利便性を活かしたベッドタウン
自然、公園と一体化した居住空間づくり
農村文化と都市的文化の田園居住都市
人口増大、定着を目指すまちづくり
浪岡駅より徒歩15分圏（半径約2km）を完全な居住環境とする
静かで、安全で、安心して生活できる居住環境づくり
県営、町営の住宅が整備されたベッドタウン構想
農業を捨て、農地を宅地化したベッドタウン化
農村景観を生かしながら静かな居住空間のあるまちづくり
自然に溶け込んだ豊かさのある住宅団地づくり
住宅地を広げ、それに見合った水路、歩道等の整備
福祉施設が充実し、安心して住める生活環境づくり

(8) 水辺・緑・公園

田畑を残し、自然や公園との一体化
自然や公園と一体化した都市づくり
豊かな水を活かしたまちづくり
自然が豊かで、公園や気楽に使えるスポーツ施設が整う町
緑を活かした町づくり
緑の自然に囲まれた街づくり
浪岡川緑道公園の自然活用
子供からお年寄りまで一緒に過ごせる公園・空間のあるまちづくり
花岡公園とアップルヒルを結ぶ、眺望に恵まれた場所の公園化
レジャー施設、運動公園の遊び場の整備

(9) 交通施設・要衝地

国際線の空港を活かすまちづくり
浪岡から弘前、青森、五所川原に近い条件を活かすまちづくり
交通の利便性を生かしたまちづくり
道路網が整備され、歩道がついて安全なまちづくり
道路の新設
鉄道網の整備
空港にも近い交通の便利な町
4市に囲まれた利便を活かした交流、交通網の整備
4市の中間に位置する利便性を活かしたまち
交通の要衝を主軸にすえた町
道路（バイパス）の拡張
周辺地域の中心的都市をめざしたまちづくり
歩道が整備されている町

(10) 観光・レクリエーション

博物館や観光館などの施設の整備
訪れた人が心安まり、リフレッシュできる町
花岡荘を中心に道の駅までの整備
観光とレクリエーションの豊かなまちづくり
遊べて、買い物ができる、食べて、泊まれるレジャー施設が充実した町
自然、公園を利用したレクリエーションの出来る町
りんごなど特産物を活用したアピール
北畠城跡などの歴史、文化を生かした観光のまち
遊園地のようなレクリエーション、レジャー施設のあるまち
他市町村との交流の拠点なる観光、レクリエーションの場づくり
特産物と温泉を活用した町づくり

(11) 健康・医療・福祉

少子化にともない、教育・福祉に力を入れるまち
子どもからお年寄りまで健康で福祉の充実した町づくり
福祉施設の充実した町
高齢者や障害者も住みやすい居住環境づくり
医療の充実しているまちづくり
老人、子供に便利なまちづくり
健康増進と福祉の進んだまちづくり

(12) 都市環境・景観

- 環境との共生のまちづくり
- 景観を重視したまちづくり
- リサイクルの進んでいるまちづくり
- ゴミが落ちていないきれいな町
- 自然環境と自然エネルギーを積極的に利用したまちづくり
- 公害のない豊かな環境づくり

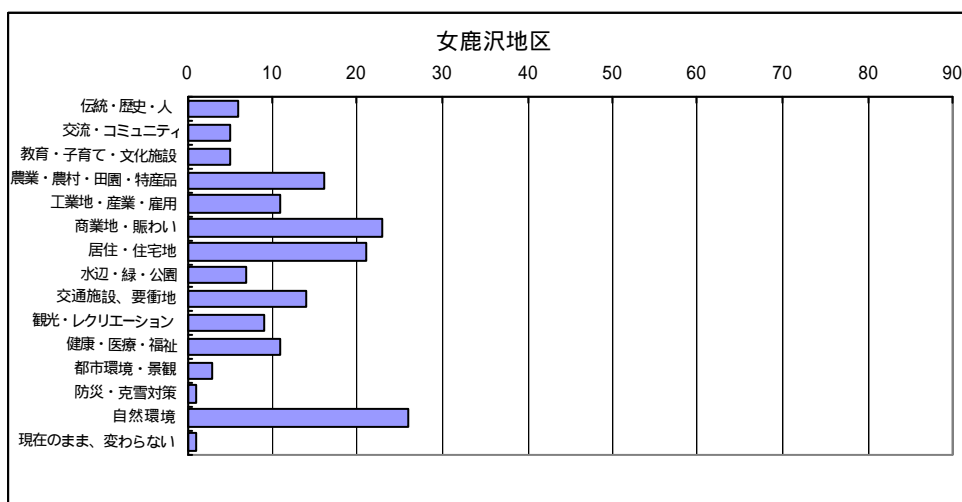
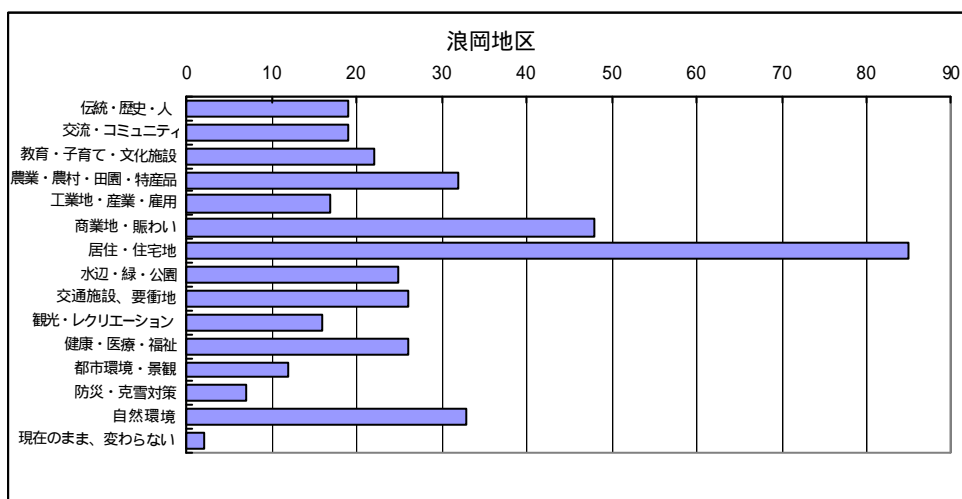
(13) 防災・克雪対策

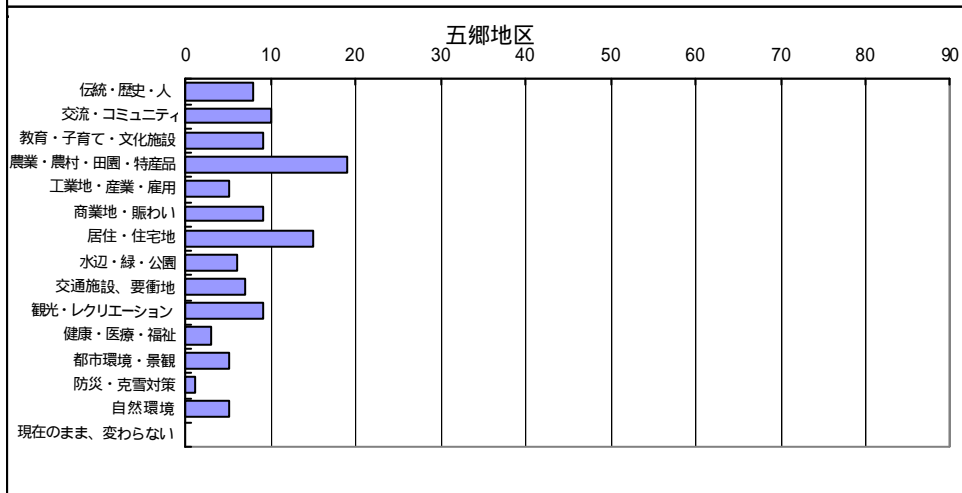
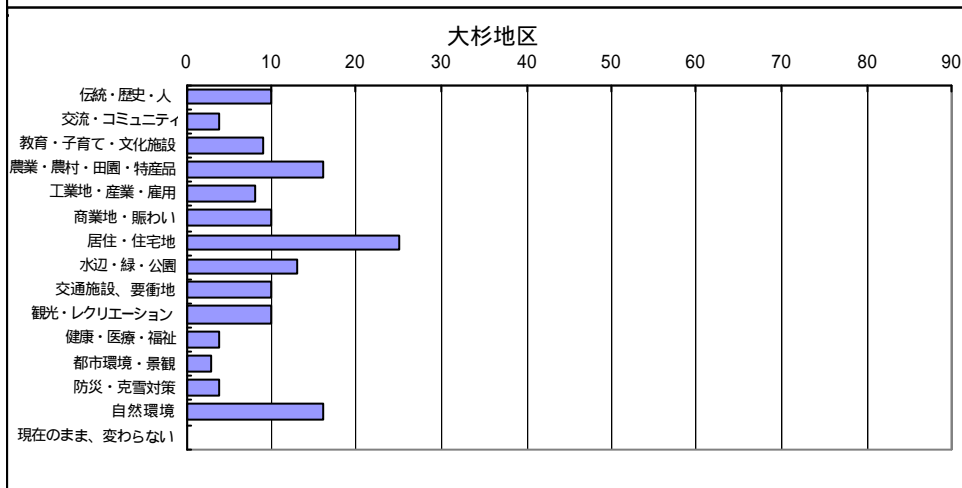
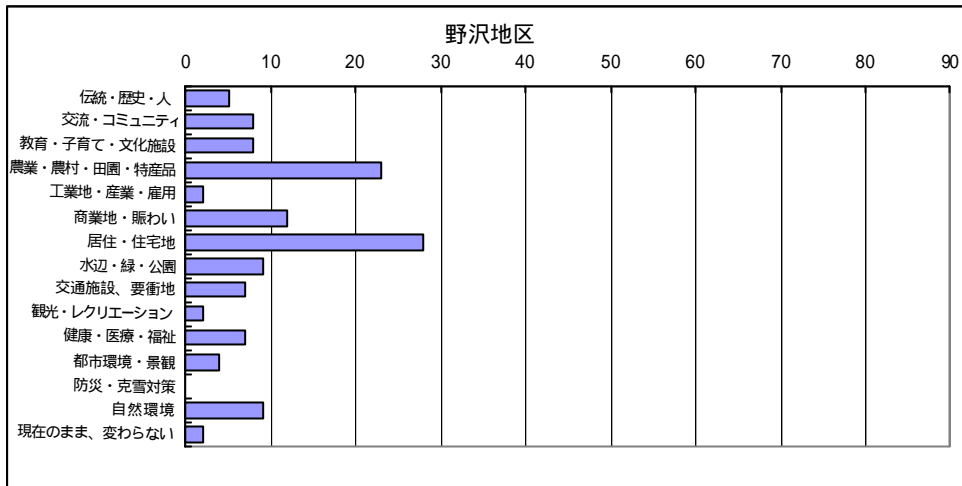
- 防災・安全・安心がある“まち”
- 冬期間の歩道除雪の充実
- 事故が無く、住みやすいまち
- 雪に強い町づくり、雪と共生できるまちづくり

(14) 自然環境

- 自然、公園と一体化したまちづくり
- 人、自然に優しい町
- 自然を破壊しない都市計画の実現
- 町民が自然環境に関心を持つ町
- 西山地区の自然を生かした開発
- 歴史的文化を大切に、豊かな自然を育む町づくり
- 森林を残して、自然を大切にしたい町
- 豊かな自然環境と共生したまちづくり
- 県民の森を活かしたまちづくり
- 中世の館の周辺を自然と文化を取り入れたまちづくり

各項目の詳細な意見の地区別集計は次のとおりである。





浪岡地区では「居住・住宅地」が最も多く、ついで「商業地・賑わい」「自然環境」となっている。

女鹿沢地区では「自然環境」が最も多く、ついで「商業地・賑わい」「居住・住宅地」となっている。

野沢地区では「居住・住宅地」が最も多く、ついで「農業・農村・田園・特産品」「商業地・賑わい」となっている。

大杉地区では「居住・住宅地」が最も多く、ついで「農業・農村・田園・特産品」「自然環境」となっている。

五郷地区では「農業・農村・田園・特産品」が最も多く、ついで「居住・住宅地」「交流・コミュニティ」となっている。



第3章 まちづくりの主要課題



3 - 1 時代の潮流を踏まえたまちづくりの課題

都市を取り巻く状況は、環境問題や少子高齢化社会の進展における福祉施策の充実、中心市街地の活性化など、多様な社会的課題を抱えている。このような社会的課題に対し、都市に住む地域住民が将来に渡って安全で快適な都市生活を営めるよう、長期的な視点に立って都市づくりを進める必要があることから、都市計画として受け止めるべき社会的課題とその対応の考え方を次のとおり整理した。

(1) 環境問題への取り組み、自然環境と共生するまちづくり

近年、環境問題は身近な環境から地球環境まで地域を越え広域化し、町レベル、個人レベルでの環境問題への取り組みが重要視されてきており、豊かな自然環境との共生するまちづくりが課題となっている。

浪岡町は森林、河川・湖沼、水田、そして浪岡の景観を代表するりんご畑など、豊かな自然に恵まれており、自然環境の保全と環境を守るためのまちづくり、また自然を活用し共生するまちづくりなど、循環型社会へ向けての対応、取り組みが望まれている。

このため、無秩序な市街地の拡大を抑制し、豊かな水辺や緑資源の維持・保全を図るとともに、自動車から公共交通機関への転換や交通の円滑化など、交通体系の合理化により環境負荷の少ないまちづくりに取り組んでいく必要がある。

(2) 少子高齢社会の進展に対応した人にやさしい福祉のまちづくり

我が国はすでに高齢社会を迎え、2015年には4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されており、また浪岡町においても、今後さらなる高齢化の進展が予測されている。住民意識においても「高齢者等の福祉対策」を求める意見は多く、これからのまちづくりには避けて通れない課題となっている。また非婚化・晩婚化、出生率の減少等により全国的に少子化が進行しており、浪岡町においても15歳未満の年少人口は減少傾向を示すとともに、就業や進学などを機会に若者の町外流出も多いのが現状である。

このような少子高齢社会の中、地域においては医療・福祉の充実、地域コミュニティの維持など、子育てや高齢者の活動を支援する安全安心な環境づくりが求められている。また活気あふれる、賑わいのあるまちづくりを実現するためには、将来の浪岡町を支える若年層への期待は大きく、子育て環境や若者の魅力ある就労の場の整備など、若者が定住化できる環境づくりが望まれている。

このため、地域コミュニティの維持や安全安心に暮らせるまちづくりを進め、地域に定住できる環境づくりや高齢者などの生活を支援する住環境づくり、道路や公共公益施設のバリアフリー化などにより、人々にやさしく福祉の充実した、暮らしやすいまちづくりに取り組んでいく必要がある。

(3) 魅力ある中心市街地づくり

中心市街地の商業は、長期化する景気の低迷に加え、周辺都市への大型店の進出と自動車への依存などにより活力が低下している。中心商業地は、地域住民の生活を支える拠点機能を担っており、今後、少子高齢社会に対応し、過度に自動車に依存しない快適な買い物のできる環境づくりが求められている。

このため、中心商業地においては、高齢者をはじめとした全ての買い物客や来街者が安全に歩け、安心して買い物できる商業地を目指し、商業地の魅力づくりや歩道のバリアフリー化、景観づくりなど、活気あふれる中心市街地づくりに取り組んでいく必要がある。

(4) 多様化する生活スタイル・ニーズに応じた生活空間のまちづくり

今日、人々の価値観の多様化が進み、心の豊かさやライフスタイルなどの自由な選択から住宅に対するニーズは多様化かつ高品質化が求められている。浪岡町においても良好な都市基盤を備えた福田地区の住宅地が整備されている。

今後の住宅地づくりは、多様化する住宅ニーズに対応した新しい住宅地の供給を計画的に進めるとともに、既存住宅地の住環境の改善に取り組んでいく必要がある。

(5) 歴史・伝統文化の保全・継承するまちづくり

浪岡城跡をはじめとする歴史・伝統文化は、町の大切な財産であり、将来に向かって保全・継承する体制づくりやまちづくりへの積極的な活用が望まれている。

(6) 住民主体型のまちづくり

阪神淡路大震災時における復興活動を契機に、まちづくりやボランティア活動に対する住民の意識は高揚し、これを反映して自発的な社会活動や地域社会への参加も高まってきている。

このため、都市計画においても住民参加の仕組みづくりや住民の発意によるまちづくりなど、住民参加型のまちづくりを推進していく必要がある。また、さらに住民のまちづくり活動を支援する行政の体制づくりを進め、官民協働のまちづくりに取り組んでいく必要がある。

本町における都市計画への住民参加の取り組みとして、本都市計画マスタープランの策定にあたり、有効回答率が90%近い住民アンケート調査を実施し、また住民主体のワークショップや住民代表を含めた策定委員会を開催しており、将来像策定の段階での住民参加を積極的に進めている。今後も、このような住民が参加し、主体となって進め、それを行政がサポートするまちづくりの進め方を継続していく必要がある。

3 - 2 まちづくりの課題の設定

ワークショップやアンケートなどの住民意見から集約された町の現況特性や時代の潮流などを踏まえ、本町のまちづくりの課題を次のとおり設定する。

項目	主な現況特性	まちづくりの課題
住宅地、住環境	<p>住宅地周辺の自然環境が守られている。</p> <p>町営住宅が老朽化している。</p> <p>住宅地の除排雪、流雪溝の整備が不十分である。</p> <p>既存住宅地の下水道整備が遅れている。</p> <p>生活道路は冬期に通行困難である。(道路幅員が狭い)</p> <p>歩道および一部の通学路整備が不十分である。</p> <p>街並みの景観づくりが計画的に行われていない。</p> <p>青森市、弘前市のペットタウンとしての需要が見込まれる。</p> <p>個人の価値観、生活スタイルに応じた多様多彩な住宅地づくりが求められている。</p>	<p>良好な住環境と自然環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅地内及び市街地周辺の豊富な自然に包まれた良好な住環境を維持、保全していく必要がある。既存住宅地の都市基盤施設の整備と改善 住宅地内の狭隘道路の解消、安全な歩行空間の確保など、生活道路の改善を図る必要がある。(歩道整備や除排雪対策など) 下水道整備をさらに促進する必要がある。計画的な住宅地の整備、開発 老朽化した公営住宅団地の改善、建替えを行う必要がある。 需要の拡大に応じた新たな住宅地の整備、開発を計画的に進める必要がある。 <p>街並み景観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな住宅地整備や既存住宅の建替えによる街並み景観づくりを誘導していく必要がある。
商業地、中心市街地	<p>大型店舗、ショッピングセンターがあり、買い物に便利である。</p> <p>中心市街地(商業地)が寂れている。空洞化している。</p> <p>歩いていける身近な商店、商業施設が少ない。大型店に対抗できる商店街がない。</p> <p>中心市街地内に駐車スペースが不足している。</p> <p>中心市街地内が歩きづらい。バリアフリー化がなされていない。</p> <p>駅が十分に利用されていない。駅前広場の整備が不十分である。</p> <p>空港アクセス道路の沿道に賑やかさが無い。県の玄関口として寂しい状況にある。</p> <p>中心市街地の衰退は全国的な問題であり、様々な活性化施策が導入されている。</p>	<p>中心市街地、商業地の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の中心となる商業地、商店街の魅力の向上を図る必要がある。(集客施設整備や大型店と共存できる再生、活性化施策の導入など) 安全、安心して回遊できる歩行空間を確保する必要がある。 道路、建築物のバリアフリー化を促進する必要がある。 <p>幹線道路沿道の計画的な施設誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心商業地とのバランスに配慮した幹線道路沿道土地利用の方向を明確化するとともに、これに従った商業施設の出店を計画的に規制、誘導していく必要がある。 <p>浪岡駅周辺の整備、改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 浪岡駅を活用し、駅周辺の商業機能の充実、集客施設や公益的施設の集積を図る必要がある。 駅及び中心市街地への交通利便性を強化する必要がある。(アクセス道路、駅前広場、駐車場など)
工業地、産業振興	<p>高速道路 I.C、空港に近く、立地条件がよい。企業誘致が容易である。</p> <p>さらなる工業振興を図る新たな工業団地が必要である。(地場産業、特産物加工など)</p> <p>農産物の生産とその加工が一体化されていない。</p> <p>産業構造の転換が図られる中で、町の工業動向は上昇の傾向にある。</p>	<p>計画的な工業地の整備、開発の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 地場産業、特産物加工などによる町の工業振興の拡大を図る必要がある。 さらに工業需要の拡大に対応するとともに、良好な交通条件を活かした工業地の拡大、企業の誘致を検討する必要がある。

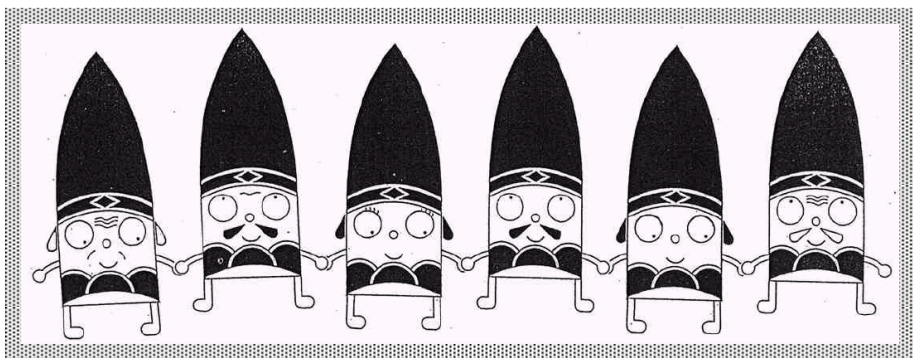
(;ワークショップ、アンケートによる住民意見 ;時代の潮流、浪岡町を取り巻く動向など)

項目	主な現況特性	まちづくりの課題
公園・緑地、自然環境	<p>自然環境が豊富である。遠景に八甲田山、岩木山などの景観がある。</p> <p>1人当たり公園面積も多く、また防災上の役割を果たしている。大規模な公園が多い。</p> <p>浪岡川の親水空間、緑道公園の整備が不十分である。“水辺の利用”に関して、町民意識が薄い。</p> <p>未整備なままの公園が多い。身近な公園が適切に配置されていない。</p> <p>既存公園の維持管理が十分に行き届いていない。</p> <p>地域から地球規模に至るまで、環境問題への取り組みが重要視されている。</p> <p>自然環境と共生するまちづくりが求められている。</p>	<p>自然環境、緑・水辺の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 浪岡町を象徴する豊かな自然、緑、水辺環境を維持、保全していく必要がある。 緑、水辺環境を積極的に取り入れ、まちづくりに活用していく方策を検討する必要がある。 <p>生活に身近な公園、水辺の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> 浪岡川及び浪岡緑道の親水性を高める必要がある。 生活者のニーズに対応する既設公園の改善を推進する必要がある。
農地・集落地	<p>りんご畑が見える景観がある。日本一のリンゴの産地である。</p> <p>農家人口の減少や農地の集約化による未耕作地がある。</p> <p>水田の生産調整によって、田園景観が悪化している。</p>	<p>集落、田園環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落地のゆとりある住環境の保全とさらなる向上を図る必要がある。 町の基幹産業である農業振興と併せ、大規模な水田・農地、りんご畑の保全と産業・観光振興等への活用のあり方を検討する必要がある。 <p>計画的な土地利用の転換</p> <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地等の未利用地の計画的な土地利用転換を検討する必要がある。
公益的施設	<p>町立病院の機能、設備が不十分である。</p> <p>老人福祉・健康保健施設が不十分である。</p> <p>文化施設が少ない。また利用効率が悪い。</p> <p>学校跡、空き教室の活用が不十分である。</p> <p>少子高齢社会の到来に伴い、学校の再編(統廃合等)と子育て環境、健康福祉施設の充実(安心して暮らせる保健・医療・福祉づくり)が求められている。</p> <p>町の歴史・伝統文化を継承する体制づくりが求められている。</p>	<p>健康・福祉機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康、福祉施設の整備を促進する必要がある。 病院、医療機関の充実を図る必要がある。 各種公益的施設のバリアフリー化を促進する必要がある。 <p>文化施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 中世の館、浪岡城跡など、既存施設の利用増進と施設周辺の整備拡充を図る必要がある。

(;ワークショップ、アンケートによる住民意見 ;時代の潮流、浪岡町を取り巻く動向など)

項目	主な現況特性	まちづくりの課題
道路・公共交通	<p>各種交通機関の利便性が高い。青森、弘前へのアクセス性がよい。</p> <p>国道7号をはじめ、道路の混雑、渋滞が激しい。国道7号バイパスが一部未整備となっている。</p> <p>青森空港へのアクセス道路が脆弱である。</p> <p>生活道路は冬期に通行困難である。歩道および一部の通学路整備が不十分である。</p> <p>町全体の道路ネットワークが不十分である。</p>	<p>幹線道路の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道7号の渋滞解消を図る、バイパスの整備を促進する必要がある。 ・五所川原市方面や青森空港方面を連絡する東西方向の軸の強化を図る必要がある。 ・未整備な都市計画道路の整備促進と町内における生活と都市活動を支援する生活幹線道路の機能的なネットワークを確立する必要がある。 <p>生活道路の整備、拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心して歩ける通学路及び歩行者空間の確保とネットワークを確立する必要がある。 ・冬期の生活道路の通行を確保する必要がある(除排雪の充実など)
観光・交流	<p>歴史的遺産が豊富である。</p> <p>「中世のまち」のまちづくりが進んでいない。</p> <p>観光施設、宿泊施設が少ない。</p>	<p>地域資源・施設の活用とネットワーク化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世の館、浪岡城跡、アップルヒルや自然環境等の文化・歴史・自然資源を観光資源として積極的活用と充実を図る必要がある。 ・観光資源や水辺・緑地等を有機的に繋ぐネットワーク形成を図る必要がある。

(;ワークショップ、アンケートによる住民意見 ;時代の潮流、浪岡町を取り巻く動向など)





第4章 将来目標の設定



4-1 上位計画の整理

本町のまちづくりの将来像を位置づけた上位関連計画は、「浪岡町長期総合計画」「浪岡町国土利用計画」がある。その計画の概要は次のとおりである。

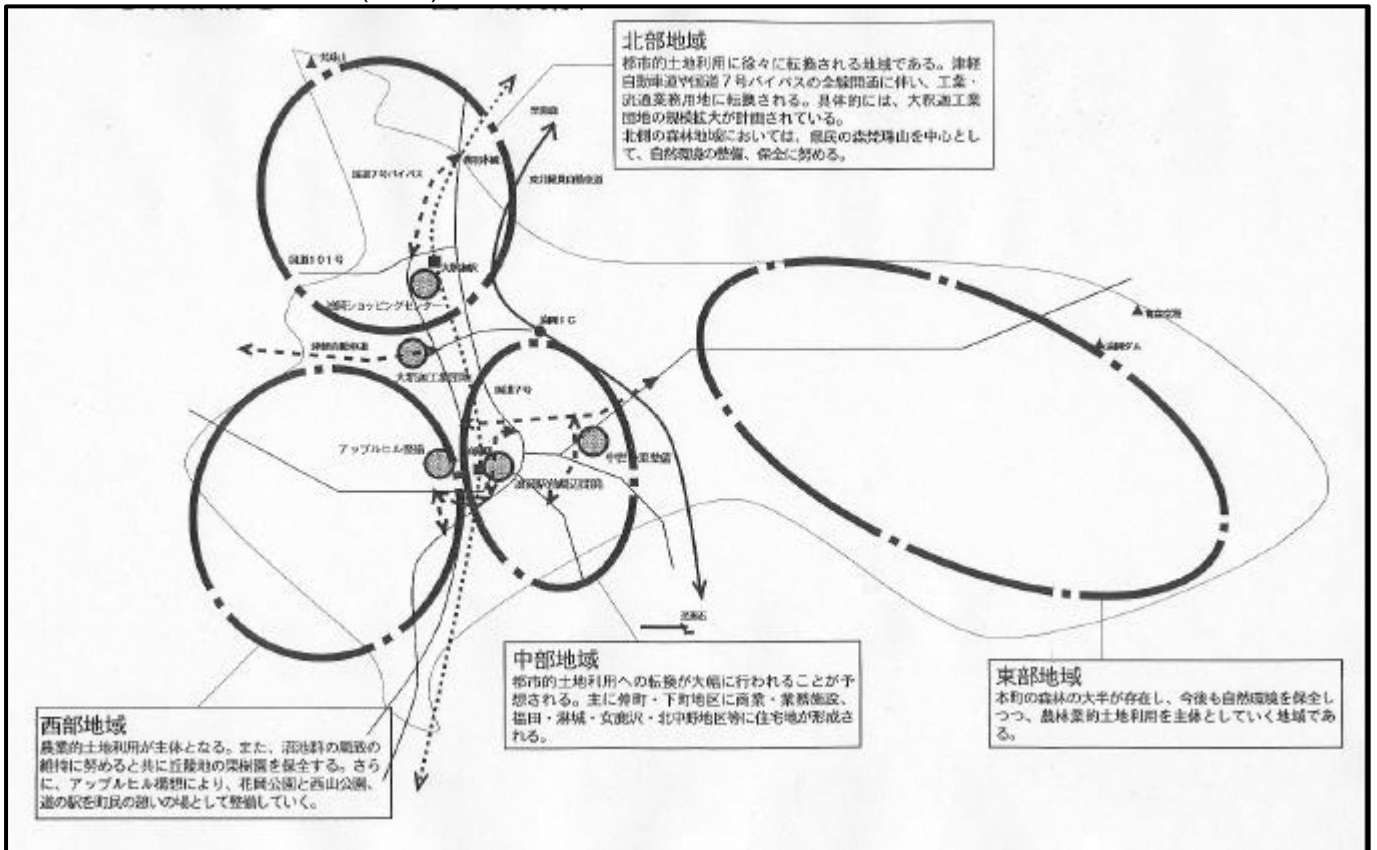
(1) 浪岡町長期総合計画〔浪岡町〕

策定時期	平成13年2月
まちづくりの基本理念	<p>1 番目の柱：たくましい浪岡町 活力ある農村やにぎわう中心商店街、産業地の形成による「たくましい浪岡町」の創造をめざす。</p> <p>2 番目の柱：やさしい浪岡町 子どもたちや高齢者、障害者の心がなごむ地域社会の形成による「やさしい浪岡町」の創造をめざす。</p> <p>3 番目の柱：さわやかな浪岡町 生活環境、自然環境問題に対応して取り組み、教育文化の香り高い快適な日常生活の形成による「さわやかな浪岡町」の創造をめざす。</p>
将来像	<p>テーマ；『みんなが主役 やっぱり大好き浪岡町 豊かな水・人・歴史文化を活かしたあずましいまちづくりをめざして』</p>
基本目標	<p>快適に暮らす基盤整備のまちづくり 活力にあふれ たくましい産業のまちづくり ゆとりある地域に開かれた 教育・文化のまちづくり やすらぎある 人にやさしい 保健・医療・福祉のまちづくり 豊かな自然と生活環境が共生するまちづくり 町民と行政が協働によるまちづくり</p>
主要な将来目標指標	<p>人口 21,000人(平成17年) 産業別人口比率(平成22年)</p> <p>22,000人(平成22年)</p> <p>第1次産業 25.0%</p> <p>第2次産業 27.2%</p> <p>第3次産業 47.8%</p>
都市計画、土地利用に関わるプロジェクト	<p>【主な戦略プロジェクト】</p> <p>浪岡駅周辺整備の推進</p> <p>魅力ある住宅の供給</p> <p>アップルヒルエリアの整備拡充</p> <p>魅力あふれる浪岡城跡等の保全・活用</p> <p>公共施設のバリアフリー化</p>

(2) 浪岡町国土利用計画〔浪岡町〕

策定期期	平成7年9月								
将来まちづくりの方向	<p>“ 活力に満ちた文化の香り高いほこれるまちづくり ” のために……</p> <p>本町のこれまでの歴史を尊び、恵まれた自然環境を生かし、町民がお互いに手をたずさえる本町の望ましい未来の姿を『ともにつくる 活力のまち あづましいまち』とする。</p> <p>ともに生きる いきがいのあるまち …… 暖かい福祉と健康な暮らし……</p> <p>ともに育む ほこれるまち …… 生涯学習で心ゆたかな暮らし……</p> <p>ともに汗する 活気のあるまち …… 地域産業の振興で安定した暮らし……</p> <p>ともに暮らす きれいなまち …… 快適な生活環境でくつろぐ暮らし……</p>								
町土利用の質的向上	<p>幹線道路沿いに発展してきた既成市街地の居住環境の改善に努めると共に、背後地に存在する未利用地の有効利用に努める。</p> <p>歴史的遺産を保存・活用し、ゆとりある環境を確保し、地域の活性化を促進すべく有効利用に努める。</p> <p>水系の総合的管理やダムが多目的利用を図りつつ、森林の持つ町土保全機能の向上、安全性の向上等を図る。</p> <p>中心市街地の高度利用を促進し、まちの核づくりに努める。</p> <p>人口又は、産業が高密度に集積している地域等、災害によって甚大な被害を受ける可能性のある地域については、安全性の向上等を図る必要がある。</p> <p>地域の自然的及び社会的条件に即しつつ、快適かつ、健康的な生活を支える国土の形成を図る。</p>								
主要な将来目標指標	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">人口 23,500人(平成17年)</td> <td style="width: 50%;">産業別人口比率(平成17年)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1次産業 18.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2次産業 32.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第3次産業 48.7%</td> </tr> </table>	人口 23,500人(平成17年)	産業別人口比率(平成17年)		第1次産業 18.9%		第2次産業 32.4%		第3次産業 48.7%
人口 23,500人(平成17年)	産業別人口比率(平成17年)								
	第1次産業 18.9%								
	第2次産業 32.4%								
	第3次産業 48.7%								
利用区分別の町土利用の基本方向	<p>農用地：保全に努め、農用地を計画的に団地化し、土地利用の効率化を図る。</p> <p>森林：保全と促進に努める。</p> <p>原野：自然環境の保全に配慮しつつ、有効な利用への転換を図る。</p> <p>水面、河川、水路：ダムは水資源の確保を図り、また観光的要素を踏まえながら活用を図る。河川は、災害防止のための整備・保全を図ると共に町民の憩いの場となるような親水性の向上を図る。</p> <p>道路：一般道路は、町土の有効利用及び良好な生活基盤等の整備を進めるために必要な用地の確保を図る。</p> <p>住宅地：人口と世帯数の増加を考慮し、必要な用地の確保を図り、さらに都市基盤整備を図り、良好な市街地の形成に努める。</p> <p>工業用地：工場の立地動向に対応し、工業生産に必要な用地の確保を図る。</p> <p>その他の宅地：商業・業務用地は、経済のソフト化・サービス化の進展等に対応して必要な用地の確保を図る。</p> <p>その他：文教施設、公園緑地、厚生福祉施設、交通施設等の公用・公共施設は、官許の保全に配慮して、必要な用地の確保を図る。</p>								
地域累計別の町土利用の基本方向	<p>市街地</p> <p>将来の増加人口に対応して緑豊かな住宅地の整備を促進するとともに、居住者の利便性が高い市街地の形成に努める。土地区画整理や再開発等により良好な市街地環境整備を図る必要がある。JR浪岡駅周辺や都市計画道路沿道地域を中心として商業施設や住宅地の立地が予想される。良好な市街地環境を形成するため、浪岡川沿いに親水空間や緑道を整備すると共に浪岡城址を含み一体的な環境整備を行っていく。</p> <p>市街地以外</p> <p>農業の生産基盤の整備改善を図りつつ、優良農地及び森林の確保に努める。交通体系の整備進捗状況を考慮し、工業用地や流通用地等を確保する。シンボリックな景観を呈している丘陵地や沼地等の景観保全を図り、健康、レクリエーションの場を整備しつつ、農業生産活動と一体的な生活環境づくりを進め、町民ニーズとの調和を図る。</p>								

土地利用構想イメージ図(素案)



4 - 2 都市づくりの理念、目標

(1) 都市づくりの課題解決に向けた考え方

浪岡町のまちづくりの課題解決に向けた考え方は、次のとおりである。

都市構造の対応

【主な課題】

良好な住環境と自然環境の保全
計画的な住宅地の開発、整備
計画的な工業地の整備、開発の検討
自然環境、緑・水辺の保全
集落、田園環境の保全
幹線道路の整備促進

【課題解決に向けた考え方】

自然環境を保全するエリアと生活・都市活動のためのエリアを明確に区分し、それぞれのエリアにおいて、計画的な保全と整備・改善の誘導を考える。

周辺都市との連携と町内における生活ゾーンや拠点間の連携強化を図るネットワークを構築する。

土地利用の対応

【主な課題】

既存住宅地の都市基盤施設の整備と改善
計画的な住宅地の開発、整備
中心市街地、商業地の活性化
幹線道路沿道の計画的な施設誘導
計画的な工業地の整備、開発の検討
自然環境、緑・水辺の保全
集落、田園環境の保全
計画的な土地利用の転換

【課題解決に向けた考え方】

機能集積を図った都市拠点、生活拠点づくりと、需要のバランスに配慮した住宅地、工業地等の計画的な土地利用の誘導、市街地整備を考える。

地域の個性、特性を活かした地域産業の振興及び魅力ある産業業務地、商業地づくりのあり方を考える。

交通施設の対応

【主な課題】

既存住宅地の都市基盤施設の整備と改善
浪岡駅周辺の整備、改善
幹線道路の整備促進
生活道路の整備、拡充
安全な歩行者空間の確保

【課題解決に向けた考え方】

周辺都市との連携や広域的な交通結節機能・利便性のさらなる充実と、良好な位置、交通条件を活かした都市づくりを考える。

地域の生活の利便性と安全性の向上を図る生活交通と歩行者の交通体系のあり方を考える。

生活利便施設の対応

【主な課題】

健康・福祉機能の充実
文化施設の充実

【課題解決に向けた考え方】

既存施設の向上と不足する施設、機能の計画的配置と少子高齢化社会に対応する施設のバリアフリー化に配慮した施設づくりを考える。

都市環境の対応

【主な課題】

街並み景観の形成
自然環境、緑・水辺の保全
生活に身近な公園、水辺の再編
地域資源・施設の活用とネットワーク化

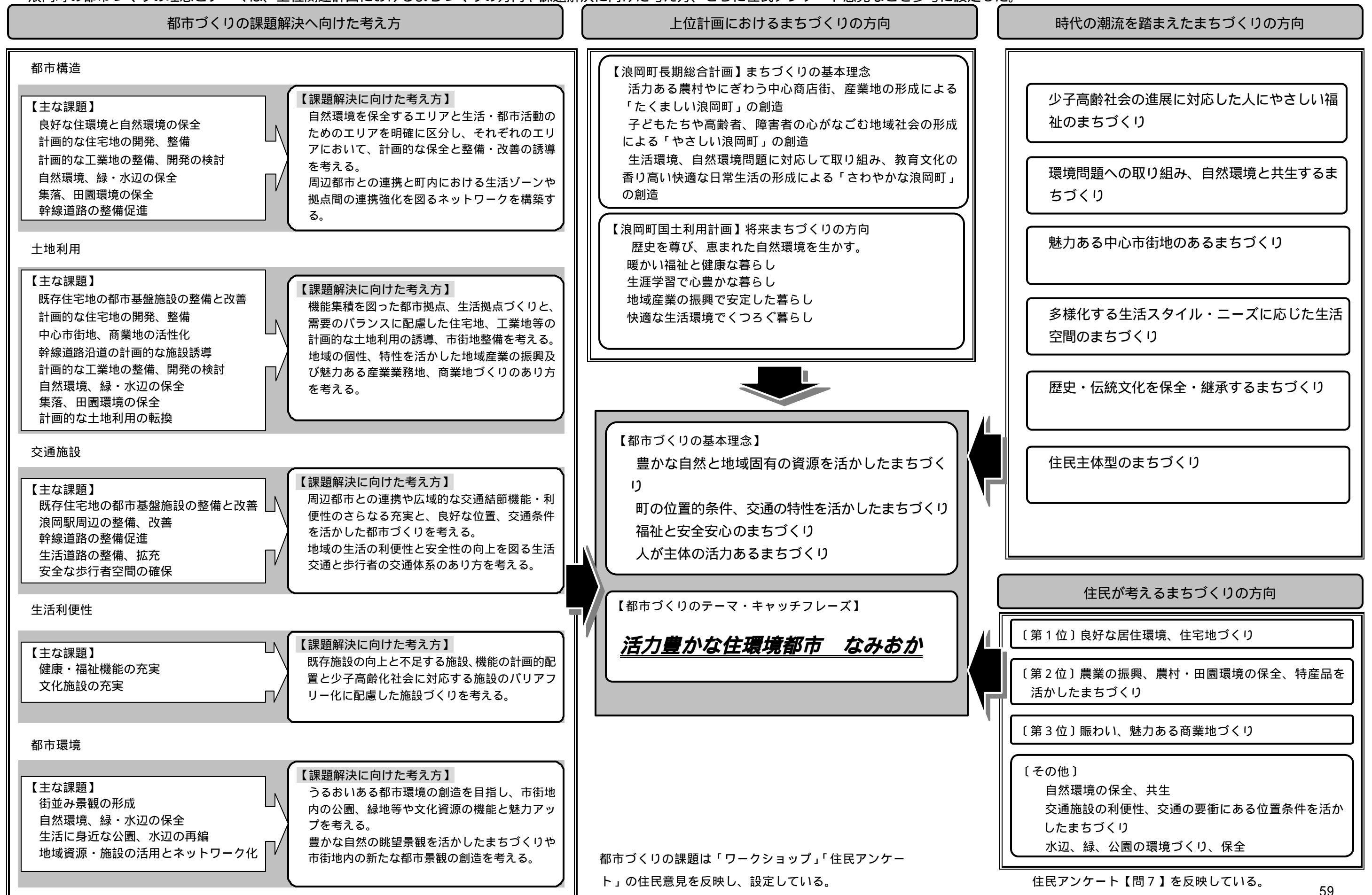
【課題解決に向けた考え方】

うるおいある都市環境の創造を目指し、市街地内の公園、緑地等や文化資源の機能と魅力アップを考える。

豊かな自然の眺望景観を活かしたまちづくりや市街地内の新たな都市景観の創造を考える。

(2) 都市づくりの理念とテーマの設定

浪岡町の都市づくりの理念とテーマは、上位関連計画におけるまちづくりの方向や課題解決に向けた考え方、さらに住民アンケート意見などを参考に設定した。



1) 都市づくりの基本理念

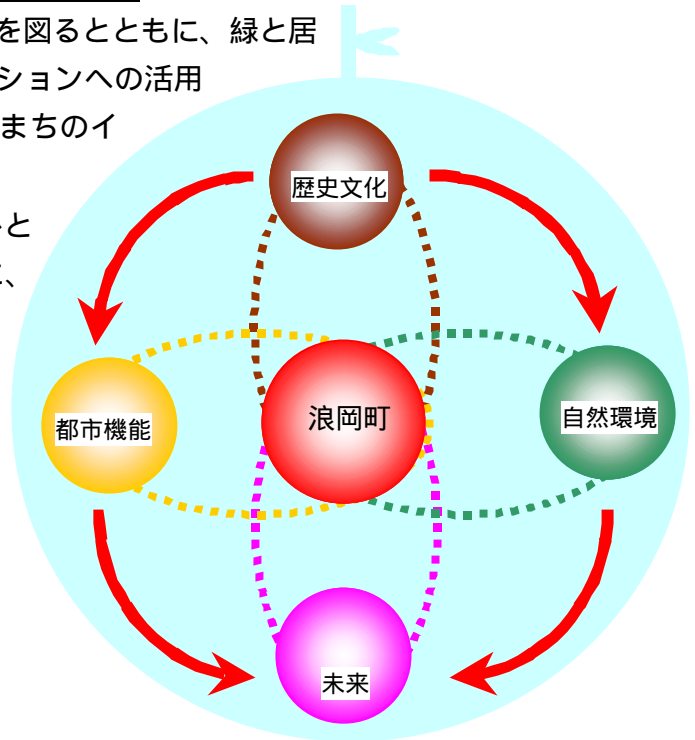
本町の都市づくりの基本理念は、次のように設定する。

豊かな自然と地域固有の資源を活かしたまちづくり

森林や水辺などの豊かな自然環境は保全を図るとともに、緑と居住空間との共生、憩いの場やレクリエーションへの活用など、自然環境の中で快適に居住できるまちのイメージ

りんご畑をはじめとする町の主産業のひとつである“農業”の振興を図るとともに、関連産業への拡大など、農業と工業と観光のバランスのとれた産業のあるまちのイメージ

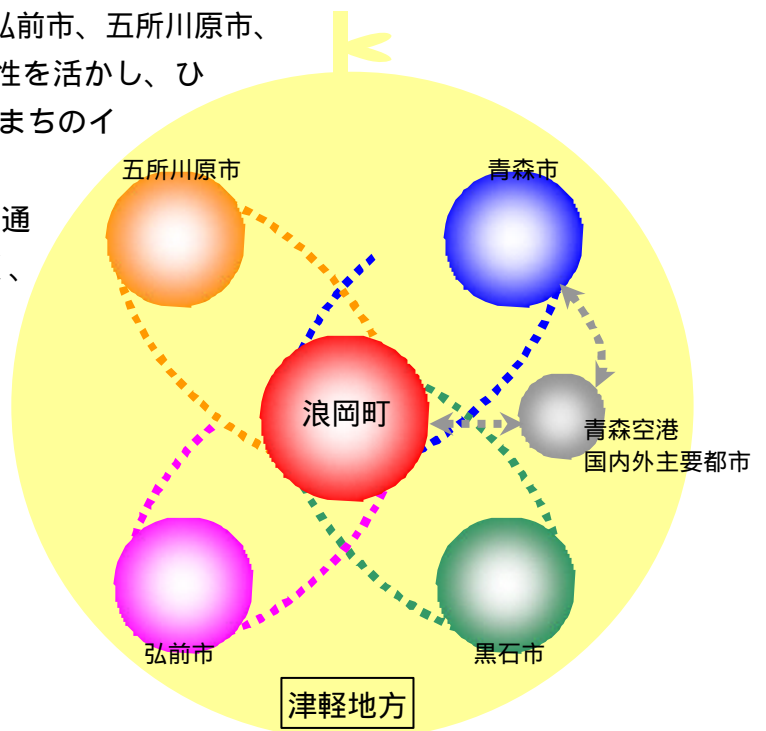
町がこれまで培ってきた歴史・文化を継承し、誰もが気軽にふれあうことのできる文化と交流するまちのイメージ



町の位置的条件、交通の特性を活かしたまちづくり

津軽地方の主要都市4市(青森市、弘前市、五所川原市、黒石市)に囲まれている町の位置特性を活かし、ひと、もの、情報の交流と連携のあるまちのイメージ

高速道路、鉄道、空港の広域的な交通条件を活かした、生活利便性が高く、広域的な交流のあるまちのイメージ



福祉と安全安心のまちづくり

少子高齢社会を迎え、お年寄りなどの生活弱者の生活や子育て環境を支援する福祉、教育、文化的の公益的施設の整ったまちのイメージ

雪に強く、また歩行者に優しい公共空間のあるまちのイメージ

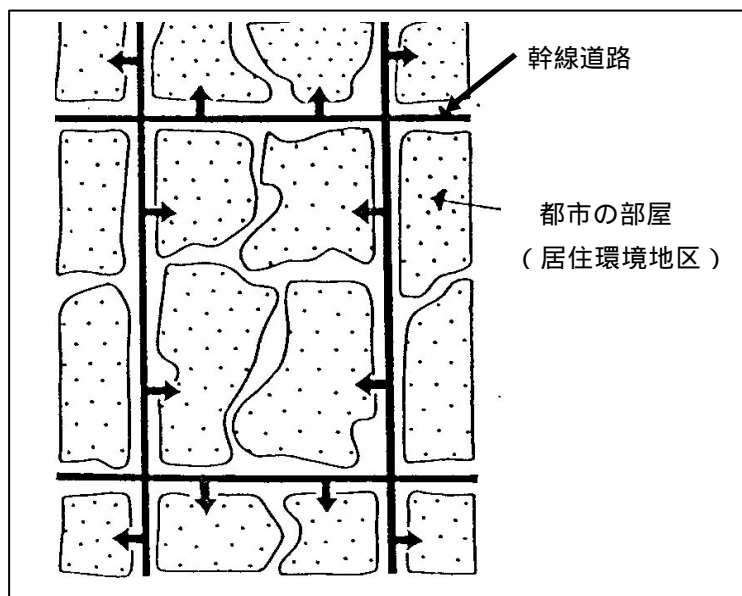
人が主体の活力あるまちづくり

歩いて暮らすことができ、魅力と活気ある中心市街地のイメージ

自然環境と共存する良好な都市景観を創造する市街地のイメージ

市街地ゾーンの設定（都市の部屋の構築）

市街地内は、高齢者や子ども達など、すべての人々が安全安心して歩け、買い物ができる、歩道や生活道路を備えたまちなかの形成を目指し、幹線道路で囲まれた居住環境地区（都市の部屋）の設定、歩行者優先の歩道の配置を計画的に行う。



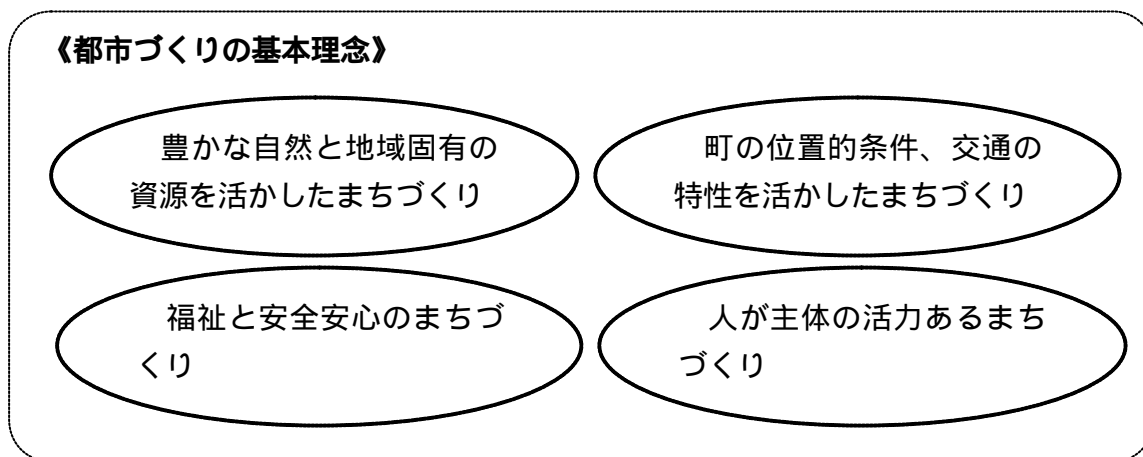
「都市の部屋」の概念は、自動車の利便性を追求するとともに、自動車による騒音、振動、事故等を最小限に抑えることを目的としている。それは、地区に用事のない自動車（通過交通）を幹線道路によって排除し、日常生活の空間、居住環境や買物環境を自動車交通から守る考え方であり、その実現は幹線道路等の都市施設の整備にかかっている。

2) 都市づくりのテーマの設定

都市づくりの基本理念など、これまで検討を行ったまちづくりの方向性などを踏まえ、浪岡町都市計画マスタープランにおける都市づくりのテーマを

『**活力豊かな住環境都市 なみおか**』

と設定する。



《都市づくりのテーマ》

活力豊かな住環境都市 なみおか



テーマの考え方

活力；農業を含めた産業の発展、周辺都市のベッドタウンとしての住宅地の供給促進とこれに伴う人口の増加、賑わいのある駅周辺や商業空間づくりをイメージする。

豊かな；中世より長い歴史の中で培った文化があること、四季を彩る豊富な自然があること、恵まれた広域交通条件にあることなどを現し、これらを活かしたまちづくりをイメージする。

住環境；福祉環境が充実した住宅地づくり、自然環境に包まれた市街地づくりと自然環境と共生する集落地づくり、今住んでいる人と移り住む人との交流・コミュニティづくりなど多様で誰もが安全安心できる暮らしのあるまちづくりをイメージする。

4 - 3 将来フレーム

将来の都市づくりの目標量を数値で具体的に示すことを目的に、将来人口等の設定を行う。

しかし、今日の少子高齢社会の急速な進展状況や全国的な将来人口の減少の予測、めまぐるしい産業構造の改革など、将来において大幅な人口増加が見込めない状況下にあるとともに、数値を設定するのにあたっては、より慎重な検討を行う必要がある。

本都市計画マスタープランにおいては、将来人口等の各指標の設定に向けた考え方を設定し、具体的な目標数値は、将来まちづくりの上位関連計画との整合を図るものとする。

(1) 将来人口、世帯数

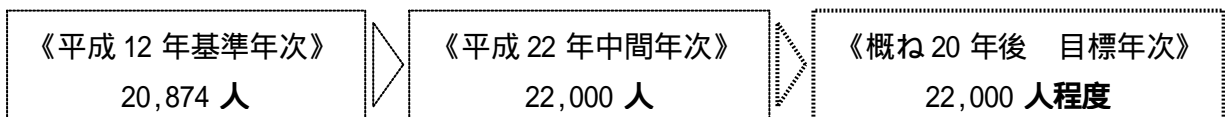
目標年次

概ね 20 年後とする。

将来人口

「浪岡町長期総合計画」において、平成 12 年を基準年に平成 22 年の将来目標人口を設定している。この将来目標人口を踏襲するものとし、中間年次の目標人口として定める。

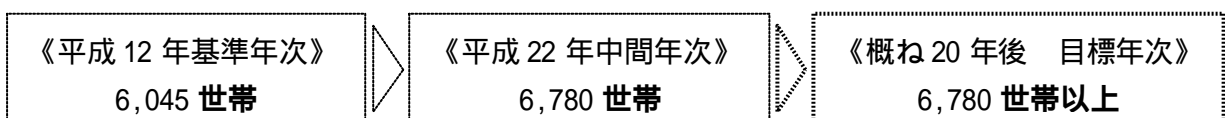
その後の人口は各種施策の推進により、横這いから微増の推移を示すまちづくりを目指すものとする。



将来世帯数

人口と同様、「浪岡町長期総合計画」において、平成 12 年を基準年に平成 22 年の将来目標世帯数を設定していることから、この将来目標値を中間年次の目標世帯数として定める。

その後の世帯数は、人口は横這いから微増で推移するものの、核家族化の進展に伴い増加傾向を示すものとする。



(2) 経済指標

第 1 次産業

浪岡町の地場産業を支えてきた第 1 次産業は、農林業の技術と作業効率の向上と従事者の確保に努めることを目指す。

第 2 次産業

第 2 次産業は、大釈迦工業団地等への企業誘致の拡大や地場製品の加工業等の新たな産業の導入による従事者の増加と生産性の向上を目指す。

第 3 次産業

第 3 次産業は、中心市街地の商業活動の維持、拡大を図りつつ、観光施設の拡充や広域商圏に対応した商業施設の出店とのバランスを図り、従事者の増加と販売拡大を目指す。

4 - 4 将来都市構造

(1) 基本構成

【基本的な考え方】

《都市軸》

浪岡町の骨格を形成するとともに、隣接する都市間を連携する広域的なネットワーク軸の確立
市街地の骨格を形成する地域の軸の位置づけ

《基本ゾーニング》

自然環境や農地を保全する区域と都市的土地利用を図る区域の区分の明確化
歩いて暮らせる浪岡町の中心となる市街地ゾーンの位置づけ

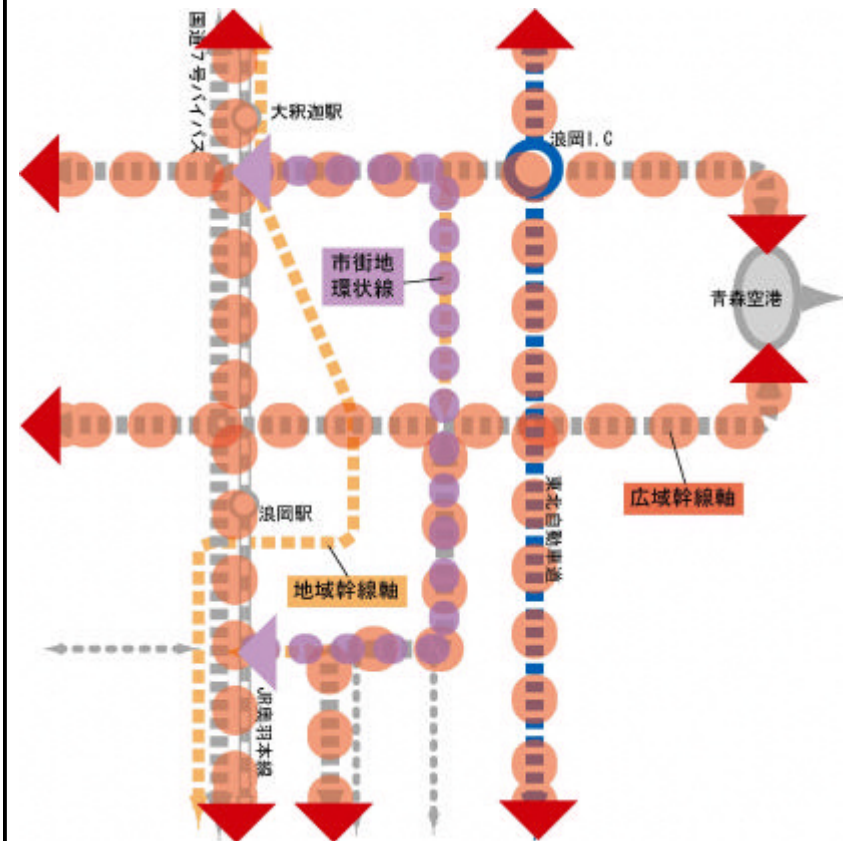
《浪岡町の基本的構造》

浪岡町を南北方向に貫き、青森市及び弘前市などを結ぶ国道7号バイパス、JR奥羽本線、広域的役割を持つ町道並びに東北自動車道を町の骨格となる広域の軸として位置づける。

東西方向の骨格を形成する広域の軸は、五所川原市方面から浪岡I.C.までの津軽自動車道、浪岡I.C.から青森空港を結ぶ新規路線、青森市を結ぶ(主)青森浪岡線並びに津軽津軽横断道路などの新規路線を位置づける。

浪岡町の市街地外郭を形成する環状線を地域軸として位置づける。国道7号は、バイパス整備にともない、地域幹線軸へ機能転換を図る。

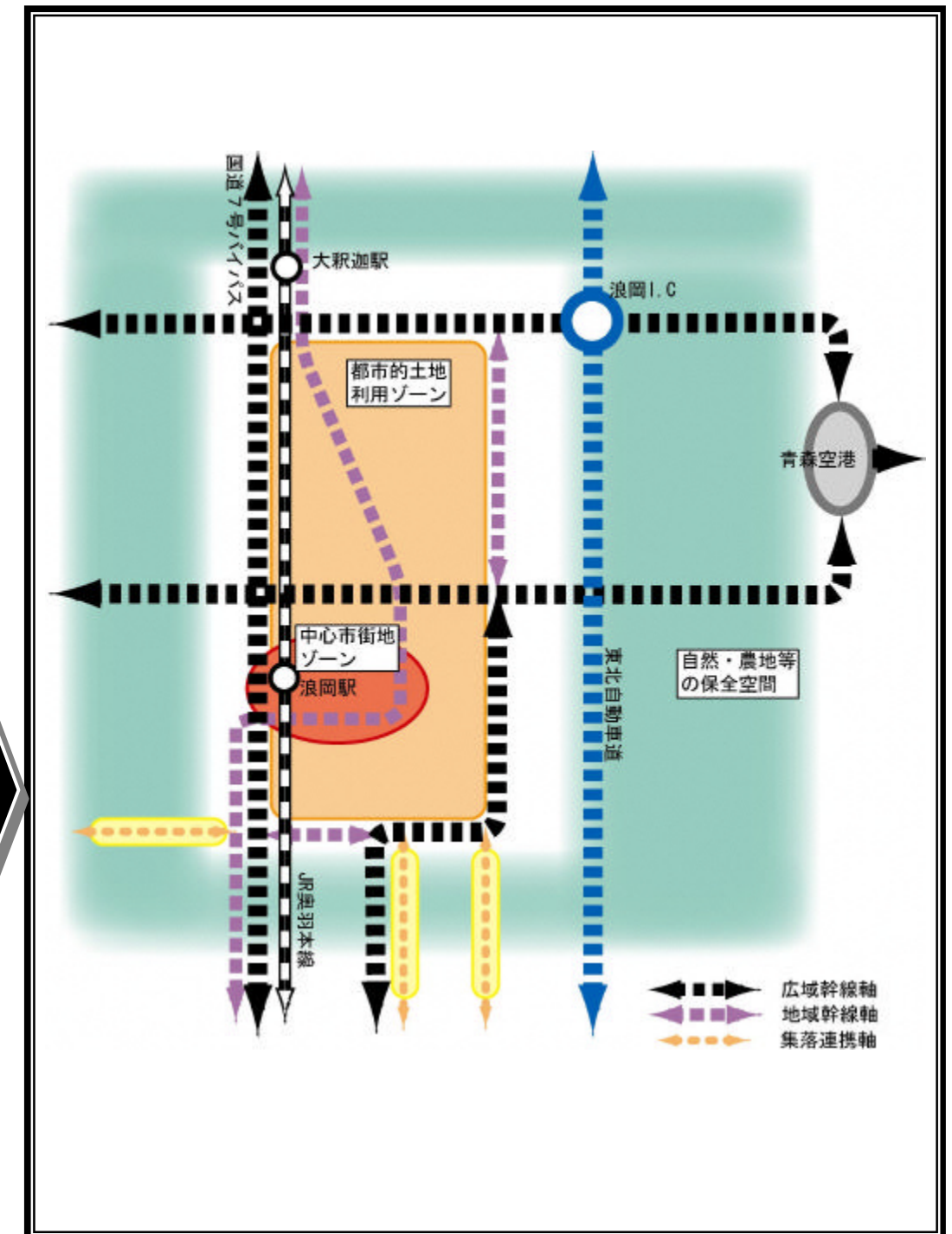
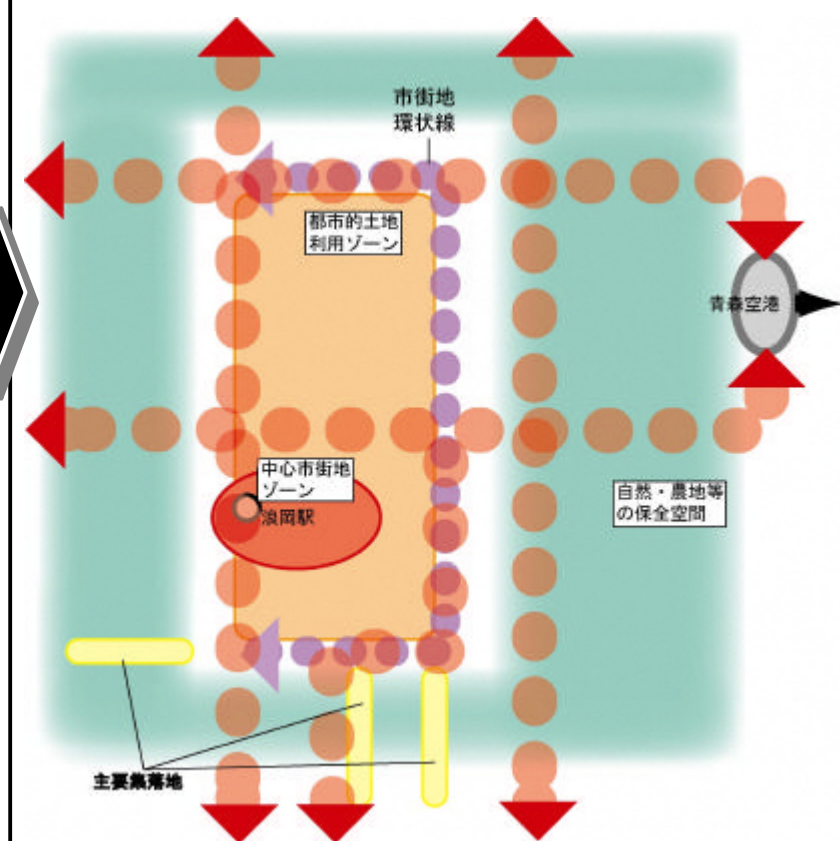
市街地外の集落の生活を支える主要な道路を集落連携軸として位置づける。



市街地の骨格を形成する環状線の内側は、市街地としての土地利用を図る都市的土地利用ゾーンとして位置づける。

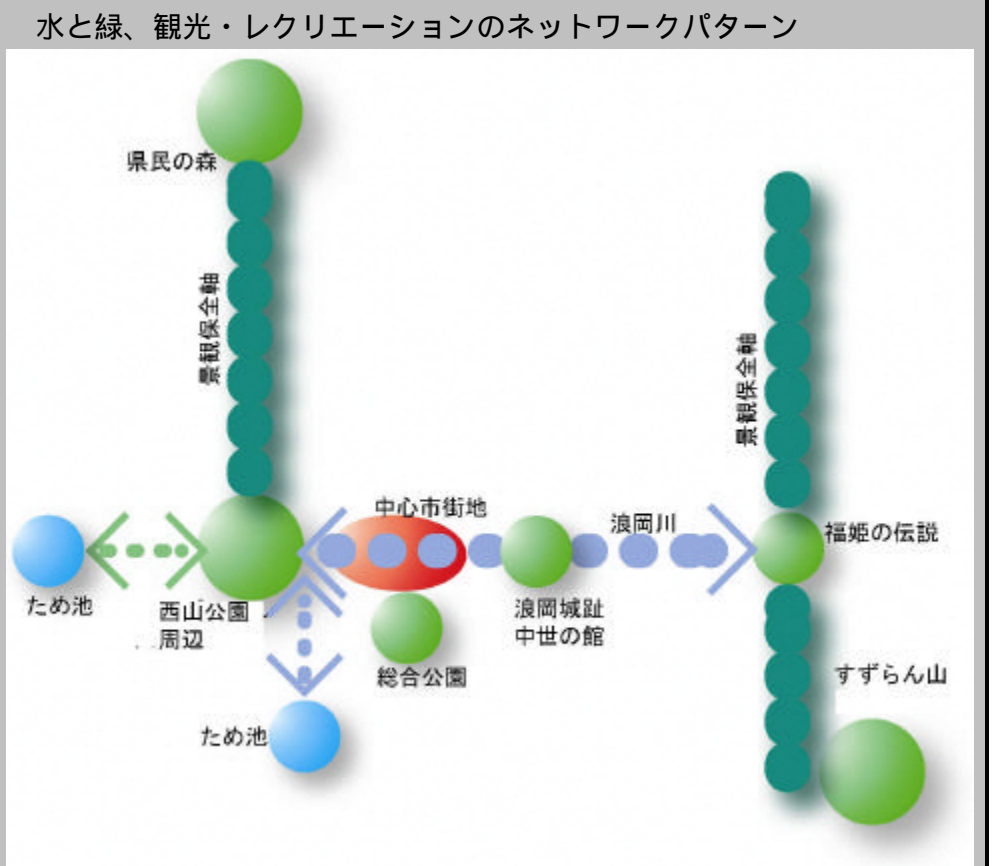
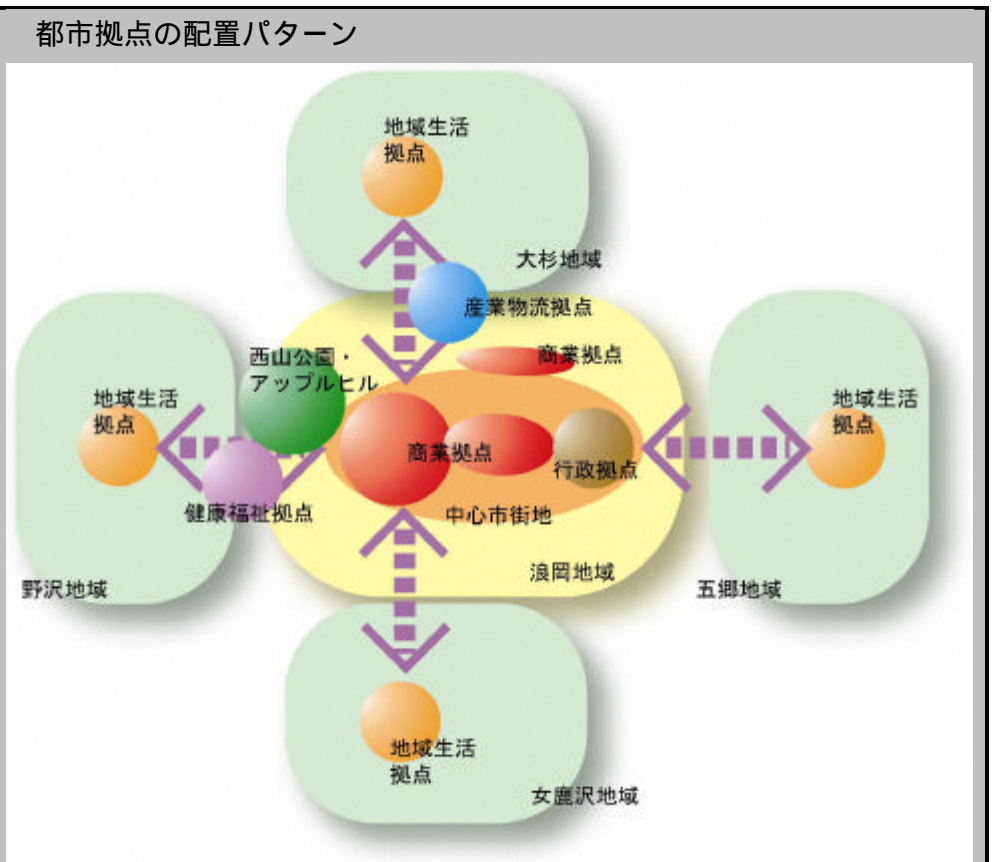
環状線の外側の区域は、自然環境や農地等を保全することを基本とする保全空間として位置づける。

浪岡駅、町役場及び既存商店街を中心とする区域を浪岡町の中心市街地ゾーンとして位置づける。

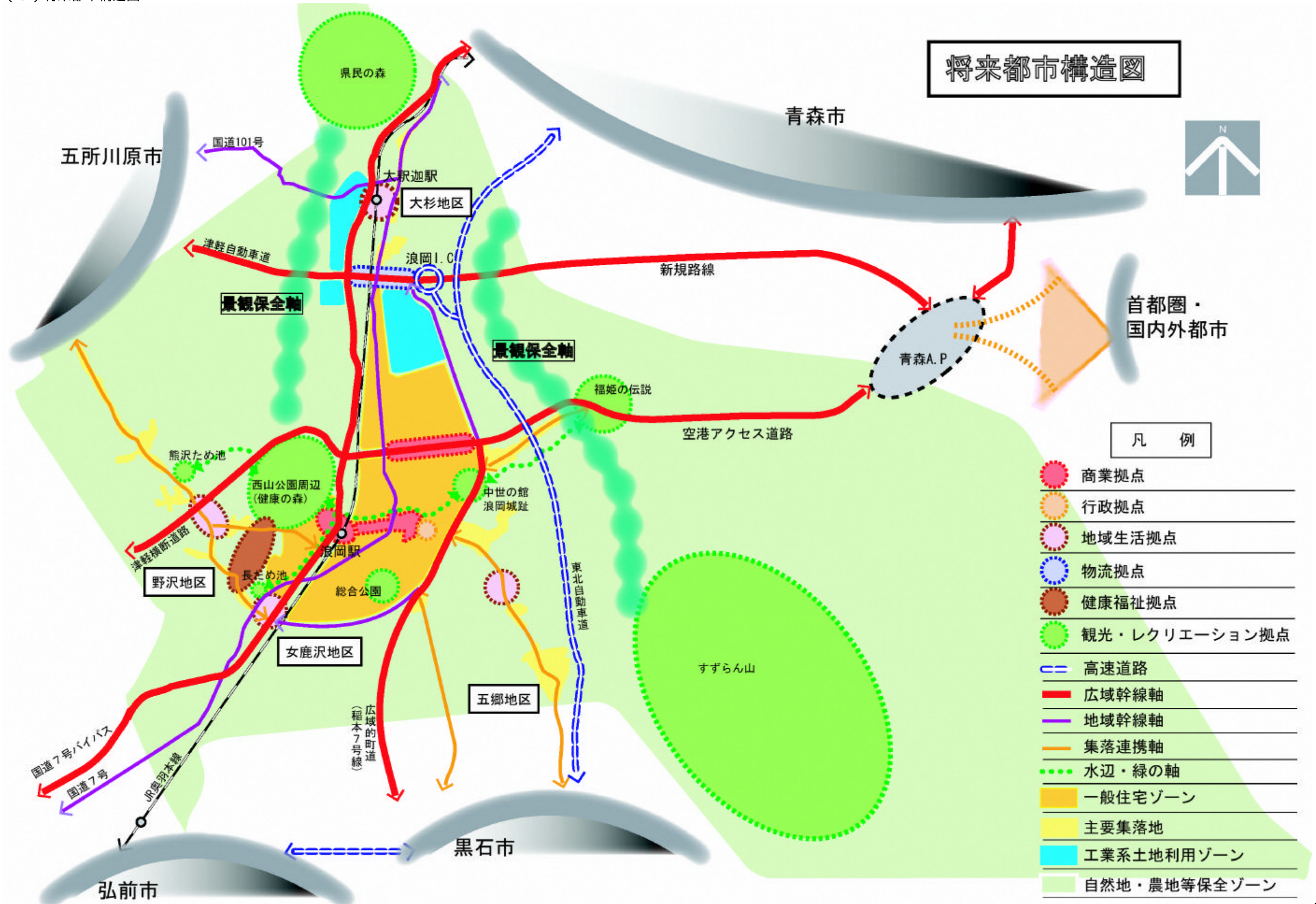


(2) 都市機能の配置とネットワークの形成

名称	場所	配置の方針
商業拠点	中心商業地	浪岡駅～町役場間に位置する中心商業地は、将来においても町の中心地として、既存の商業機能の維持とさらなる活性化を目指した拠点を配置する。
	浪岡駅周辺	交通結節機能による集客性を活かすとともに、中心商業地と連続した商業機能を有する拠点を配置する。
	主)青森浪岡線沿道	ショッピングセンター(マックスバリュ)が立地する主)青森浪岡線の沿道地域へ自動車社会に対応するロードサイド型店舗が集積する拠点を配置する。
行政拠点	町役場周辺	町役場、消防署、中央公民館等、既存の行政サービス施設が集積するエリアに拠点を配置する。
地域生活拠点	女鹿沢、野沢、大杉、五郷の各地域	各地域において、生活の利便性の向上に資する、日用生活品等の身近な商店や業務系・地域交流施設等が集積する拠点を配置する。
産業物流拠点	大釈迦工業団地	大釈迦工業団地は、既存の工業団地の機能維持とさらなる活性化を目指した拠点を配置する。
	I.C 周辺	国道7号バイパスからI.Cを通り青森空港へアクセスする新たに整備される道路沿道は、I.Cと工業ゾーン至近の立地ポテンシャルを活かし、沿道利用型の物流拠点を国道7号バイパス～浪岡I.C間に位置づける
健康福祉拠点	りんどう苑、ゆうゆう荘、国立青森病院周辺	既存の老人福祉施設、医療施設が立地するとともに、湿生花園に隣接し良好な緑・水辺環境を享受するエリアに健康・福祉等の施設が集積する拠点を配置する。
観光・レクリエーション拠点	西山公園周辺(健康の森)	道の駅(アップルヒル)を含む西山公園の拡充を図るとともに、湿生花園、花岡公園等の公園、緑地が連携する(健康の森)エリアを拠点として位置づける。
	浪岡城跡、中世の館、浪岡川沿川地域	浪岡城跡及び中世の館の立地する区域は、歴史・文化施設を活かした観光と地域のレクリエーションの交流機能を有する拠点として位置づける。 さらに浪岡川の水辺環境を活かし、歴史・文化施設との一体化を図り拠点の魅力の向上に資するものとする。
	自然環境の活用	山林等の自然環境を保全しつつ活用するレクリエーション機能を有する拠点として「県民の森」「福姫の伝説」「本郷のすずらん山」の3か所を位置づける。
	水辺の活用	「長ため池」「熊沢ため池」の周辺は、ため池の景観などを活かした憩いの場となる拠点を配置する。
	総合公園周辺	既存の浪岡町総合公園の周辺は、レクリエーション機能を拡大させ、機能拡充を図った拠点を配置する。
ネットワーク	広域幹線軸	町の骨格を形成するとともに、高速道路I.Cや空港などの広域交通施設や周辺都市との連携を図る軸として位置づける。特に、空港アクセスへの代替機能の確保、アクセス性の強化を図ることを重視し、東西方向への新規路線を含む以下の道路を位置づける。 〔東西軸〕津軽自動車道、浪岡I.C～青森空港間(新規道路)、主)青森浪岡線、津軽横断道路 〔南北軸〕国道7号バイパス、東北縦貫自動車道、主)青森浪岡線から黒石方向の都市計画道路佐野沖范線、広域的町道等
	地域内幹線軸	広域幹線軸を補完し、町内における生活や活動を主体する軸であり、地域間を連絡する以下の幹線道路を位置づける。 〔環状線〕I.C付近～国道7号バイパスの新規道路 〔南北方向〕国道7号
	集落連絡軸	集落地の根幹を形成し、各集落地と市街地を結ぶ主要な道路を集落連絡軸として位置づける。特に浪岡町の集落は、これらの道路沿道を中心に形成されていることから、地域生活において重要な道路であると考えられる。
	水辺・緑の軸	観光・レクリエーション拠点を有機的に結び、さらに親水機能を併せ持つ浪岡川及び緑道公園を位置づける。
	景観保全軸	市街地から見通した時の良好な緑の眺望景観を醸し出す丘陵地のりんご畑や森林などを恒久的に維持・保全する景観保全軸として位置づける。



(3) 将来都市構造図





第5章 全体構想

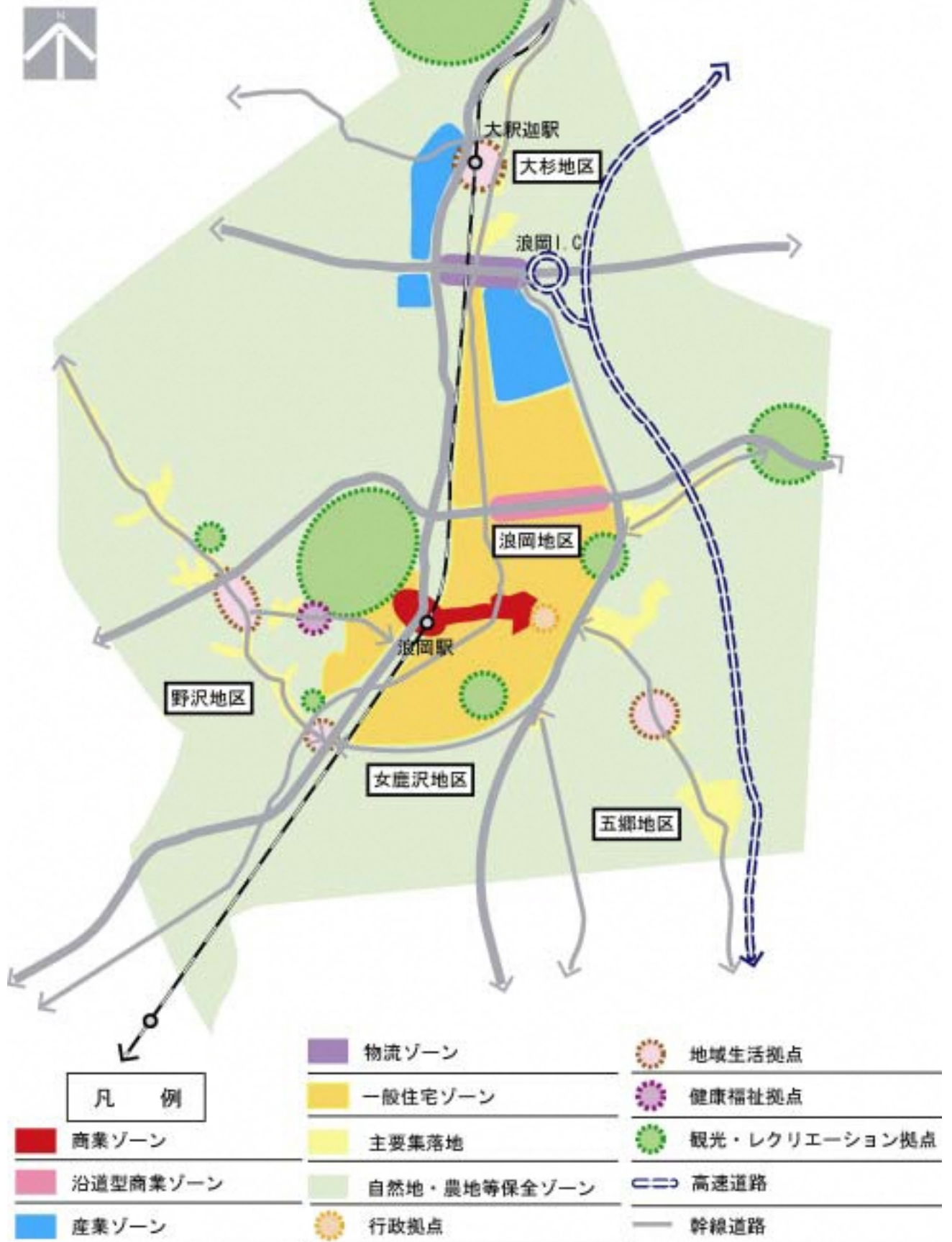


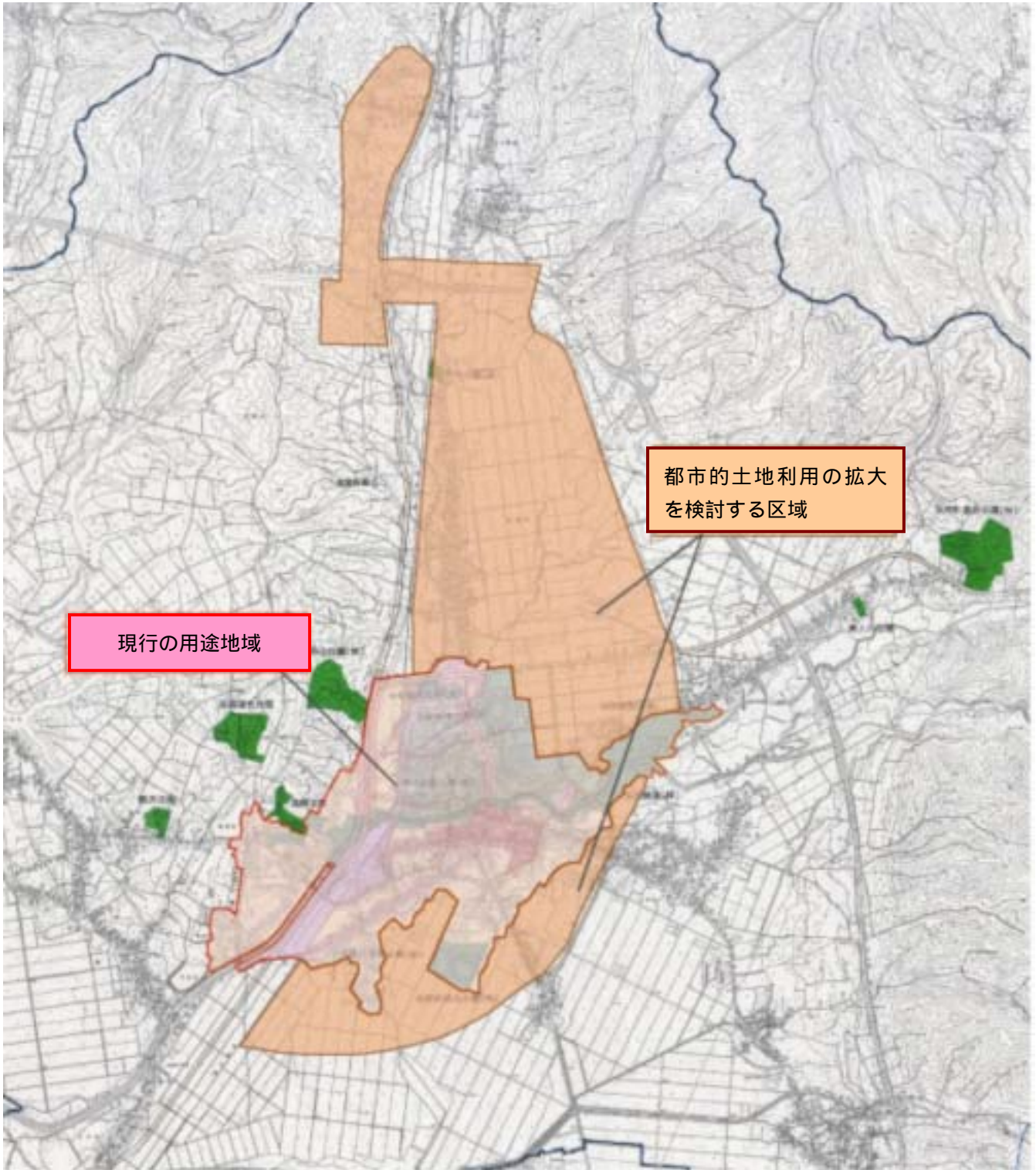
5 - 1 土地利用

ゾーン区分	配置方針	整備・保全イメージ
商業ゾーン	中心商業地(浪岡駅～行政拠点に至る県道浪岡停車場線や国道7号の沿道を中心に形成される商業地)	<p>旧来からの浪岡町の中心として栄えた商業地の機能の維持と賑わいの復活を目指し、活性化対策に取り組むものとする。</p> <p>お年寄りをはじめとする誰もが安全安心して買い物ができるよう、歩道等の道路環境の再整備を図る。</p> <p>商業地の景観づくりや地域住民や来町者等の購買者ニーズに的確に応える店舗の業種や品揃えの充実など、魅力の向上に資する誘導を進める。</p>
		<div data-bbox="655 703 1104 741" data-label="Caption"> <p>《整備のイメージ》</p> </div> <div data-bbox="518 754 960 1084" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="970 743 1484 1090" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1171 1055 1469 1084" data-label="Caption"> <p>フラワーポットのある街路</p> </div>
	浪岡駅周辺	<p>浪岡駅周辺は、交通結節の機能特性を活かし、地域住民や駅利用者の利便性にも配慮した商業等の施設の集積を図り、中心商業地と連続する一体化した商業地の整備を図る。</p> <p>駅舎の複合的利用や町の玄関口としての景観づくりを駅前広場整備と併せて進める。</p>
沿道型商業ゾーン	主) 青森浪岡線沿道(マックスバリュー周辺)	<p>主) 青森浪岡線の国道7号交差点東側の沿道は、自動車社会に対応する郊外型店舗が集積する幹線道路沿道土地利用を促進する。</p> <p>また、中心商業地等、他の商業地の経済動向とのバランスに配慮しながら、出店を計画的に規制、誘導していく。</p>
産業ゾーン	大釈迦工業団地	既存の工業団地の機能を維持、拡充していく。
	I.C 周辺	<p>高速道路 I.C 至近の交通利便性を活かして、新たな産業業務系の土地利用を図っていく。</p> <p>周辺の環境負荷のない無公害・無廃棄物型の施設や町の特性を活かし、農産物加工を中心とした産業など、新しい産業地の整備を進める。</p>
物流ゾーン	I.C アクセス道路沿道	大釈迦工業団地と I.C 周辺の新しい産業業務地を結ぶ位置条件や I.C、空港に直結する道路沿道の交通特性を活かし、物流施設の誘致を図っていく。
一般住宅ゾーン	商業ゾーン、沿道型商業ゾーン、産業ゾーン以外の市街地	<p>都市的土地利用を図るゾーンの内、商業・産業系ゾーン以外のゾーンは、低層低密度の戸建てを中心とした住宅地を形成する。</p> <p>4つの市に囲まれる浪岡町の位置特性から周辺都市からの住宅地需要に応える住宅地供給および基盤施設、市街地景観を備えた良好な住宅市街地の整備を図る。</p>

ゾーン区分	配置方針	整備・保全イメージ
一般住宅ゾーン	商業ゾーン、沿道型商業ゾーン、産業ゾーン以外の市街地	<p>自然発生的に市街地形成され、道路等の基盤が不十分な既成住宅地は、不足する公共施設の整備・改善を図り、良好な居住環境を持つ住宅地の形成を目指す。</p> <p>中心市街地ゾーンの住宅地においては、“歩いて暮らせる市街地”の形成を目指し、安全安心な歩行者空間を確保する。</p> <p>都市基盤が整っている住宅地は、公共施設の維持・管理や土地の適正規模の維持に努めるとともに、土地利用の規制・誘導を図り良好な街並み景観形成による住宅地の質的向上を目指す。</p> <p>新たに整備される住宅地は、市街地整備事業などによる計画的な開発整備を進め、良好な低層住宅地としての土地利用を図る。</p> <div data-bbox="970 580 1455 936" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="657 922 1104 963" data-label="Caption"> <p>《整備のイメージ》</p> </div> <div data-bbox="424 940 927 1294" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="970 949 1426 1303" data-label="Image"> </div>
主要集落地	都市的土地利用ゾーン外側の既存集落地	<p>既存の集落地において道路・公園等の公共施設が不足する地域では、生活の安全性と利便性の向上を図るよう、公共施設の整備・改善を進める。</p>
自然地・農地等保全ゾーン	上記以外の区域	<p>山林等の自然やりんご畑をはじめとする農地が広がる区域は、都市的な開発を抑制し、恒久的に自然環境の保全を図る。</p> <p>また恵まれた自然環境を活かし、観光・レクリエーションなど人と自然が交流する場としての活用を図る。</p>

土地利用構想図





5 - 2 交通体系

種別	対象路線	整備イメージ
広域幹線道路	東北縦貫自動車道	青森市から黒石市、弘前市を結び、さらに仙台市、首都圏などを結ぶ広域幹線と位置づける自動車専用道路であり、既に整備済みである。
	東西方向 ・主)青森浪岡線 [3.3.2 館野松山線] ・津軽自動車道 ・(仮)津軽横断道路 ・(仮)大釈迦青森空港線 南北方向 ・国道7号バイパス [3.3.1 榊大釈迦線] ・(仮)浪岡大鰐線 [広域的町道, 3.4.1 佐野沖范線の一部など]	【位置づけ】 浪岡町の骨格を形成するとともに周辺都市を直接的に連絡し、市街地への通過交通を排除する、広域の交通流動を円滑に処理する機能を有する道路である。 【整備の方向】 都市計画道路である国道7号バイパス、主)青森浪岡線は計画決定に基づき、整備を促進する。特に、早期に整備を進めていく道路として、整備率 47.8% (暫定2車線) であり、都市活動の妨げとして問題視されている国道7号大釈迦交差点の渋滞解消を図る国道7号バイパス(3.3.1 榊大釈迦線)、また空港アクセスの代替機能を確保する浪岡 I.C ~ 青森空港間新規道路が挙げられる。 その他の道路は、道路の位置と幅員を都市計画に定めた上で、整備を進める。
地域幹線道路	東西方向 ・国道101号 南北方向 ・国道7号 [3.5.5 杉沢松枝線] 環状方向 ・(仮)浪岡環状線	【位置づけ】 浪岡町の市街地の骨格を形成するとともに、広域幹線道路と接続し、地域間、主要拠点を連携する地域内の交通流動を支える機能を有する道路である。 【整備の方向】 国道7号は、現況においてバイパスとともに広域交通処理の役割を担っているが、バイパス完成に伴う機能転換により、町の中心市街地内を通る生活の幹線道路として、歩行者交通にも配慮した再整備を図る。 (仮)浪岡環状線、道路の位置と幅員を都市計画に定めた上で、整備を進める。
市街地内幹線道路	・3.4.2 若松沖范線 ・3.4.3 花岡女鹿沢線 ・3.4.4 花岡松枝線 ・3.4.5 東種本福田線 ・3.5.1 停車場稲村線 ・3.5.2 平川北中野線 ・3.5.4 赤川淋城線 ・3.5.5 杉沢松枝線	【位置づけ】 市街地内における生活と都市活動を支える幹線道路であり、市街地内の自動車交通の処理と同時に、歩行者・自転車交通の処理を担い、交通の安全性・利便性や災害時の避難・消防活動の円滑性の確保等の機能、役割を担う道路である。 【整備の方向】 中心市街地内は“歩いて暮らせる”まちづくりを目指すことから、歩道部はバリアフリーや冬期における雪対策に配慮し、段差の解消や適切な幅員の歩行空間を確保する。さらに楽しく快適に歩けるよう街路景観などにも配慮する。都市計画決定された道路であり、計画決定に基づいた整備を基本とするが、歩行者空間の確保を重視し、バリアフリー化を図る観点から、道路幅員、幅員構成及び配置位置について見直し検討を適正に行う。特に、道路幅員はいずれの道路とも16m以下であり、十分な歩道を確保する上でも計画幅員の拡幅が必要とされる。

種別	対象路線	整備イメージ
集落幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県道常海橋銀線 ・ 主)五所川原浪岡線 ・ 主)大鰐浪岡線 ・ 県道浪岡北中野黒石線 ・ 旧青森浪岡線 	<p>【位置づけ】</p> <p>集落地の根幹を形成し、各集落地と市街地を結ぶ町内地域間の連携機能を有する道路である。特に浪岡町の集落は、これらの道路沿道に自然発生的に居住地が形成されていることから、集落生活において重要な役割の道路である。</p> <p>【整備の方向】</p> <p>自動車交通と歩行者交通の双方に配慮し、歩車道の明確な区分による安全・安心を確保する。</p> <p>歩道部はバリアフリーや冬期における雪対策に配慮し、段差の解消や適切な幅員の歩行空間を確保する。</p>
生活道路		<p>【位置づけ】</p> <p>沿道の生活者のサービス道路であり、生活者の交通の円滑処理、災害時の避難路となる公共空間となる役割の道路である。</p> <p>【整備の方向】</p> <p>円滑な交通処理や消防活動困難区域の解消などによる生活環境の向上を図るため、狭隘道路の拡幅、すみ切りの確保、行き止まり道路の解消などを進める。</p> <p>冬期における雪対策に配慮し、道路の整備、改善と併せて、融雪溝の整備や堆雪スペースとして活用できるポケットパークの確保も行う。</p>
浪岡駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浪岡駅前広場 	<p>【位置づけ】</p> <p>浪岡駅前広場は、鉄道、バス、自動車交通等の各種交通結節の結節機能を有するとともに町の玄関口として、地域、広域の交流の機能を有している。</p> <p>【整備の方向】</p> <p>駅前の整備計画に基づき、交通結節機能と駅の強化と魅力の向上を図る。</p> <p>パークアンドライド、キスアンドライド機能を高める駐車場、駐輪場の適正配置を進め、交通結節機能の強化を図る。</p>
歩行者道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浪岡緑道 	<p>【位置づけ】</p> <p>歩行者・自転車交通の根幹を形成し、安全性の確保と快適なアメニティ空間を生活に提供するとともに、防災の軸としての機能を担う。さらに観光・レクリエーション拠点を有機的に結ぶ観光・レクリエーションのネットワーク機能を有している。</p> <p>【整備の方向】</p> <p>植樹、植栽帯やストリートファニチャー等の設置、浪岡川との親水空間を適切箇所へ配置し、快適な歩行空間を創造する。</p>

総合交通体系図



5 - 3 都市施設

種別	基本方針	整備イメージ
公園・緑地	都市公園として計画決定されている公園のさらなる整備を進める。	都市計画公園のうち、整備中である「浪岡墓地公園、浪岡緑道、浪岡城跡公園」の整備を進める。特に浪岡緑道は浪岡川沿いの緑地であり、市街地の緑のネットワークの骨格を形成するとともに、都市防災の観点(緊急避難路、延焼防止帯等)からも重要な役割を担っていることから、早期に整備を進める。
	生活に最も身近な街区公園の適正配置検討、及び整備を進める。 既設の公園、緑地については、施設の維持管理、及び利用状況を勘案した上での、園内施設の改善を進める。	新規の街区公園は、土地区画整理事業等の面的整備合わせて整備することを基本的とする。 既成市街地においては、既存公園からの誘致距離等を考慮し、必要な地区について整備を進める。 既存公園の魅力と利用しやすさの向上を図るため、園内施設の改善・再整備を進める。
河川・下水道	浪岡川沿いの浪岡緑道の整備を進め、親水性の向上を図る。	河川沿い浪岡緑道の親水護岸の整備などとともに、流域河川も含めた総合的な治水対策を進める。
	公共下水道の計画に基づいた整備と水洗化率の向上を図る。	下水道の整備、水洗化の促進により、生活環境の向上を図るとともに、河川、水路の水質を維持することによって優れた自然環境の保全に寄与していくものとする。
	冬期の融排雪施設の整備を図る。	雪にも強いまちづくりを目指し、道路や公園整備に併せて、融排雪施設の整備改善を進める。

5 - 4 その他の施設

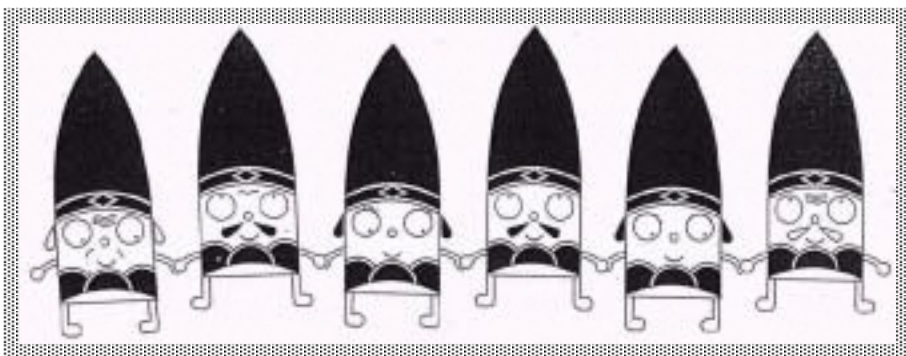
種別	整備イメージ
教育・文化施設	小学校への通学の安全性を確保するよう、通学路への歩道、歩行者道路の設置を進める。 各地域の“生活拠点”には児童館や公民館等の子育て支援、地域交流施設の配置を進める。 中世の館、浪岡城跡周辺は、文化機能の拠点として位置づけ、既存施設の強化と新たな文化的施設の整備または誘致を図る。
健康・医療・福祉施設	老人・障害者等の福祉、及び健康・医療に関連する新たな施設は、“健康福祉拠点”への整備または誘致を図る。 りんどう苑、ゆうゆう荘(民間福祉施設)及び国立青森病院の既存施設が立地する一帯を健康福祉拠点に位置づけ、この拠点に関連施設の集積を図るものとする。また隣接して浪岡湿生花園があり、拠点の環境づくりにはこの水と緑の環境を受け入れ、自然との共生を図っていく。
公共交通機関	特急「つがる」の停車駅にふさわしい駅舎や駅前広場の機能向上や景観形成を図る。 浪岡駅前広場の整備により、鉄道、バス等の交通結節機能の強化を図る。

5 - 5 都市景観

種別	整備・保全のイメージ
自然環境	町の外郭を囲む森林は、豊かな自然を有する浪岡町を象徴するものであるとともに、市街地からの良好な自然環境の眺望を創造するものであり、恒久的な保全に取り組むものとする。 また、森林の中でも観光・レクリエーション拠点に位置づけた区域は、近隣住民や来街者の憩い、レクリエーション等の自然との交流の場として活用し、生活と自然環境との共生を図る。
農地	りんご畑や水田などの農地は、町の基幹産業である農業の振興と緑地環境の保全、浪岡町を印象づける郷土の景観形成の観点から保全を図る。
市街地内の水辺、緑	市街地内にある生活に身近な水辺、緑環境は保全を図るとともに、積極的に活用し環境共生のまちづくりを推進する。 幹線道路への街路樹・植栽帯の設置や行政施設等の公的施設での緑化など、公共・公益的施設の緑化を進める。 緑地協定や地区計画により、工場や住宅地などでの地域ぐるみの緑化による緑のまちづくりを進める。
都市景観	建物のデザイン、街並み・街路の景観づくりを誘導し、美しい都市景観を創造する。 市街地からの自然の眺望を確保するため、自然環境の保全や建築規制などに関する計画的な規制、誘導を進める。

5 - 6 都市防災

種別	整備・保全のイメージ
防災軸 防災ネットワーク	浪岡川及び緑道公園は、町の防災の軸として位置づけ、災害時の延焼帯や避難場所となるとともに周辺の公園緑地を結ぶ避難路としてのネットワーク機能を形成する。 防災の拠点として、西山公園周辺や総合運動公園などの緑の拠点が防災機能を兼ね備えるものとし、水と緑のネットワークが防災ネットワークを兼ねるものとする。





第6章 地域別構想



6 - 1 地域区分

(1) 基本的な考え方

地域別構想の検討、策定を進めるにあたり、本町の地域区分の考え方及び区分に配慮すべき要件は次のとおりである。

【基本的な考え方】

地域の設定は、地形の条件、土地利用の状況、幹線道路等の交通軸、日常生活上の交流の範囲、用途地域の地域区分等を考慮し、都市計画区域内の各地域像を描き、施策を位置づける上で適切なまとまりある空間の範囲となるようにする。

上位関連計画との整合や長期を見据えた都市計画への反映を図る上での適切な単位

住民の参加と合意形成、周知、理解等、マスタープランの策定から具体化までの各段階でのコミュニケーションが容易になる単位

土地利用の方針や都市施設の整備方針を掲げるため、土地利用等の現状に同質性が見られ、また取り組むべき課題に共通性がある単位

本町においての地域区分を行う要件は、次のとおりである。

【考えられる地域区分の要件】

地形・地物の条件

- ・ 高速道路、高規格道路、国道等の主要な幹線道路の位置
- ・ 鉄道駅（浪岡駅、大釈迦駅）

土地利用の状況

- ・ 用途地域の地域区分
- ・ 既成市街地と田園地域の区分

日常生活上の交流の範囲

- ・ 字、集落単位での区分
- ・ 町内会単位での区分
- ・ 市街地形成の経緯

以上の区分要件から、浪岡町都市計画マスタープランにおける地域区分は、次の理由から「**字、集落の単位**」で設定する。

- ・ 字、集落は、日常的な生活圏、地域コミュニティのまとまりである。
- ・ 過去の市街地、集落の形成の経緯がある。
- ・ 人口などの定量的な分析が容易である。

(2) 地域の区分

地域区分の考え方に基づき、浪岡町都市計画マスタープランにおける地域区分は、5つの地域を設定する。

地域名	対象となる字、町名
浪岡地域	浪岡、五本松、羽黒平・松山、王余魚沢、福田
女鹿沢地域	女鹿沢、東町、赤茶、花岡、松枝、沖菴、下十川、川倉、増館、若柳
野沢地域	樽沢、銀、郷山前、吉野田、下石川
大杉地域	杉沢、高屋敷、徳才子、長沼、南大釈迦、北大釈迦、大釈迦駅前
五郷地域	北中野、吉内、本郷、細野、相沢

図 - 地域区分



6 - 2 地域別構想

1 浪岡地域の構想

【対象となる大字名】大字浪岡、大字五本松、大字王余魚沢

1. 地域の現況特性

1) 概況

位置条件

- ・町の中心部から東側にかけて、東西に細長く位置し、北側は青森市に隣接している。
- ・地域の西側は町の中心市街地を形成している。
- ・地域の東側はほとんどがりんご畑や森林などの緑地となっている。

交通条件

- ・西側を南北方向に JR 奥羽本線が通り、浪岡駅がある。
- ・地域の北端には青森市にまたがって青森空港がある。
- ・市街地内には南北方向に国道 7 号が通っている。東西方向には(主)青森浪岡線が通っている。

人口動向

- ・平成 12 年の人口は 7,854 人で、人口、世帯とも増加傾向にある。
- ・平成 7 年からの 5 年間で 9.5% の人口増加がみられる。
- ・世帯当たり人員は 3.06 人で、核家族化が進んでいる。
- ・町の人口の約 36% を占め、人口、世帯が集中している地域である。

主要施設、土地利用 など

- ・JR 浪岡駅周辺から町役場周辺及び国道 7 号沿道にかけて中心商業地を形成している。
- ・町役場、消防署、中央公民館などの行政施設が集積している。
- ・(主)青森浪岡線沿道に郊外型ショッピングセンターが立地している。
- ・市街地北側の福田地区は、面的に整備された住宅地が形成されている。
- ・高校、中学校、小学校 2 校の教育施設、中央公民館、中世の館などの文化施設が立地している。
- ・浪岡城跡、総合運動公園、浪岡川緑道などの歴史資源、公園・緑地がある。

表 - 人口・世帯の推移

		浪岡地域		
		平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
人口	人数 (人)	6,966	7,107	7,854
	伸び率 (%)	-	2.0%	9.5%
	人口密度 (人/ha)	1.97	2.01	2.23
世帯	世帯数 (世帯)	2,015	2,181	2,564
	伸び率 (%)	-	7.6%	14.9%
	世帯当人口 (人/世帯)	3.46	3.26	3.06
地域面積 (ha)		3,528		

)平成 8 年に福田地区が浪岡地域に編入される。
地域面積は図上計測による。

図 - 地域の位置



2. 地域づくりの課題

中心市街地、商業地の活性化

市街地の空洞化を防止するとともに、町の中心となる商業地の活性化を図る必要がある。

駅前周辺の再生

駅前広場の整備とあわせ、町の玄関口にふさわしい交流の場づくりと交通結節機能の強化を図る必要がある。

幹線道路沿道の適正な土地利用誘導

(主)青森浪岡線沿道の郊外型ショッピングセンター周辺の沿道土地利用を誘導し、適正な幹線道路沿道地区の形成を図る必要がある。

生活・居住環境の向上

生活基盤や景観づくりなど、既存住宅地の生活環境、居住機能の向上を図る必要がある。

新たな住宅地の整備

住宅地の需要ニーズに応じた新しい住宅地づくりを計画的に進める必要がある。

地域内の道路ネットワークの再編

市街地内の都市計画道路の整備を促進するとともに、少子高齢社会の到来や中心市街地の空洞化などまちづくりの課題を踏まえ、配置、幅員構成等の見直しを行う必要がある。

浪岡川沿川の水辺・緑環境の創出と活用

浪岡川の緑道公園の整備促進などによる市街地内の水辺・緑環境の創出及び活用を図る必要がある。

3. 地域づくりの目標・テーマ

テーマ；町の交流・ふれあい・賑わいの中心となる地域づくり

交流・ふれあいの中心づくり

- ・浪岡駅周辺の再生
- ・浪岡川の水辺・緑の環境と魅力の向上

賑わい・活力の中心づくり

- ・中心商業地の賑わいの復活
- ・行政拠点の機能の向上
- ・(主)青森浪岡線の沿道商業地の形成

生活の基盤づくり

- ・既存住宅ゾーンの居住環境の向上
- ・新たな住宅地ゾーンの整備

4．整備構想

(1)土地利用構想

中心商業・業務ゾーン

浪岡駅東口周辺及び県道停車場稲村線沿道、国道7号沿道などを中心に形成される旧来からの商業地は、今後も町の中心商業地として位置づけ、駅周辺の再生と商業地の賑わいを復活させる活性化への誘導を図る。

浪岡駅西側は、自由通路(アップル21 地下道)の開設に伴って鉄道と国道7号バイパスに挟まれた周辺区域に、商店や交通結節機能を伴った施設などの新たな商業・業務系土地利用の誘導を図る。

町役場、消防署、中央公民館などが集積する区域は、既存の行政サービス機能を維持する。

幹線道路沿道商業ゾーン

(主)青森浪岡線沿道地区は、交通利便性の高い沿道条件を活かし、商業業務施設などの誘導を図る。

居住環境保全ゾーン

計画的な住宅市街地として開発・整備が行われ、道路や公園などの都市基盤が整備されている住宅地(福田地区、赤川団地など)は、今後とも既存の住環境の維持・保全を図る。

居住環境改善ゾーン

市街地内にあり、都市基盤の整備が行われないうまに宅地化が進んだ住宅地は、生活利便性・安全性の向上などを図るため、家屋の密集化を防止するとともに、道路・公園などの都市基盤の整備、改善を促進する。

居住地拡大検討ゾーン

市街地の骨格を形成する環状道路内側に位置する農地や未利用地などは、農業施策等との調整を図りながら、将来の住宅地需要に応じて段階的に住宅地づくりを展開する。

集落ゾーン

環状道路外側、沿道などに形成されている集落地は、緑地・農地等に隣接する田園居住環境を維持する。

水と緑の環境保全・活用ゾーン

浪岡川及び浪岡緑道は、河川の水辺を活かした親水ゾーンの形成と水と緑に親しめる緑道公園として整備し、潤いとやすらぎの環境・空間づくりを展開するとともに、防災ネットワークの基軸としての機能・役割を維持する。

浪岡城跡周辺は、歴史文化資源や浪岡川の水辺と・緑地の環境などを活かし、緑道と一体化した公園として、活用を図る。

総合公園は、既存のスポーツ、レクリエーション機能を維持する。

浪岡町墓地公園は、墓地公園としての機能充実を図るとともに、周辺の自然環境や眺望景観を活かしながら環境を維持する。

住宅地内の街区公園は、地域生活に密着した身近な遊び、憩い、交流の場として、その機能を維持するとともに、住宅地の整備改善に併せて、適正配置を図る。

自然・農地等保全ゾーン

環状道路外側に位置する自然環境や農地は、都市的な開発を抑制し、恒久的に自然環境を保全する。特に街道沿いや高速道路から眺望できるりんご畑は“りんごの町浪岡”を象徴する貴重な景観要素としての役割を担っており、自然環境保全や農業施策とも連携を図り、保全していく。

(2) 拠点形成

中心商業拠点

浪岡駅周辺～町役場周辺間の県道や国道7号などの沿道を中心に広がる商業地は、浪岡町の中心となる、賑わいのある中心商業の拠点を形成する。

商業と交流の拠点

浪岡駅周辺は交通の結節機能と鉄道及びその他の交通利用者へのサービス機能を有するとともに、日常生活や来町者の交流の場となる商業等の集客施設が集積する拠点を形成する。

駅西側への自由通路(アップル21 地下道)並びに西口周辺の整備を図り、拠点の利便性と機能の向上や町の東西連携の強化に資する。

行政拠点

行政施設が集積する町役場周辺は、浪岡町の行政の中心となる機能的で利便性の高い行政・業務の拠点を形成する。

歴史・文化の交流拠点

浪岡城跡周辺は、浪岡城跡や中世の館などの歴史・文化資源、浪岡川や浪岡城跡公園などの水辺・緑が集中し、これらの資源や環境を活用した歴史・文化とのふれあいや観光・レクリエーション活動などの交流を促進する拠点を形成する。

観光・レクリエーション・交流拠点

国道7号の西側沿道は隣接する花岡公園、西山公園、湿生花園と連続する観光・レクリエーション拠点(健康の森)の一角を形成する。

観光と憩い拠点

美人川公園、浪岡町墓地公園周辺は、公園や周辺の自然環境及び地域にまつわる“福姫の伝説”などを活かし、周辺地区が一体となった観光・憩いの拠点を形成する。

スポーツ・レクリエーション拠点

総合公園は、町民のスポーツ、レクリエーション活動を促進する拠点として位置づけ、既存の機能を維持する。

(3) ネットワーク軸形成

広域軸

浪岡町の都市の骨格を形成する主軸であるとともに、広域的な都市間を連携する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・東北縦貫自動車道
- ・国道7号バイパス〔3.3.1 榊大釈迦線〕
- ・(主)青森浪岡線〔3.3.2 館野松山線〕
- ・(仮称)浪岡大鰐線〔広域的町道、3.4.1 佐野沖范線の一部〕

地域幹線軸

都市の生活・活動の軸を形成し、周辺市町村を連携する広域幹線軸を補完する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・国道7号〔3.5.5 杉沢松枝線〕
- ・(仮称)浪岡環状線〔町道五本松長沼線〕

市街地幹線軸及び集落幹線軸

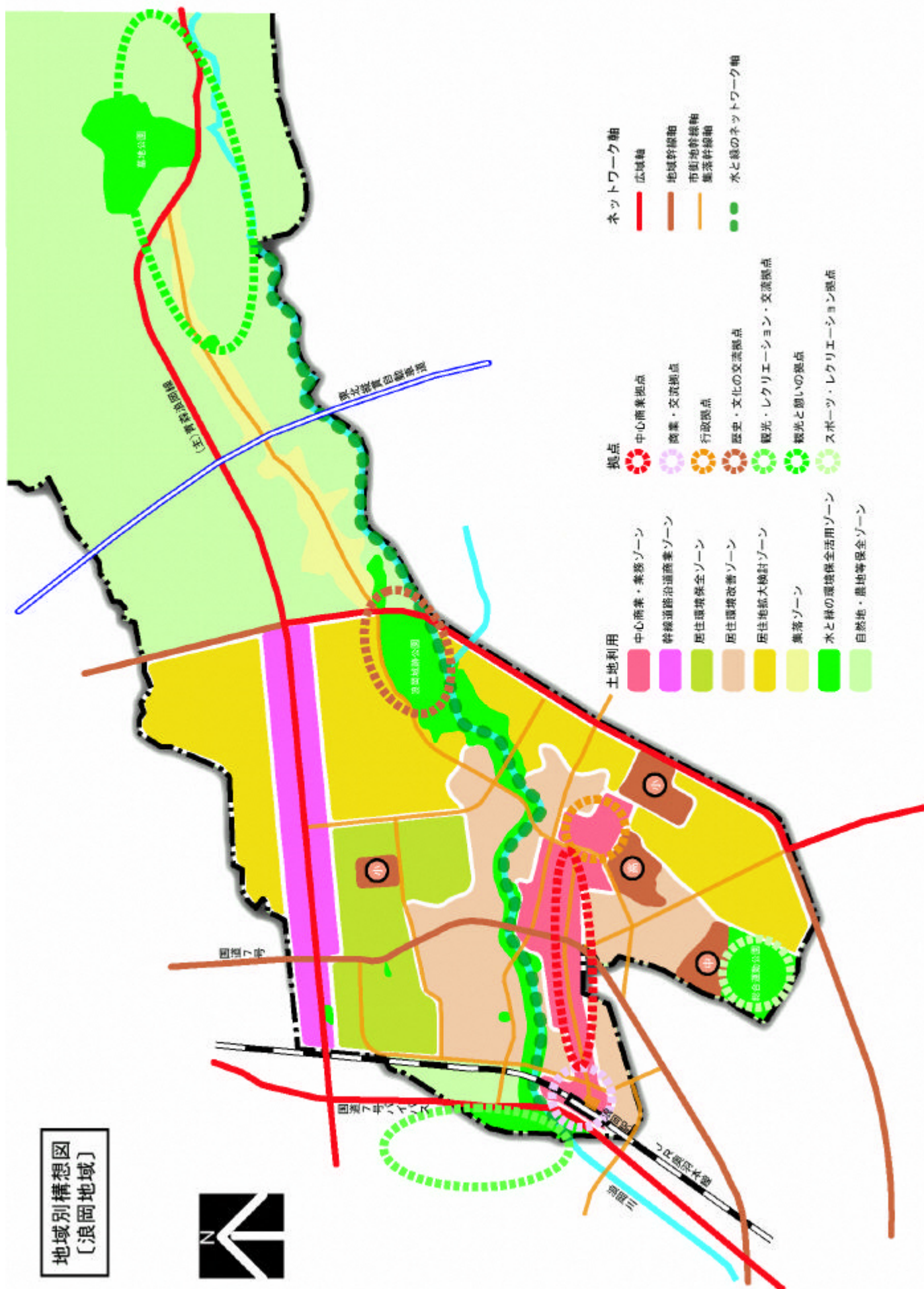
市街地内における生活と都市活動を支える道路として、以下の道路を位置づけ、市街地の整備改善や土地利用転換などの地域づくりの必要性、冬期の歩行空間や堆雪帯の確保、誰もが安全安心して歩ける歩行者空間の創出などを踏まえて、道路の配置や歩車道の幅員などを見直し検討していく。

- ・3.4.2 若松沖范線
- ・3.4.3 花岡女鹿沢線
- ・3.4.5 東種本福田線
- ・3.5.1 停車場稲村線
- ・3.5.2 平川北中野線
- ・3.5.4 赤川淋城線

集落幹線軸は、集落地域の骨格を形成し、市街地や周辺集落地域をネットワークする道路を位置づけ、集落地域における生活利便の向上に寄与する道路機能の強化を図っていく。

水と緑のネットワーク軸

市街地内を東西方向に流れる浪岡川は、周辺に位置する公園や自然・文化資源とのネットワーク化の形成を図る。



地域別構想図
〔浪岡地域〕



- 土地利用**
- 中心商業・業務ゾーン
 - 幹線道路沿道商業ゾーン
 - 居住環境保全ゾーン
 - 居住環境改善ゾーン
 - 居住地域大検討ゾーン
 - 集落ゾーン
 - 水と緑の環境保全活用ゾーン
 - 自然地・農地等保全ゾーン
- 拠点**
- 中心商業拠点
 - 商業・交流拠点
 - 行政拠点
 - 歴史・文化の交流拠点
 - 観光・レクリエーション・交流拠点
 - 観光と憩いの拠点
 - スポーツ・レクリエーション拠点
- ネットワーク軸**
- 広域軸
 - 地域幹線軸
 - 市街地幹線軸
 - 集落幹線軸
 - 水と緑のネットワーク軸

2 女鹿沢地域の構想

【対象となる大字名】大字女鹿沢、大字下十川、大字増館

1 地域の現況特性

1) 概況

位置条件

- ・町の南側に位置し、南側は黒石市、常盤村に隣接している。
- ・地域の北側の一部は、町の中心市街地と繋がる市街地を形成している。
- ・地域は北側一部が丘陵地にあるものの、ほぼ平坦な地形をしており、広大な水田が広がっている。

交通条件

- ・南北方向に JR 奥羽本線が通っているが駅は存在しない。
- ・南北方向に国道 7 号が通っている。これに平行して国道 7 号バイパスが通っているが一部区間が未整備となっている。
- ・地域の東側を南北方向に、黒石市などの周辺市町村を連携する広域的な町道が通っている。

人口動向

- ・平成 12 年の人口は 4,227 人、世帯数は 1,333 世帯となっており、人口は微減傾向のあるものの、世帯数は増加傾向を示している。
- ・地域別人口は浪岡地域に次いでおり、町の人口の約 20% が集中している。

主要施設、土地利用 など

- ・地域の北西側に国立青森病院が立地している。
- ・国道 7 号沿道周辺及び国立青森病院周辺に住宅地が形成されている。
- ・国道 7 号バイパスと(主)青森浪岡線の交差点付近にアップルヒル(道の駅)が立地し、町の情報発信や広域的な交流施設として、機能を果たしている。
- ・アップルヒルに隣接して西山公園があり、スキー場、展望施設などのレクリエーション機能を有している。
- ・地域の西側に隣接して、民間の福祉施設や湿生花園がある。

表 - 人口・世帯の推移

		女鹿沢地域		
		平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
人口	人数 (人)	4,333	4,261	4,227
	伸び率 (%)	-	-1.7%	-0.8%
	人口密度 (人/ha)	4.82	4.74	4.70
世帯	世帯数 (世帯)	1,181	1,281	1,333
	伸び率 (%)	-	7.8%	3.9%
	世帯当人口 (人/世帯)	3.67	3.33	3.17
地域面積 (ha)		898		

) 地域面積は図上計測による。

図 - 地域の位置



2. 地域づくりの課題

健康・福祉拠点の形成

地域に立地する国立青森病院と隣接する野沢地域の福祉関連施設との連携強化を図り、町の健康・医療・福祉の拠点化を図る必要がある。

誰もが安全安心して暮らせる居住環境の充実

医療・福祉拠点の形成にあわせて拠点周辺の住宅地は、誰もが安全安心に暮らすことができる住宅地づくりを目指す必要がある。

バイパス整備を受けた地域づくり

国道7号バイパスの整備にともなって、地域の振興に資する適正な幹線道路沿道街区の形成を図る必要がある。

生活・居住環境の向上

生活基盤や景観づくりなど、既存住宅地の生活環境、居住機能の向上を図る必要がある。

新たな住宅地の整備

住宅地の需要ニーズに応じた新しい住宅地づくりを計画的に進める必要がある。

浪岡駅へのアクセス性の強化

地域の生活利便性の向上を図るため、病院をはじめとした周辺施設から浪岡駅までの歩行空間の整備を図る必要がある。

水辺・緑環境の活用

地域内及び隣接する地域に分布している緑や水辺環境を有効に活用して、健康の森の形成を図る必要がある。

3. 地域づくりの目標・テーマ

テーマ；健康福祉の拠点 やすらぎの地域づくり

生活の基盤づくり

- ・既存住宅ゾーンの居住環境の向上
- ・新たな住宅地ゾーンの整備
- ・地域生活拠点の形成

健康と福祉の拠点づくり

- ・国立青森病院、福祉施設の活用
- ・安全安心な居住環境の向上

健康の森づくり

- ・分散する公園、自然緑地のネットワーク化と有効活用
- ・観光レクリエーション、交流機能の拡充

4．整備構想

(1)土地利用構想

居住環境改善ゾーン

市街地内にあり、都市基盤の整備が行われないうままに宅地化が進んだ住宅地は、生活利便性・安全性の向上などを図るため、家屋の密集化を防止するとともに、道路・公園などの都市基盤の整備、改善を促進する。

居住地拡大検討ゾーン

市街地の骨格を形成する環状道路内側に位置する農地や未利用地などは、農業施策等との調整を図りながら、将来の住宅地需要に応じて段階的に住宅地づくりを展開する。

集落ゾーン

環状道路外側、沿道などに形成されている集落地は、緑地・農地等に隣接する田園居住環境を維持する。

水と緑の環境保全・活用ゾーン

西山公園は、緑・自然の環境を活用するとともに、スキー場や展望施設などを有している既存のレクリエーション機能を維持するとともに、さらなる魅力の向上を図る。

西山公園に隣接するアップルヒルとの一体化を促進し、公園と道の駅の交流機能とレクリエーション機能の向上を図る。

花岡公園は、既存の花と緑豊かな自然公園としての機能を維持し、周辺の公園や水辺・緑の自然環境と一体となった魅力と交流機能の向上を図る。

浪岡川沿いの浪岡緑道のネットワークは、河川の親水ゾーンの形成と水と緑に親しめる緑道公園として整備し、市街地にある潤いとやすらぎの環境・空間づくりを展開する。

住宅地内の街区公園は、地域生活に密着した身近な遊び、憩い、交流の場として、その機能を維持するとともに、住宅地の整備改善に併せて、適正配置を図る。

自然地・農地等保全ゾーン

環状道路外側に位置する自然環境や農地、水田は、都市的な開発を抑制し、恒久的に自然環境を保全する。

(2)拠点形成

地域生活拠点

女鹿沢地域の地域生活拠点は、国道7号バイパス、国道7号及び外環状道路などの幹線道路の交差点付近を位置づけ、日常生活の店舗や業務施設、地域の交流施設などを国道7号バイパスの整備に併せて誘致を図る。

健康福祉拠点

国立青森病院や隣接する野沢地域に立地する民間の福祉施設(りんどう苑、ゆうゆう荘)などの集積する一帯を拠点として位置づけ、施設間の連携ネットワーク化やさらなる施設の誘致を促進し、機能強化を図る。

健康福祉拠点周辺の住宅地は、各施設と地域との連携を図るとともに、公共施設や公益的施設のバリアフリー化を図り、誰もが安全安心して生活できる居住環境の形成を図る。

【女鹿沢地域】

隣接する観光・レクリエーション・交流の拠点(健康の森)との連携を図り、医療と福祉と併せて健康の促進とやすらぎのある拠点の形成を図る。

拠点と浪岡駅間のアクセス道路の整備や公共交通機関の充実を図り、拠点へのアクセス性、利便性を強化する。

観光・レクリエーション・交流拠点

地域内に位置する西山公園、アップルヒル、花岡公園及び地域外に隣接する湿生花園、浪岡川及び緑地などの散在する公園、水辺・緑地の自然環境、交流施設の連携ネットワークを図り、広域的な観光レクリエーション及び交流機能を有した拠点の形成を図る。

特に地域内には町内外の人々や情報の交流拠点となるアップルヒルが立地しており、拠点の中心また表玄関口としての役割を担うものとする。

(3) ネットワーク軸形成

広域軸

浪岡町の都市の骨格を形成する主軸であるとともに、広域的な都市間を連携する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・ 国道7号バイパス〔3.3.1 榊大釈迦線〕
- ・ (仮称)浪岡大鱈線〔広域的町道の一部〕

地域幹線軸

都市の生活・活動の軸を形成し、周辺市町村を連携する広域幹線軸を補完する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・ 国道7号〔3.5.5 杉沢松枝線〕
- ・ (仮称)浪岡環状線

市街地幹線軸及び集落幹線軸

市街地内における生活と都市活動を支える道路として、以下の道路を位置づけ、市街地の整備改善や土地利用転換などの地域づくりの必要性や冬期の歩行空間、除雪場の確保や高齢者を含むすべての人が安全安心して歩ける歩行者空間創出などの地域特性や時代潮流の考え方に応じて、道路の配置や幅員及び機能構成を見直し検討していく。

- ・ 3.4.3 花岡女鹿沢線
- ・ 3.4.4 花岡松枝線
- ・ 3.4.5 東種本福田線

集落幹線軸は、集落地域の骨格を形成し、市街地や周辺集落地域をネットワークする道路を位置づけ、集落地域における生活利便の向上に寄与する道路機能の強化を図っていく。

水と緑のネットワーク軸

地域を南北方向に流れる浪岡川は、中心市街地から連続し、地域の水辺や緑の資源とのネットワーク化の形成を図る。

3 野沢地域の構想

【対象となる大字名】大字銀、大字樽沢、大字郷山前、大字吉野田、大字下石川

1. 地域の現況特性

1) 概況

位置条件

- ・町の西側に位置し、五所川原市、板柳町、常盤村に隣接している。
- ・地域の南東側の一部は、市街地に隣接しているが、地域内には用途地域は指定されていない。
- ・地域の地形は、南側の一部の平坦地に水田が広がっており、それ以外は小高い丘陵地に地域が形成されている。

交通条件

- ・地域の北側を東西方向に浪岡 I.C ~ 五所川原市方面を結ぶ津軽自動車道が通っている。
- ・地域の南側に(主)五所川原浪岡線や県道常海橋銀線などが通っており、これらの沿道を中心として集落地が形成されている。

人口動向

- ・平成 12 年の人口は 3,407 人であり平成 2 年から 7 年は増加しているものの、平成 7 年から 12 年は減少に転じている。
- ・世帯数は 1,009 世帯となっており、人口は減少傾向にある一方で、世帯数は増加傾向を示している。

主要施設、土地利用 など

- ・市街地に隣接または至近な位置に、湿生花園や野沢公園などの自然・緑地資源がある。また地域に隣接して花岡公園、アップルヒル(道の駅)が立地している。
- ・湿生花園に隣接して、民間の福祉施設が立地している。また地域に隣接して国立青森病院が立地している。
- ・地域北側には、歴史文化資源として、十和田霊泉が存在している。

表 - 人口・世帯の推移

		野沢地域		
		平成2年	平成7年	平成12年
人口	人数 (人)	3,464	3,523	3,407
	伸び率 (%)	-	1.7%	-3.4%
	人口密度 (人/ha)	1.74	1.77	1.71
世帯	世帯数 (世帯)	827	938	1,009
	伸び率 (%)	-	11.8%	7.0%
	世帯当人口 (人/世帯)	4.19	3.76	3.38
地域面積 (ha)		1,995		

)地域面積は図上計測による。

図 - 地域の位置



2. 地域づくりの課題

田園環境、りんご畑の保全

野沢地域は平坦地に広がる水田と丘陵地一帯にりんご畑を有する農業地域であり、これら一面に広がる優良な農地の保全を図る必要がある。また丘陵地のりんご畑は浪岡町を象徴する貴重な景観を形成しており、農地の保全と併せて“りんご畑”の眺望、景観を確保していく必要がある。

健康・福祉の拠点の形成

地域に立地する民間の福祉施設と隣接する女鹿沢地域に立地する国立青森病院との連携強化を図り、町健康・医療・福祉の中心となる拠点化を図る必要がある。

生活・居住環境の向上

生活基盤や景観づくりなど、既存集落地の生活環境、居住機能の向上を図る必要がある。特に高齢社会に対応し、高齢者の視点に立った安全安心な住宅地づくりを目指す必要がある。

3. 地域づくりの目標・テーマ

テーマ；食と地域景観を守る 田園環境の地域づくり

農業の地域づくり

- ・水田、りんご畑の保全と自然景観の維持
- ・営農基盤の充実

田園居住の基盤づくり

- ・既存集落居住地の居住環境の向上
- ・地域生活拠点の形成

健康と福祉の拠点づくり

- ・国立青森病院、福祉施設の活用
- ・安全安心な居住環境の向上

健康の森づくり

- ・西山公園、花岡公園、湿生花園のネットワーク化と有効活用
- ・観光レクリエーション、交流機能の拡充

4．整備構想

(1)土地利用構想

集落ゾーン

環状道路外側、沿道などに形成されている集落地は、緑地・農地等に隣接する田園居住環境を維持する。

水と緑の環境保全・活用ゾーン

湿生花園は、既存の自然環境を活かした公園としての機能を維持し、周辺の公園や水辺・緑の自然環境と一体となった魅力と交流機能の向上を図る。

長ため池、熊沢ため池の水辺は、浪岡川や健康の森と連続する水辺空間として、良好な環境の維持保全と野鳥観察などの活用を図る。

野沢公園は、近隣生活の身近な遊び、憩い、交流の場として、その機能を維持する。

十和田霊泉周辺は自然環境の保全を図るとともに、自然環境を活用したレクリエーション機能の向上を図る。

自然地・農地等保全ゾーン

丘陵地のりんご畑、山林の保全

地域内の丘陵地に広がるりんご畑や山林等の農地・自然環境は、都市的な開発を抑制し、恒久的に自然環境を保全するとともに、この丘陵地が有する良好な自然景観を維持していくものとする。

水田の保全

地域の南側の平坦地に広がる水田は、営農環境を確保する地区として位置づけ、都市的な開発を抑制し、恒久的に田園環境を保全する。

(2)拠点形成

地域生活拠点

野沢地域の地域生活拠点は、集落幹線軸となる(主)五所川原浪岡線と津軽横断自動車道の交差点周辺を位置づけ、既存施設を活用しながら日常生活の店舗や業務施設、地域の交流施設などを津軽横断自動車道の整備に併せて誘致していくものとする。

健康福祉拠点

国立青森病院や福祉施設(りんどう苑、ゆうゆう荘)などの集積する一帯を拠点として位置づけ、施設間の連携ネットワーク化やさらなる施設の誘致を促進し、機能強化を図る。

健康福祉拠点周辺の集落地は、各施設と地域との連携を図るとともに、公共施設や公益的施設のバリアフリー化を図り、誰もが安全安心して生活できる居住環境の形成を図る。

隣接する観光・レクリエーション・交流の拠点(健康の森)との連携を図り、医療と福祉と併せて健康の促進とやすらぎのある拠点の形成を図る。

観光・レクリエーション・交流拠点

地域内に位置する花岡公園、浪岡川及び緑地と地域外に隣接する湿生花園や西山公園、アップルヒルなどの散在する公園、水辺・緑地の自然環境、交流施設の連携ネットワ

ークを図り、広域的な観光レクリエーション及び交流機能を有した拠点の形成を図る。
十和田霊泉周辺は、歴史文化資源を活かした観光の拠点の形成を図る。

(3) ネットワーク軸形成

広域軸

浪岡町の都市の骨格を形成する主軸であるとともに、広域的な都市間を連携する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・津軽自動車道
- ・津軽横断道路

集落幹線軸

集落幹線軸は、集落地域の骨格を形成し、市街地や周辺集落地域をネットワークする道路を位置づけ、集落地域における生活利便の向上に寄与する道路機能の強化を図っていく。

地域における農業活動の支援や日常生活の利便性の向上を図る道路として、本地域と大杉地域を結ぶ町道を主要ルートとして位置づける。

水と緑のネットワーク軸

健康の森(観光・レクリエーション・交流拠点)と長ため池、熊沢ため池の水辺を結ぶ浪岡川や緑道を地域の水辺や緑の資源とのネットワークを形成する軸として位置づける。長ため池を結ぶ緑道は、りんご畑の真ん中を通る周辺環境、景観に配慮した遊歩道の整備を図る。

4 大杉地域の構想

【対象となる大字名】大字杉沢、大字高屋敷、大字徳才子、大字長沼、大字大釈迦

1. 地域の現況特性

1) 概況

位置条件

- ・町の北端に位置し、東は青森市、西は五所川原市に隣接している。
- ・地域の南端の一部は、町の中心市街地と繋がる市街地を形成している。
- ・地域は東西に丘陵地が形成され、丘陵地に挟まれた地域に集落や水田が広がっている。

交通条件

- ・南北方向に JR 奥羽本線が通っており、大釈迦駅がある。
- ・地域の東側を南北方向に東北自動車道が通っており、浪岡 I.C が設置されている。
- ・南北方向に国道 7 号が通っている。これに平行して国道 7 号バイパスが計画され、一部区間が供用開始している。
- ・東西方向には浪岡 I.C と直結して津軽自動車道が通り、五所川原市方面を結んでいる。

人口動向

- ・平成 12 年の人口 2,619 人、世帯数 768 世帯であり人口、世帯数とも最も少ない地域である。
- ・人口、世帯の動向は、ともに平成 2 年から 7 年は増加しているものの、平成 7 年から 12 年は福田地区が浪岡地域へ編入されたこともあり 10% を超える減少を示している。

主要施設、土地利用 など

- ・国道 7 号バイパスの西側沿道に大釈迦工業団地が整備されている。
- ・地域の北側の梵珠山に県民の森があり、ブナ自然林の森林浴や野生動植物観察などのレクリエーション機能を有している。
- ・地域に隣接して西山公園、アップルヒルなどの交流・レクリエーション施設、また湿生花園や花岡公園などの自然・緑地資源も周辺に分布している。

表 - 人口・世帯の推移

		大杉地域		
		平成2年	平成7年	平成12年
人口	人数 (人)	2,744	3,002	2,619
	伸び率 (%)	-	8.6%	-14.6%
	人口密度 (人/ha)	1.21	1.32	1.15
世帯	世帯数 (世帯)	715	857	768
	伸び率 (%)	-	16.6%	-11.6%
	世帯当人口 (人/世帯)	3.84	3.50	3.41
地域面積 (ha)		2,273		

)平成 8 年に福田地区が浪岡地域へ編入される。
地域面積は図上計測による。

図 - 地域の位置



2. 地域づくりの課題

工業・産業系土地利用の拡充

大釈迦工業団地の機能維持を図るとともに、良好な交通条件を活かした新たな工業・産業系の基盤づくりを進め、町の産業振興のさらなる拡大を支援していく必要がある。

バイパス整備を受けた国道7号の再生

国道7号バイパスの整備にともなって、国道7号は広域の道路から地域生活の道路へと機能転換されることとなり、地域の特性を十分に考慮した道路づくりを行う必要がある。

生活・居住環境の向上

生活基盤や景観づくりなど、既存住宅地の生活環境、居住機能の向上を図る必要がある。

新たな住宅地の整備

住宅地の需要ニーズに応じた新しい住宅地づくりを計画的に進める必要がある。

丘陵地の保全と活用

地域の東西にある丘陵地は、りんご畑や山林の良好な緑、自然環境の維持保全と、人と自然がふれあい共存する空間としての活用を図っていく必要がある。

3. 地域づくりの目標・テーマ

テーマ；人と自然が交流し 産業を支える地域づくり

生活の基盤づくり

- ・既存住宅ゾーンの居住環境の向上
- ・新たな住宅地ゾーンの整備
- ・地域生活拠点の形成
- ・国道7号沿道集落地の居住環境の再生

工業、産業の活力の拠点づくり

- ・大釈迦工業団地の機能維持
- ・交通条件を活かした新たな工業地、産業・物流系業務地の創出

人と自然との交流づくり

- ・県民の森や丘陵地の山林などの自然環境を活かした、人と自然の共生エリアの創造

4．整備構想

(1)土地利用構想

工業ゾーン

大釈迦工業団地は、既存の工業地としての機能を維持する。

大釈迦工業団地の拡大の方向として、I.C周辺には高速道路や新たな幹線道路の整備を受け、交通利便性を活かした新たな工業団地を、工業、産業の需要を勘案しながら工業系の都市基盤の整備と施設誘導を図る。

物流業務ゾーン

I.C周辺には、高速道路や空港などの広域的交通条件を活かした物流業務の土地利用を展開する。

居住環境改善ゾーン

市街地内にあり、都市基盤の整備が行われないうままに宅地化が進んだ住宅地は、生活利便性・安全性の向上などを図るため、家屋の密集化を防止するとともに、道路・公園などの都市基盤の整備、改善を促進する。

居住地拡大検討ゾーン

市街地の骨格を形成する環状道路内側に位置する農地や未利用地などは、農業施策等との調整を図りながら、将来の住宅地需要に応じて段階的に住宅地づくりを展開する。

集落ゾーン

環状道路外側、国道7号沿いや大釈迦駅周辺などに形成されている集落地は、緑地・農地等に隣接する居住環境を維持する。

水と緑の環境保全・活用ゾーン

県民の森梵珠山は、人と自然環境が交流する空間としての機能の維持とともに、地域及び広域住民のレクリエーションの場として有効活用を図る。

住宅地内の街区公園は、地域生活に密着した遊び、憩い、交流の場として、機能を維持するとともに、住宅地の整備改善に併せて、適正配置を図る。

自然地・農地等保全ゾーン

環状道路外側に位置する自然環境や農地、水田は、都市的な開発を抑制し、恒久的に自然環境を保全する。

(2)拠点形成

地域生活拠点

大杉地域の地域生活拠点は、大釈迦駅周辺を位置づけ、日常生活品を扱う店舗や業務施設などの誘致を図る。

産業物流拠点

大釈迦工業団地や新たに整備される工業団地、物流業務地が集積するI.C周辺を位置づけ、各土地利用の連携を図り、利便性の高い産業活動の拠点を形成する。

自然との交流・レクリエーション拠点

梵珠山県民の森とその周辺は、自然環境を活かした人と自然が交流する拠点、また自然環境を活かした広域的な観光レクリエーションの拠点形成を図る。

(3) ネットワーク軸形成

広域軸

浪岡町の都市の骨格を形成する主軸であるとともに、広域的な都市間を連携する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・ 国道7号バイパス〔3.3.1 榊大釈迦線〕
- ・ 津軽自動車道
- ・ 津軽横断道路

地域幹線軸

都市の生活・活動の軸を形成し、周辺市町村を連携する広域幹線軸を補完する軸として、以下の道路を位置づける。

- ・ 国道7号
- ・ 国道101号
- ・ (仮称)浪岡環状線〔町道五本松長沼線〕

集落幹線軸

地域における農業活動の支援や日常生活の利便性の向上を図る道路として、本地域と野沢地域を結ぶ農道を主要ルートとして位置づける。

5 五郷地域の構想

【対象となる大字名】大字北中野、大字吉内、大字本郷、大字相沢、大字細野

1. 地域の現況特性

1) 概況

位置条件

- ・町の南東側に位置し、南側は黒石市に隣接している。
- ・地域の西側は平坦な地形であり、水田と5つの田園集落地で構成されている。
- ・地域の東側は起伏のある山間地域となっており、豊富な樹林などの自然環境が残されている。

交通条件

- ・市街地から黒石市方面を結ぶ県道浪岡北中野黒石線が地域の幹線道路となっている。
- ・南北方向には東北縦貫自動車道が通っているがI.Cは存在しない。

人口動向

- ・平成12年の人口は3,396人であり、平成2年から7年は増加しているものの、平成7年から12年は減少に転じている。
- ・世帯数は3,396世帯となっており、人口は減少傾向にある一方で、世帯数は増加傾向を示している。

主要施設 など

- ・山間部には野生のすずらの咲く山や細野温泉などがある。
- ・地域西側に隣接して、小学校などの公益的施設が立地している。

表 - 人口・世帯の推移

		五郷地域		
		平成2年	平成7年	平成12年
人口	人数 (人)	3,467	3,510	3,396
	伸び率 (%)	-	1.2%	-3.4%
	人口密度 (人/ha)	0.77	0.78	0.75
世帯	世帯数 (世帯)	836	909	936
	伸び率 (%)	-	8.0%	2.9%
	世帯当人口 (人/世帯)	4.15	3.86	3.63
地域面積 (ha)		4,519		

)地域面積は図上計測による。

図 - 地域の位置



2. 地域づくりの課題

自然環境の保全と活用

地域には豊かな自然が残されており、これらの自然環境を次世代へ受け継ぐよう、自然環境の保全を図る必要がある。また自然環境と地域固有の資源、施設を活かし、自然と共生するレクリエーション空間づくりを図っていく必要がある。

農地の保全と農業振興による地域の活性化

地域の土地利用は山林、りんご畑と水田でほとんどが占められており、自然環境とともに地域の特徴である農地を保全し、地域の基幹産業である農業の振興に寄与していくものとする。

生活・居住環境の向上

生活基盤や景観づくりなど、既存集落地の生活環境、居住機能の向上を図る必要がある。

3. 地域づくりの目標・テーマ

テーマ；そのまんまの自然を残し、育てる地域づくり

自然を活かしたレクリエーションづくり

- ・すずらん山周辺の整備
- ・細野温泉、細野山の家、細野溪流魚増殖実習場の活用

農業の地域づくり

- ・水田、りんご畑の保全と自然景観の維持
- ・営農基盤の充実
- ・関連産業の基盤の充実

田園居住の基盤づくり

- ・既存集落居住地の居住環境の向上
- ・地域生活拠点の形成

4. 整備構想

(1) 土地利用構想

集落ゾーン

五郷地域に形成される5つの集落地は、緑地・農地等に隣接する良好な田園環境を維持するとともに、都市基盤の改善や生活利便性の向上を目指した各種施設の整備、拡充を図る。

自然地・農地等保全ゾーン

りんご畑、山林の保全ゾーン

地域内の丘陵地に広がるりんご畑や山間地の山林等の農地・自然環境は、都市的な開発を抑制し、恒久的に自然環境を保全するとともに、この丘陵地が醸し出す良好な自然景観を維持していくものとする。

水田の保全

地域の西側の平坦地に広がる水田は、営農環境を確保する地区として位置づけ、都市的な開発を抑制し、恒久的に田園環境を保全する。

(2) 拠点形成

地域生活拠点

五郷地域の地域生活拠点は、県道浪岡北中野黒石線の沿道、北中野と吉内の集落地の中間に立地する農協倉庫の周辺を位置づけ、日常生活品を扱う店舗や業務施設、地域の交流施設、さらには地域の農業の振興に寄与する地場産品加工の施設や直売所などの施設誘致を図る。

レクリエーション拠点

すずらん山を活用したレクリエーションの拠点は、拠点へのアクセス性を強化する駐車場や林道などの整備を図る。

細野地区のレクリエーション拠点は、温泉などの各種施設の活用と自然観察や山菜取りなどの自然に親しめる拠点の形成を図る。

(3) ネットワーク軸形成

広域軸

浪岡町の都市の骨格を形成する主軸であるとともに、広域的な都市間を連携する軸として、以下の道路を位置づける。

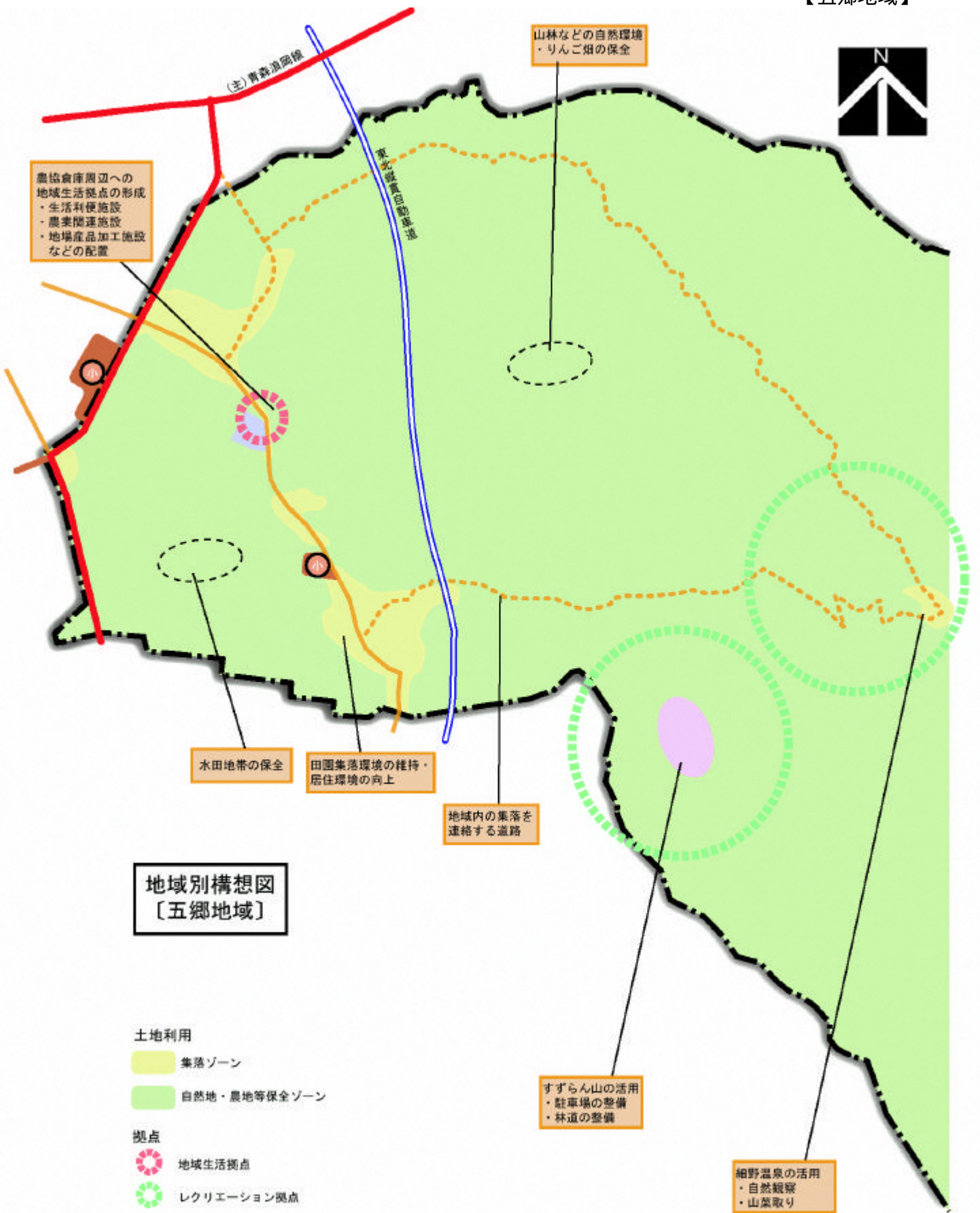
- ・(仮称)浪岡大鰐線〔広域的町道、3.4.1 佐野沖范線の一部〕

集落幹線軸

集落幹線軸は、集落地域の骨格を形成し、周辺集落地域をネットワークする道路を位置づけ、集落地域における生活利便の向上に寄与する道路機能の強化を図っていく。

- ・県道浪岡北中野黒石線

その他、地域内集落を有機的に連絡する道路として、町道北中野細野線、本郷細野線を位置づける。





第7章 実現化の方策



7-1 町全体で受け止めていく方策

個別の事業、施策を展開する前段として、町全体で受け止め、方針を定めなければならない事項とその考え方は次のとおりである。

(1) 用途地域、道路等の都市計画の見直し

1) 新たな住宅市街地づくりに対応した用途地域の拡大

需要のニーズなどに対応していく新たな住宅地等の確保は、農業施策との調整を図りながら現行の用途地域を拡大する方向で進めていく。このための用途地域拡大に向けた都市計画の見直し検討を行う必要がある。

2) 用途地域の変更

現況用途地域において、現況の土地利用と用途地域の指定とがそぐわない箇所があり、将来の土地利用計画を踏まえた計画的な土地利用を誘導していくために、適切な用途地域への見直しを行う必要がある。

具体的な用途地域の見直し検討が必要な箇所として、次の箇所が考えられる。

女鹿沢地域浪岡駅西側～国道7号バイパスに挟まれた区域

鉄道と国道7号バイパスに挟まれた区域は現行準工業地域が指定されているが、工業系建築物はわずかで、大半が住宅地や農地等の空閑地となっており、有効な土地利用が図られていない状況にある。本都市計画マスタープランにおいては、住宅系を基本とした土地利用を位置づけ、面的な整備事業や地区計画などを導入した計画的な住宅地づくりを方針として定めており、これに従った用途地域の見直し検討を行う必要がある。

国道7号バイパス整備予定地の沿道区域

国道7号バイパス整備予定地の沿道は、バイパスの整備に伴って、沿道地域の用途地域を見直しする必要がある。

3) 整備が進まない都市計画道路の見直し

都市計画道路 3.5.1 停車場稲村線、3.5.2 平川北中野線、3.5.4 赤川淋城線、3.5.5 杉沢松枝線、3.4.4 花岡松枝線などの中心市街地内に計画決定されている都市計画道路は、計画決定された道路幅員が確保されていないなどの状況にある。これらの道路は、既成市街地内を通ることから沿道に家屋等が建て詰まっており、道路整備の実現性は極めて困難であると考えられる路線や、近年の交通量の増大や新設道路の整備等により交通動線が変化したことによって、現在の計画路線では実情に合わない路線なども見受けられ、このままの整備進捗率で推移すると現行の都市計画道路全線が供用開始されるまでに100年もの期間を要することとなる。

このような道路づくりの状況から、本町の都市計画道路網は、過大な公共投資を抑制する観点などを考慮し、実現性の高い都市計画道路網の見直し検討を行う必要がある。

これまで、既決定の都市計画を変更、廃止することは困難なこととされていたが、近年、既定の都市計画道路を廃止した事例もあり、本都市計画区域においてもその必要性があるものと考えられる。

(2) 自然環境、緑の維持・保全に関する計画の策定

浪岡町には豊かな自然環境があり、これを次世代へ維持、継承していくことが住民にとって責務であると言える。また公園、緑地については目標水準を超えた公園が確保されているが、その維持管理に関しては決して十分な状況とは言えない。

本都市計画マスタープランにおいては、豊かな自然環境、水辺、緑の維持・保全と水辺、公園・緑地の機能的なネットワークづくりを位置づけているが、実現化に向けてより具体的な緑の確保、整備及び管理に関する計画を策定する必要がある。

“ 緑 ” に関する計画としては、『緑の基本計画』を策定し、計画に基づいて自然環境の保全や緑の確保、整備及び維持管理を進めていく必要がある。

(3) 都市の景観づくり

近年、質の高い都市環境づくりを目指して、統一された街並みづくりや田園風景の保全など、都市の景観づくりが注目されている。良好な住環境都市を目指す浪岡町においても都市の景観づくりは重要なことであり、町全体で計画的に取り組む必要がある。また、市街地の外側をみると丘陵地の一帯に広がる優良なりんご畑をはじめとする自然の景観、眺望があり、自然環境と併せて、自然景観の維持保全に努める必要がある。

このような景観づくりや維持に町全体で取り組んでいく方策として、景観づくりの指針を示す『景観ガイドライン』の策定、及びこれに基づく誘導方策として『景観条例』の制定を地域住民と一体となって進めていく必要がある。

具体的な景観づくりの方向として、次の項目が考えられる。

中心商業地の商店街の沿道景観づくり

町の玄関口となる浪岡駅の駅舎・駅前景観づくり

住宅市街地の街並み景観づくり

工業施設内及び周辺の緑化

幹線道路沿道の自然景観の保全

田園・集落景観の保全

建築物の高さ制限による岩木山、りんご畑などの遠景眺望の確保

7 - 2 個別の地域での事業展開の方策

地域別構想の実現化へ向けた考え方及び想定される事業等の方策は、次のとおりである。

中心市街地の賑わいの再生

〔浪岡地域：中心商業・業務ゾーン、中心商業拠点、商業と交流の拠点〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	活性化の基本方針を定める。	中心市街地活性化基本計画の策定	
第2段階	基本方針に基づき、ソフト、ハード事業を展開する。	県道停車場稲村線の整備 ・歩道のバリアフリー化 ・街路樹の設置 ・電線の地中化 など 商店街の景観づくりへの誘導	・街路事業 ・まちづくり総合支援事業 ・地区計画・建築協定など

浪岡駅周辺の再整備

〔浪岡地域：中心商業・業務ゾーン、商業と交流の拠点〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	公共施設の基盤づくりを進める。	東側駅前広場の整備 駅東側の整備 ・駐車場、駐輪場の設置	・まちづくり総合支援事業 ・まちづくり総合支援事業
第2段階	施設整備や街並みの景観づくりを誘導する。	・周辺建築物の景観形成への誘導 など 駅西側の整備 ・駐車場、駐輪場の拡充	・地区計画・建築協定など ・町または民間による整備

幹線道路沿道商業地の整備

〔浪岡地域：幹線道路沿道商業ゾーン〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	幹線道路の整備と沿道の土地の利用方針を定める。	(主)青森浪岡線の4車線化 土地利用、誘致施設・店舗等の種類や建て方などの規制、誘導	・街路事業 ・特別用途地域の指定 ・条例、協定
第2段階	企業の誘致と沿道景観づくりを誘導する。	建築促進と沿道景観づくりの誘導	・沿道地区計画・建築協定など

国道7号バイパス整備と沿道地区の整備

〔女鹿沢地域、大杉地域：国道7バイパスと道路沿道〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	都市計画決定されている道路の整備を促進する。	都市計画道路3.3.1 榎大釈迦線の整備	・直轄事業
第2段階	建築誘導を図る沿道地区への建築と沿道景観づくりを誘導する。	計画的な建築促進と沿道景観づくりの誘導	・沿道地区計画・建築協定など

工業団地、物流業務地の整備

〔大杉地域：工業ゾーン、物流業務ゾーン、産業物流拠点〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	新たな工業地、業務地については、基盤づくりを進める。	面的な基盤の整備	・土地区画整理事業 ・開発行為等
第2段階	企業の誘致活動と建築を促進する。	企業誘致と施設整備の促進	・町による企業の斡旋 ・民間による施設の建築

既存住宅地の環境の保全

〔浪岡地域：居住環境保全ゾーン〕

段階的な考え方	主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階 公共施設の維持管理や土地利用、建築のルールを定める。	地域住民や民間団体による公園などの維持管理 街並み景観づくりに向けた土地利用、建物の建て方などの規制、誘導	・ボランティア、NPOなどの活用 ・地区計画・建築協定 など
第2段階 建物の建替え等に合わせ、街並み景観づくりを誘導する。	公共施設の維持管理活動の継続 街並み景観づくりの誘導	・ボランティア、NPOなどの活用 ・地区計画・建築協定 など

既存住宅地の環境の改善

〔浪岡地域、女鹿沢地域：居住環境改善ゾーン〕

段階的な考え方	主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階 不足する公共施設の確保や土地利用、建築の方針を定める。	必要な公共施設用地の位置づけ 街並み景観づくりに向けた土地利用、建物の建て方などの規制、誘導	・地区計画・建築協定 など
第2段階 公共施設の確保または整備と建替え等に合わせ、街並み景観づくりを誘導する。	細街路、公園等の整備または面的な整備 街並み景観づくりの誘導	・道路事業、公園事業 ・土地区画整理事業 など ・地区計画・建築協定 など

新しい住宅市街地の整備

〔浪岡地域、女鹿沢地域、大杉地域：居住地拡大検討ゾーン〕

段階的な考え方	主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階 住宅地として整備する区域と農地等の保全を図る区域の明確な区分を行う。	農政関係機関との調整	・都市計画の用途地域などの指定（新たな住宅地の区域）
第2段階 新たな住宅地として整備する区域において住宅地づくりを促進する。	面的な基盤整備の施行	・開発行為 ・土地区画整理事業 など
第3段階 建築活動の促進と街並み景観づくりを誘導する。	街並み景観づくりの誘導	・地区計画・建築協定 など

都市計画道路の整備促進と見直し検討

〔浪岡地域：都市計画道路〕

段階的な考え方	主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階 未整備な都市計画道路は、地域の実情や今日的なまちづくりの考え方を踏まえて見直し検討を行う。	都市計画道路の見直し	・見直し検討 ・都市計画の廃止及び新たな決定
第2段階 計画決定された都市計画道路の整備を促進する。	都市計画道路の整備	・街路事業

健康福祉拠点への施設整備

〔女鹿沢地域、野沢地域：健康福祉拠点〕

段階的な考え方	主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階 各種施設の誘致と公共交通機関によるアクセスの強化を進める。	施設の誘致と建設の促進 バスなどの公共交通機関の運行	・公共による施設整備、運営 ・民間活力、PFIなどの導入 ・民間などによる事業

国道7号の機能転換に伴う再整備

〔大杉地域：国道7号〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	地域に密着した道路の整備について検討を行う。	官と民による協議と整備計画の策定	
第2段階	整備計画に基づく道路づくりと沿道の街並みづくりを行う。	道路の再整備 街並み景観づくりの誘導	・道路事業 ・地区計画・建築協定 など

集落居住環境の向上

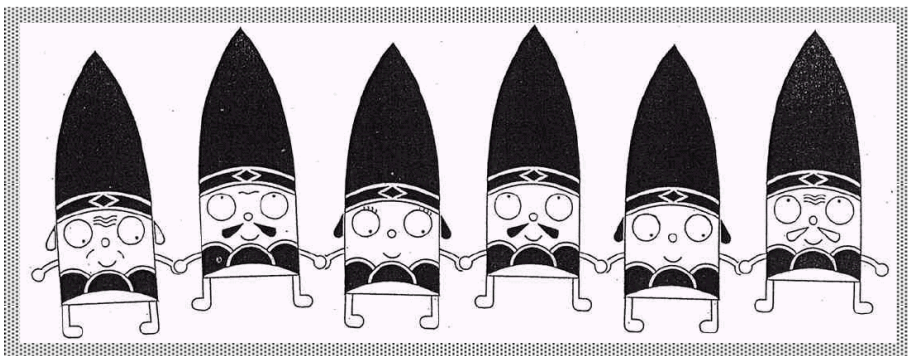
〔浪岡地域、女鹿沢地域、野沢地域、大杉地域、五郷地域：集落ゾーン〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	不足する公共施設の整備、改善と集落景観の維持を図る。	生活道路や歩道、排水施設の整備、改善 田園集落景観づくりの誘導	・道路事業 ・農業集落排水事業 ・集落地区計画、地区計画・建築協定 など

自然地・農地の保全

〔浪岡地域、女鹿沢地域、野沢地域、大杉地域、五郷地域：自然地・農地等保全ゾーン〕

段階的な考え方		主な整備・保全等の展開方向	想定される事業・方策(案)
第1段階	良好な自然環境や農地の維持、保全を図る。	規制自然環境や山林、樹林地の維持保全のための土地利用規制、開発抑制 農政関連機関の所管に基づく水田、畑地の維持保全	・各種の自然環境の保全に関する地域、地区の指定 ・各種の農業基盤整備事業 ・農業振興に資する事業、助成





参 考 資 料



ワークショップと策定委員会

本都市計画マスタープランの策定にあたって、住民参加によるワークショップ及び策定委員会を組織、運営した。

(1) 組織の位置づけとメンバー

図 - 組織関連図

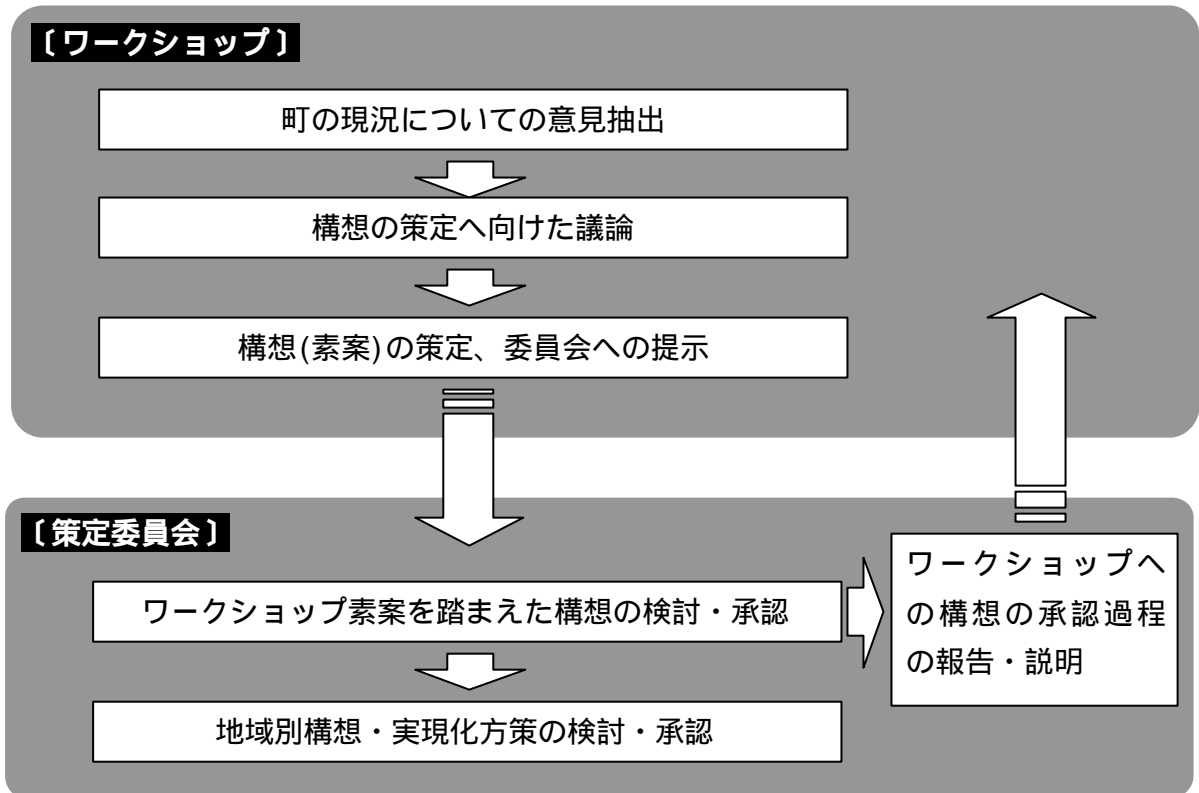


表 - 浪岡町都市計画マスタープランワークショップ・策定委員会名簿

ワークショップ		策定委員会		
(浪岡地域)	桜庭 清吾	浪岡町土木協会会長	三上 恵一	
	永井 三雄	浪岡町建設協会会長	前田 英昭	
	佐藤 道留	浪岡町商業協同組合理事長	塩崎 敏範	
	藤森 茂	浪岡農業協同組合青年部長	田中 正人	
	山田 英敏	浪岡ボランティア協会会長	前田 千鶴子	
	浅利 敬子	ワークショップ代表	桜庭 清吾	
	太田 憲一	ワークショップ代表	永井 三雄	
(女鹿沢地域)	石沢 暁夫	ワークショップ代表	工藤 清隆	
	佐々木茂雄	ワークショップ代表	石沢 暁夫	
	長谷川さなえ	ワークショップ代表	猪股 晃	
(野沢地域)	工藤 清隆	ワークショップ代表	津川 重義	
	新谷 福美	浪岡町助役	工藤 政光	委員長
	斎藤 豊治	浪岡町建設課長	天内 善磨呂	
(大杉地域)	猪股 晃	浪岡町総務課長	工藤 照造	
	石村 鐵男	浪岡町企画調整課長	石村 正司	
(五郷地域)	津川 重義	浪岡町上下水道課長	平田 国昭	
	山内 春男	浪岡町農政課長	古川 輝雄	
	鎌田 克義			

事務局；浪岡町建設課都市計画班、(株)パスコ仙台技術部

(2) 開催経緯

1. ワークショップ

【第1回】平成 14年 8月 9日

ガイダンス

- ・都市計画マスタープラン、及びワークショップの進め方等の概要説明
- ・浪岡町の状況の報告
- ・策定委員の選出

【第2回】平成 14年 9月 3日

《テーマ》浪岡町の現状（良いところ、悪いところ探し）

- ・浪岡町の現況特性、まちづくりの問題点の議論を行う。
- ・3班に分かれて議論し、各班で成果のまとめと発表を行う。

【第3回】平成 14年 10月 2日

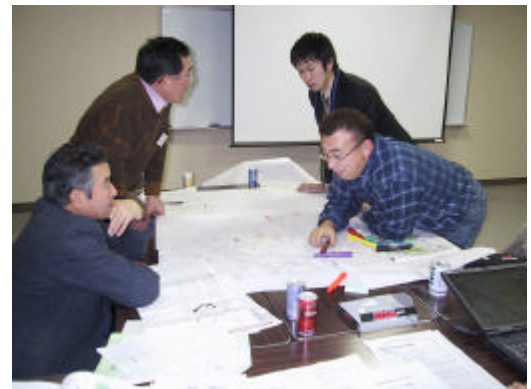
《テーマ》浪岡町の将来の姿づくり（将来像の提案）

- ・将来都市像と整備、保全の方針について議論を行う。
- ・まちづくりのキャッチフレーズについて議論を行う。
- ・3班に分かれて議論し、各班で成果のまとめと発表を行う。

【第4回】平成 15年 1月 9日

《テーマ》地域別構想づくり（地域別構想の提案）

- ・全体構想を踏まえて各地域の構想づくりへ向けての議論を行う。
- ・3班に分かれて議論し、各班で成果のまとめと発表を行う。



2. 策定委員会

【第1回】平成 14年 8月 21日

ガイダンス

【第2回】平成 14年 10月 28日

浪岡町の現況特性及びまちづくりの課題の整理

将来目標の設定

将来都市構造の設定

【第3回】平成 14年 12月 12日

まちづくりテーマの設定

都市の基本構成

整備・保全の方針

【第4回】平成 15年 1月 29日

地域別構想の検討

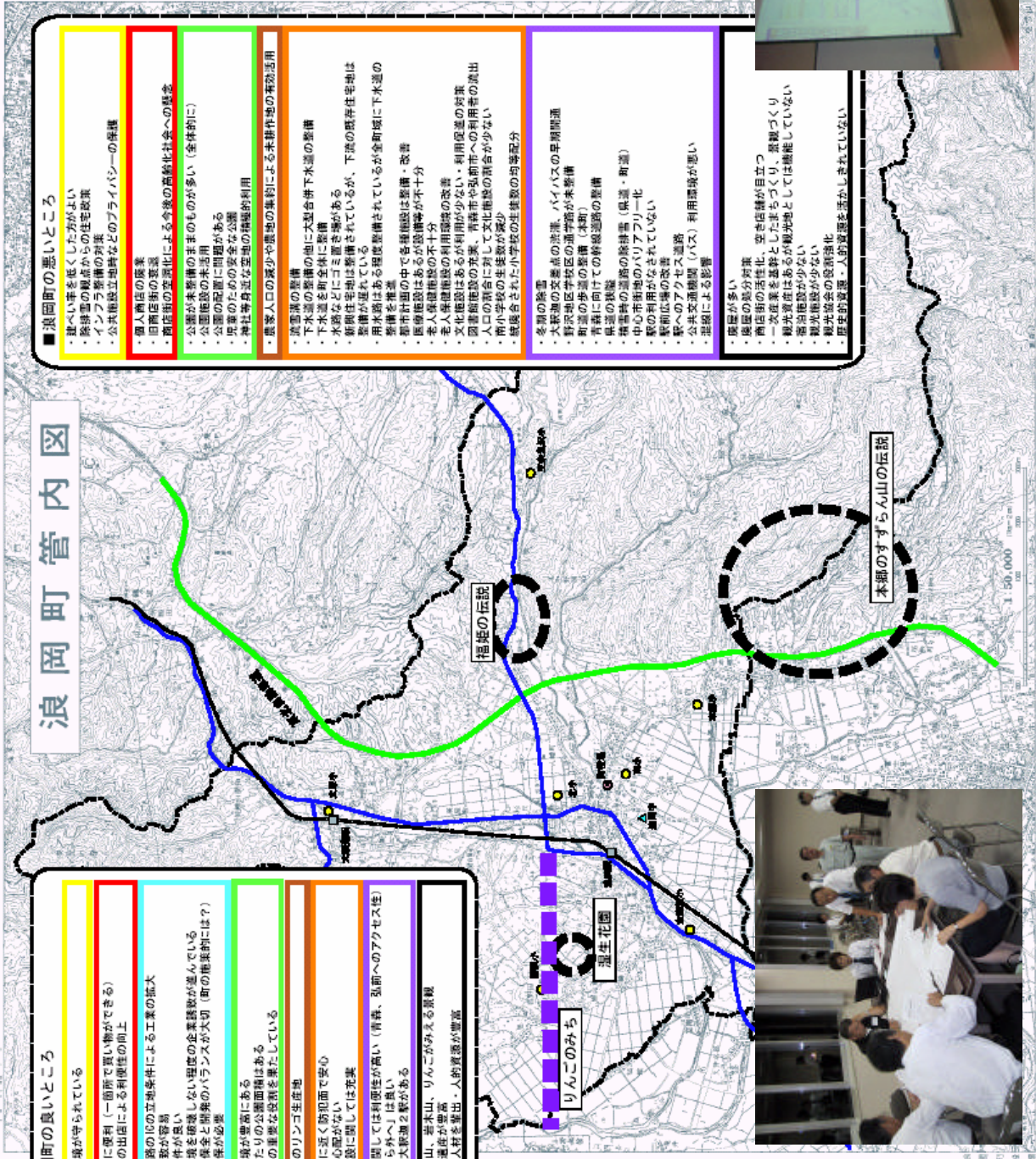
【第5回】平成 15年 3月 11日

地域別構想

実現化方策



浪岡町都市計画マスタープラン
第2回ワークショップ ～町の良いところ、悪いところ～ 2002年9月3日



浪岡町管内図

- 口浪岡町の良いところ**
- ・自然環境が守られている
 - ・買い物に便利（一部所で買い物ができる）
 - ・大型店の出店による利便性の向上
 - ・高層道路の10の立地条件による工業の拡大
 - ・企業誘致が容易
 - ・物流条件が良い
 - ・自然環境を破壊しない程度の企業誘致が進んでいる
 - ・自然の保全と開発のバランスが適切（町の集約性には？）
 - ・雇用創出が必要
 - ・自然環境が豊富にある
 - ・一人当たりの公園面積はある
 - ・防災上の重要な役割を果たしている
 - ・日東一のリンゴ生産地
 - ・農業に近く防犯面が安心
 - ・災害への備わらない
 - ・医療施設に関して充実
 - ・道路に閉じては利便性が高い（青森、弘前へのアクセス性）
 - ・「中から外へ」は難しい
 - ・浪岡、大森池2駅がある
 - ・八甲田山、岩木山、りんごがみえる景観
 - ・歴史の遺産が豊富
 - ・優秀な人材を輩出・人的資源が豊富

- 浪岡町の悪いところ**
- ・取っ手を感じにくくした方がよい
 - ・除排雪の観点からの住宅政策
 - ・インフラ整備の対策
 - ・公共施設立地時などのプライバシーの確保
 - ・個人商店の廃業
 - ・日商近所の衰退
 - ・商店街の空洞化による今後の高齢社会への懸念
 - ・公園が未整備のままのものが多く（全体的に）
 - ・公園施設の未活用
 - ・防災のための安全な公園
 - ・津波を身元立な空地の積極的利用
 - ・農家人口の減少や農地の集約による未耕作地の増加活用
 - ・流通網の整備
 - ・下水道の整備の他に大型合拼下水道の整備
 - ・下水道を町全体に整備がある
 - ・水質などにゴミ処理場がある
 - ・駅前周辺は整備されているが、下流の既存住宅地は整備がされていない
 - ・用途別にはある程度整備されているが全町域に下水道の整備が未進
 - ・都市計画の中で各種施設は整備、改善
 - ・医療施設はあるが設備等が不十分
 - ・老人保健施設の利用率が低い
 - ・文化施設は利用が少くない、利用促進の対策
 - ・児童館施設の充実、青森市や弘前市への利用者の派出生
 - ・人口の減少に対して文化施設の割合が少ない
 - ・府小学校の生徒数が減少
 - ・保護された小学校の生徒数の均等配分
 - ・冬の除雪
 - ・大森池の交差点の渋滞、ハイバスの早期開通
 - ・野本地区学区の通学路が未整備
 - ・町道の歩道の整備（本町）
 - ・青森に向けての幹線道路の整備
 - ・国道の狭路
 - ・国道の道路の除排雪（国道・町道）
 - ・中心市街地のパリアフリー化
 - ・駅の利用がなされていない
 - ・駅前広場の改善
 - ・駅へのアクセス道路
 - ・公共交通機関（バス）利用環境が悪い
 - ・混雑による影響
 - ・店舗が多い
 - ・店舗の区分けが不明
 - ・商店街の活性化、空き店舗が目立つ
 - ・一次産業を基幹としたまちづくり、景観づくり
 - ・観光資源はあるが観光地としては機能していない
 - ・宿泊施設が少ない
 - ・観光施設が少ない
 - ・観光客の受入れ態勢
 - ・歴史的資源・人的資源を活かされていない



- 凡例**
- 住宅地、居住環境などに関すること
 - 商業地、中心市街地の賑わいなどに関すること
 - 工業地などに関すること
 - 公園・緑地、水辺環境などに関すること
 - 畑・水田・果樹園、農林業などに関すること
 - 公益的な施設などに関すること
 - 道路、鉄道などの交通施設に関すること
 - 上記に該当しないその他

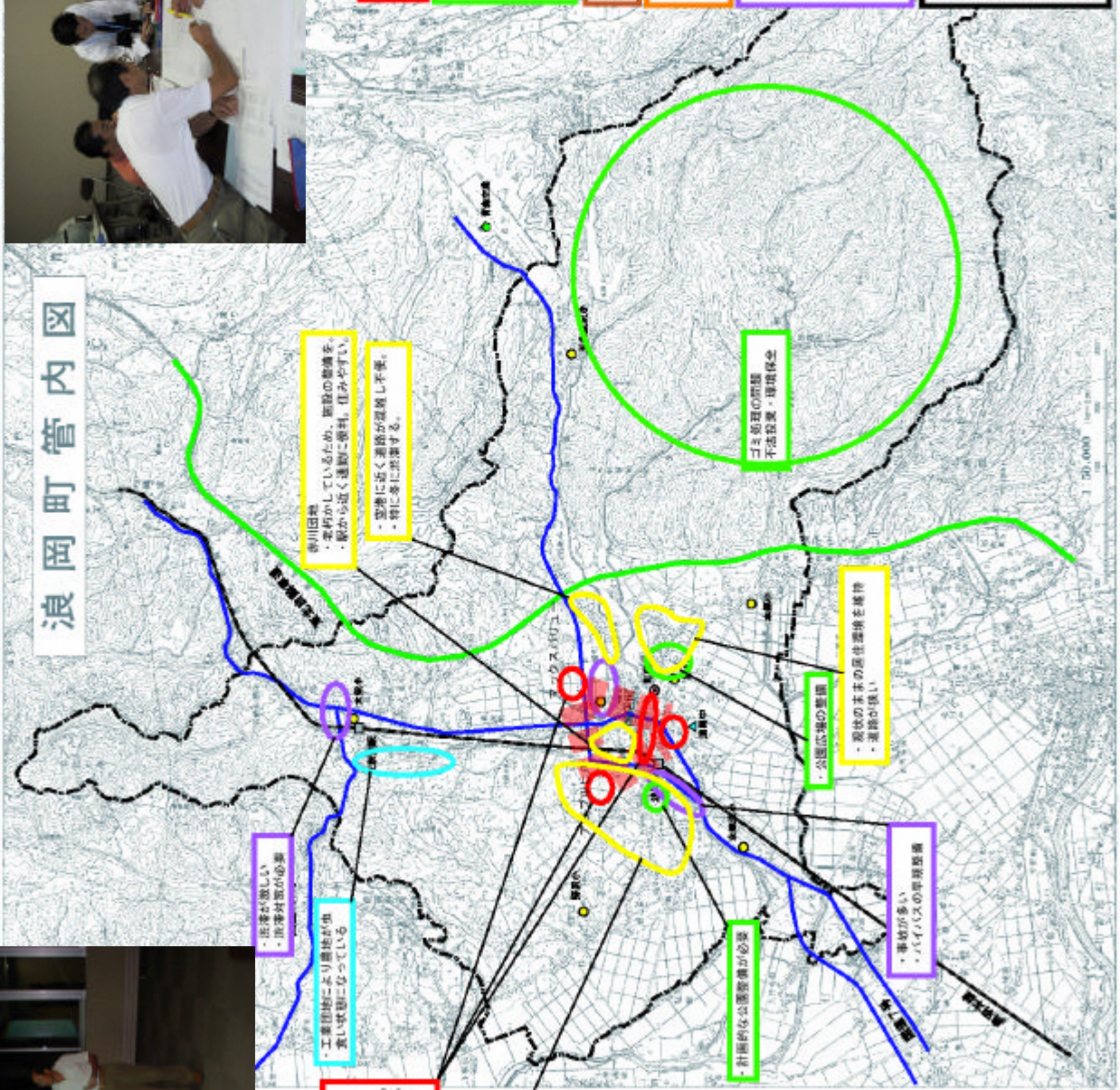
- 凡例**
- 町役場
 - 小学校
 - 中学校
 - 空港

浪岡町都市計画マスタープラン
第2回ワークショップ ～町の良いところ、悪いところ～ 2002年9月3日



3 班
 茂 夫 雄 男 敏
 森 咲 茂 春 英
 藤 沢 木 内 田
 石 佐 々 山 山

浪岡町管内図



- 凡例**
- 住宅地、居住環境などに
関すること
 - 商業地、中心市街地の賑わい
などに関すること
 - 工業地などに関すること
 - 公園、緑地、水辺環境などに
関すること
 - 河川、水田・栗樹園、農林業
などに関すること
 - 公共的な施設などに関すること
道路、鉄道などの交通施設に
関すること
 - 工地上に該当しないその他の
- 凡例**
- 町役場
 - 小学校
 - 中学校
 - 空港

- 各分野における町全体にわたる意見**
- 商業について不具合なところは感じない。
商業などの商業時間の延長によもなって、親の生活スタイルが変りになり、子育てへの影響が不安。
商業の集積地集積地にある商業地などは整理が必要である。
 - 生活に身近な公園が多い
・公園内の施設が広く利用者のニーズに合っていない。
・管理が行われていない(計画的な管理運営)
・ゴミ処理の問題を考慮する必要がある。
向全体が新しいイメージ
水・水辺の多様な活用方法の検討
・水辺にゴミが多い(生活ゴミ)
 - 1.52kmの通出
・児童・加工
・農地・農家の多様化を図る
 - 下水道の早期実現
・町立病院のサードビル
・分庁による子供教室の活用
(遊園・出前美術館)
・中学校は町内に一校でいいのか?
 - 町内の道路を更に美しいものに
(歩道整備)
・自転車道の通行問題
・バリアフリー化
・電柱が多い
・電柱のダイヤが少ない
・駅前から駐輪スペースを確保
・交通の利便性が悪い(実際の駅前周辺のサービスポイント)
・生活道路の整備が必要
・バス路線が少ない
・全体の道路計画を考慮していく必要がある
 - 企業の人材をまちづくり等に活用
安定した仕事場の創出
工業団地、商業団地の方向性を明確にする必要がある
水田の生産調整によって農地が荒廃
耕作放棄地が多い
長期に亘る行政指導が必要
浪岡町の特色がない、原動力として特微づくりを
制度的な能力がない、地元資源の活用方法を検討する場がない
環境施設が必要
・りんご、そばを主とした観光資源
・北島城の復元
・地元には観光資源はある

香川回廊
・整備がしているため、施設の整備を
・駅から近く通勤に便利、目みやすい
・特に冬に清潔にする

工業団地により農地が
高い状態になっている
・低賃金が多い
・所得対策が必要

公園広場の整備
・現状の基本的な整備を維持
・道路が狭い

計画的な公園整備が必要
・車庫が多い
・ハイバスの早期整備

ゴミ処理の問題
不法投棄・環境保全

計画的な公園整備が必要

交通の早期実現
町立病院のサードビル
分庁による子供教室の活用
(遊園・出前美術館)
中学校は町内に一校でいいのか?

住宅地、居住環境などに
関すること

商業地、中心市街地の賑わい
などに関すること

工業地などに関すること

公園、緑地、水辺環境などに
関すること

河川、水田・栗樹園、農林業
などに関すること

公共的な施設などに関すること
道路、鉄道などの交通施設に
関すること

工地上に該当しないその他の

町役場

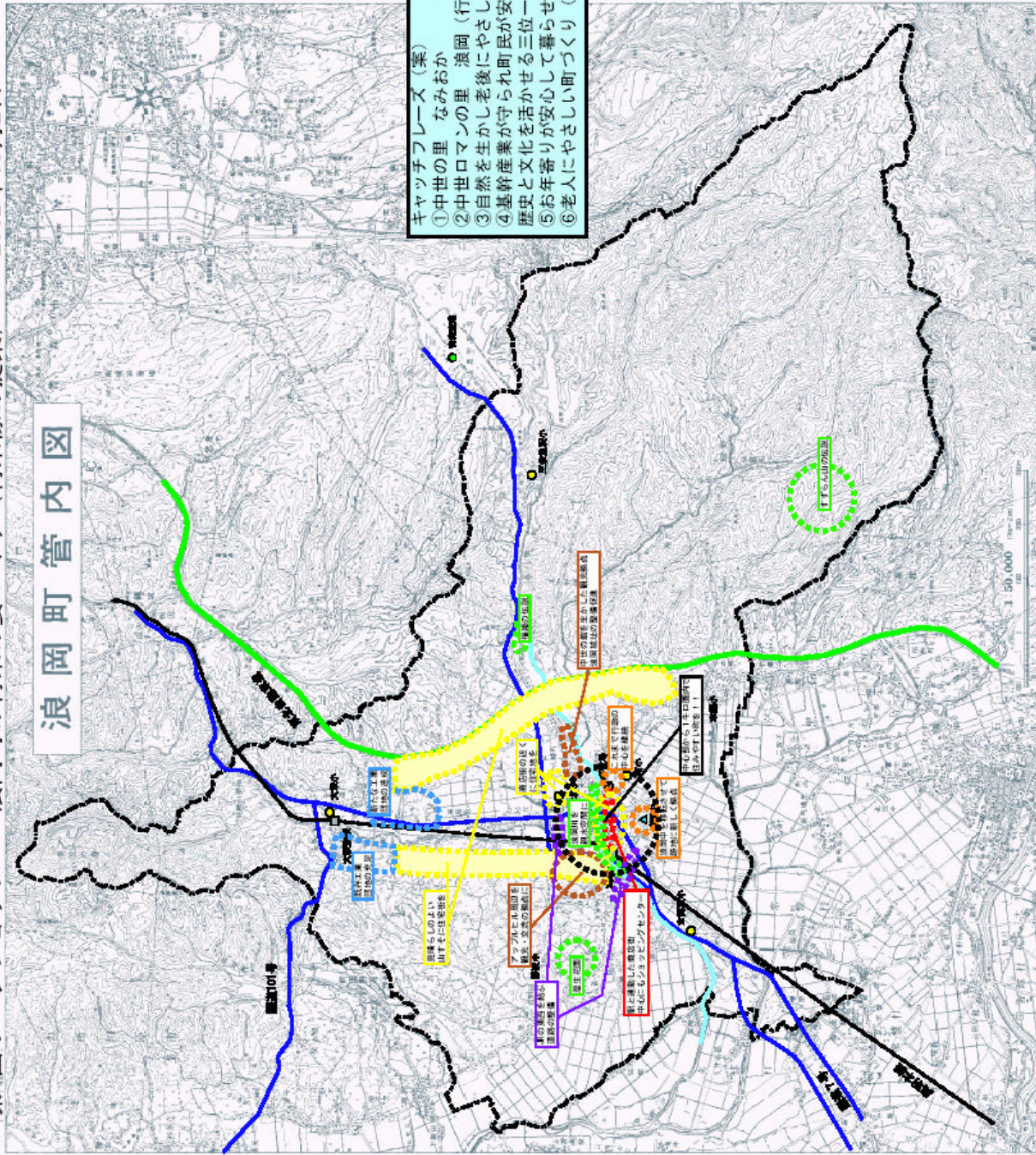
小学校

中学校

空港

1 班

- 佐藤 道留
工藤 清隆
長谷川 さなえ
津川 重義
藤森 茂
浅利 敬子



浪岡町管内図

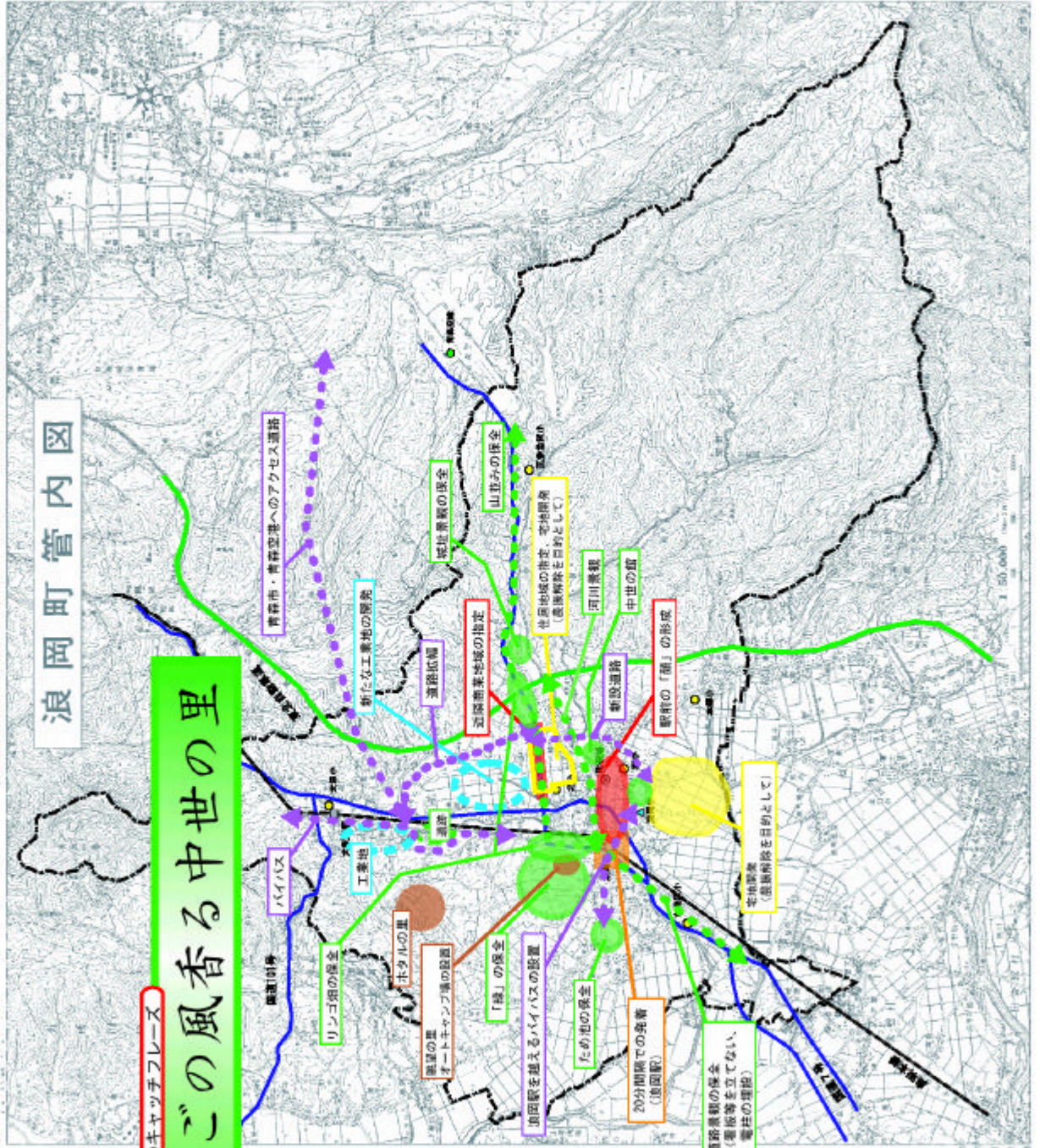
キャッチフレーズ（案）
① 中世の里 なみおか 浪岡（行丘）をまちづくり
② 中世ロマンの里 老後にやさしい町づくり
③ 自然を生かし 歴史と文化を活かせる三位一体の町づくり
④ 基幹産業が守られ 町民が安心して暮らせるまちづくり
⑤ お年寄りが安心して暮らせるまちづくり
⑥ 老人にやさしい町づくり（町民に親しみやすい町）



- 住宅地、居住環境などに關すること
- 商業地、中心市街地の賑わいなどに關すること
- 工業地、産業・業種などに關すること
- 公園・緑地、水辺、レクリエーションなどに關すること
- 生活利便施設、公益的な施設などに關すること
- 観光、地域内外の交流に關すること
- 道路、鉄道などのネットワークに關すること
- 上記に該当しないその他

- 凡例
- 町役場
 - 小学校
 - ▲ 中学校
 - 空港

浪岡町都市計画マスタープラン
 第3回ワークショップ～浪岡町の将来の姿づくり(将来像の提案)～ 2002年10月2日



2 班
 石山 桜 浪岡町建設課
 沢内 庭 渡辺 若手有志
 映春 清
 夫男 吾



まちづくりのキャッチフレーズ
りんごの風香る中世の里

凡例

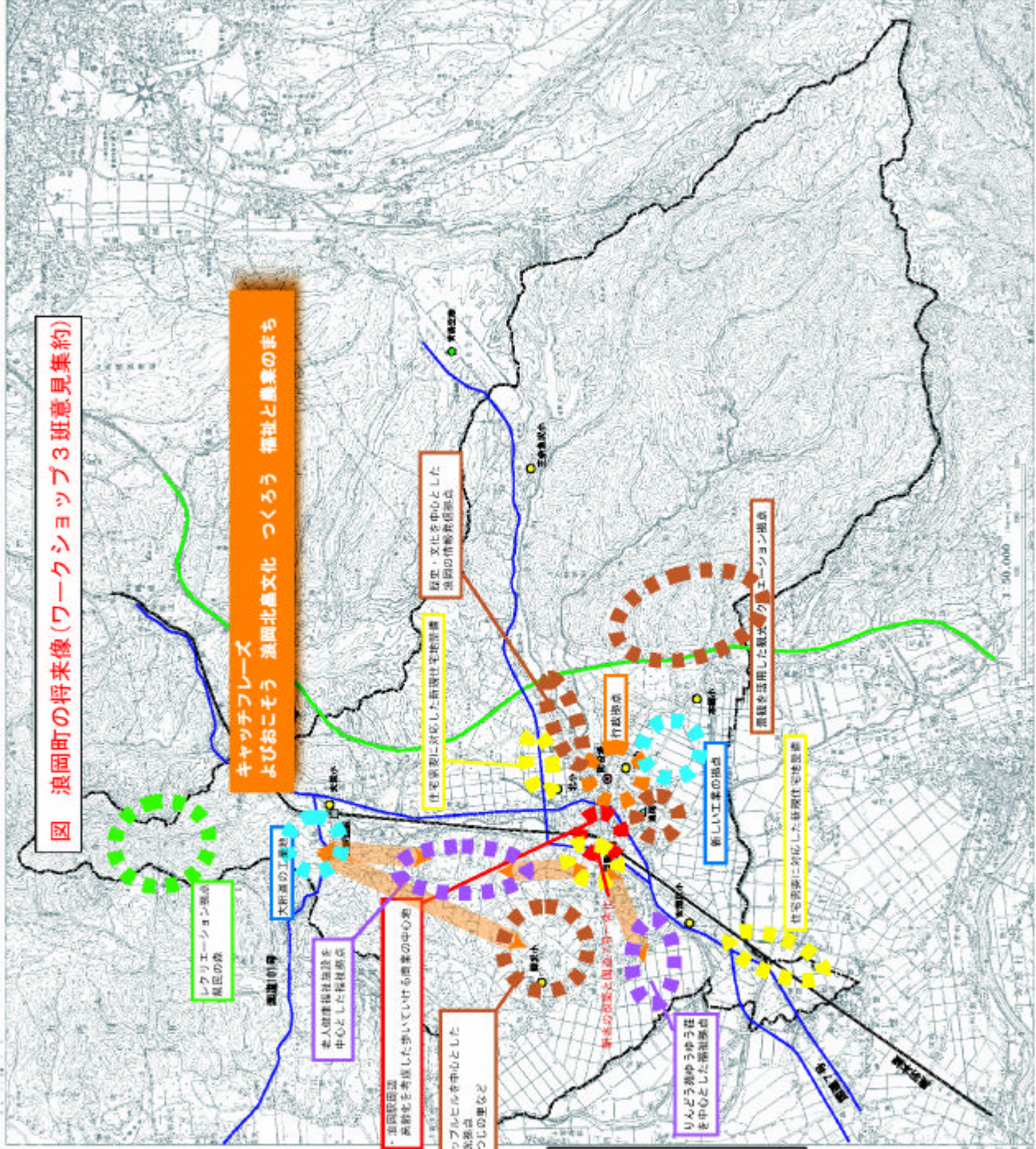
生活圏、居住環境などに 関すること	商業地、中心市街地の賑わい などに関すること	工業地などに関すること	交通・緑地、水辺、レクリ エーションなどに関すること	観光、地域内外の交流に 関すること	生活利便性、公共的な施設 などに関すること	道路、鉄道などの交通施設に 関すること	上記に該当しないその他の 種
黄色	赤	青	緑	白	オレンジ	紫	黒

凡例

町役場	小学校	中学校	空港
●	○	△	◇

班 雄 義 雄 美 敏
 茂 克 三 福 晃 敏
 3 木 田 井 谷 俣 田
 佐 藤 永 新 猪 山

図 浪岡町の将来像(ワークショップ3班意見集約)



凡例

- 住宅地、居住環境などに
関すること
- 商業地、中心市街地の賑わい
などに関すること
- 工業地などに関すること
- 公園・緑地、水辺環境などに
関すること
- 緑・水田・果樹園、農業
などに関すること
- 公営的な施設などに関すること
- 道路、鉄道などの交通機関に
関すること
- 上記に該当しないその他

凡例

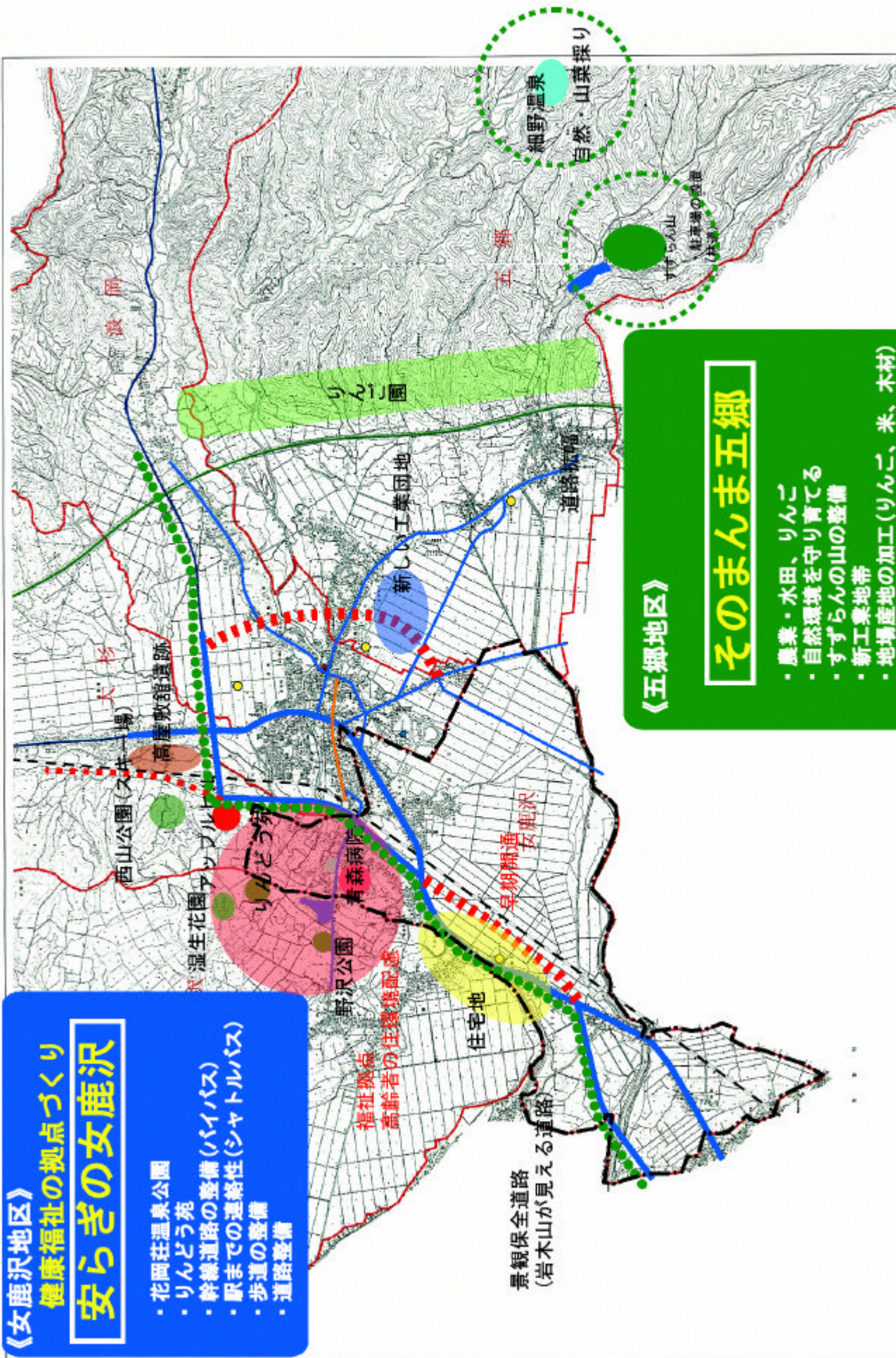
- 町役場
- 小学校
- 中学校
- 空港

《女鹿沢地区》

健康福祉の拠点づくり

安らぎの女鹿沢

- ・ 花岡荘温泉公園
- ・ りんどう苑
- ・ 幹線道路の整備(バイパス)
- ・ 駅までの連絡性(シャトルバス)
- ・ 歩道の整備
- ・ 道路整備



景観保全道路
(岩木山が見える道路)

福祉拠点
高齢者の住環境配慮

住宅地

早期開通
女鹿沢

野沢公園

青森病院

りんどう苑

高層敷館遺跡

西山公園(スキー場)

高層敷館遺跡

高層敷館遺跡

高層敷館遺跡

高層敷館遺跡

高層敷館遺跡

《五郷地区》

そのまんま五郷

- ・ 農業・水田、りんご
- ・ 自然環境を守り育てる
- ・ すずらんの山の整備
- ・ 新工業地帯
- ・ 地場産地の加工(りんご、米、木材)
- ・ 細野温泉

